DENON

応用編

情報編

「各部の名前」
（☞71 ページ）

AV サラウンドレシーバー

AVR-1911

取扱説明書

- お買い上げいただき、ありがとうございます。
- ご使用の前にこの取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくご使用ください。
- お読みになった後は、いつでも見られるところに「保証書」・「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」と共に大切に保管してください。
- この製品は持ち込み修理対象製品です。
  出張修理をご希望される場合は、別途出張料をご請求させていただくことになりますので、あらかじめご了承願います。
  詳しくは、「保障と修理について」（☞84 ページ）をご覧ください。

ご使用になる前に

安全上のご注意

正しく安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずよくお読みください。

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その絵表示と意味は次のようになっています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例
図の中や近傍に具体的な禁止内容が描かれています。

感電注意

△記号は注意（危険・警告を含む）を促す内容があることを告げるものです。

分解禁止

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。

電源プラグをコンセントから抜け

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。

⚠警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

電源プラグをコンセントから抜く

万一異常が発生したら、電源プラグをすぐに抜く

- 煙や異臭、異音が出たとき
- 落としたり、破損したりしたとき
- 機器内部に水や金属類、燃えやすいものなどが入ったとき

そのまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに本体と接続している機器の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、安全を確認してから販売店にご連絡ください。
お客様による修理などは危険ですので絶対におやめください。

必ず実施

ご使用は正しい電源電圧で

表示された電源電圧以外で使用しないでください。
火災・感電の原因となります。

必ず実施

電源コードは大切に

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また、重いものをのせたり、加熱したり、引っ張ったりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。
電源コードが傷んだら、すぐに販売店に交換をご依頼ください。

必ず実施

電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着しているときは

電源プラグをコンセントから抜いて、乾いた布で取り除いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

火気禁止

火や炎を近づけない

本機の上でろうそくを灯す・タバコの灰皿を使用するなどの火や炎の発生しているものを置かないでください。
火災の原因になります。

禁止

内部に水などの液体や異物を入れない

機器内部に水などの液体や金属類、燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。
火災・感電の原因となります。
特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

水ぬれ禁止

水滴や水しぶきのかかるところに置かない

雨天・降雪中・海岸・水辺での使用は特にご注意ください。
水がかかったり、濡れた状態で使用すると火災、感電の原因になります。

分解禁止

ねじを外したり、分解や改造したりしない

内部には電圧の高い部分がありますので、火災・感電の原因となります。
内部の点検・調整・修理は販売店にご依頼ください。

接触禁止

雷が鳴り出したら

機器や電源プラグには触れないでください。
感電の原因となります。

接触禁止

高温注意

使用中、使用直後に高温となる部分には触らない

使用中、使用直後は上面や高温注意マークの付近には触れないでください。
機器の放熱のために高温となっており、触れた場合にやけどをする恐れがあります。

禁止

乾電池は充電しない

電池の破裂・液漏れにより、火災・けがの原因となります。

水場での使用禁止

風呂・シャワー室では使用しない

火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

この機器の上に花瓶・植木鉢・コップ・化粧品・薬品や水などが入った容器、および小さな金属物を置かない

こぼれたり、中に入ったりした場合、火災・感電の原因となります。

⚠注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が軽傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

注意

禁止

付属の電源コードを使用する

他の機器の電源コードを本機に使用しないでください。
また、付属の電源コードは本機以外には使用しないでください。
電流容量などの違いにより火災・感電の原因となることがあります。

必ず実施

禁止

電源コードは確実に接続し、束ねたまま使用しない

電源コードを接続するときは接続口に確実に差し込んでください。差し込みが不完全な場合、火災・感電の原因となることがあります。
根元まで差し込んでもゆるみがあるコンセントには接続しないでください。その場合、販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。
また、電源コードは束ねたまま使用しないでください。発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

電源コードを熱器具に近付けない

コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

禁止

電源プラグを抜くときは

電源コードを引っ張らずに必ずプラグを持って抜いてください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

ぬれ手禁止

濡れた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜く

すぐにコンセントから電源プラグを抜くことができるように設置する

電源のスイッチを切ってもコンセントからは完全に遮断されていません。
万一の事故防止のため、本機をコンセントの近くに置き、すぐにコンセントから電源プラグを抜くことができるようにしてください。

必ず実施

機器の接続は説明書をよく読んでから接続する

テレビ・オーディオ機器・ビデオ機器などの機器を接続する場合は、電源を切り、各々の機器の取扱説明書に従って接続してください。
また、接続には指定のコードを使用してください。指定以外のコードを使用したり、コードを延長したりすると発熱し、やけどの原因となることがあります。

必ず実施

電源を入れる前には音量を最小にする

突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。

禁止

長時間音が歪んだ状態で使用しない

スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

必ず実施

禁止

電池を交換するときは

- 極性表示に注意し、表示通りに正しく入れる
- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない

間違えると電池の破裂・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

禁止

ヘッドホンを使用するときは音量を上げすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

禁止

不安定な場所に置かない

ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所に置かないでください。落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

次のような場所には置かない

火災・感電の原因となることがあります。

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるようなところ
- 湿気やほこりの多いところ
- 直射日光の当たるところや暖房器具の近くなど高温になるところ

必ず実施

壁や他の機器から少し離して設置する

放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面や背面から少し隙間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

禁止

通風孔をふさがない

内部の温度上昇を防ぐため、通風孔が開けてあります。次のような使いかたはしないでください。内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。

- あお向けや横倒し、逆さまにする
- 押し入れ・専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い場所に押し込む
- テーブルクロスをかけたり、じゅうたん・布団の上に置いたりして使用する

禁止

この機器に乗ったり、ぶら下がったりしない

特に幼いお子様のいるご家庭では、ご注意ください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

禁止

重いものをのせない

機器の上に重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下したりして、けがの原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜く

移動させるときは

まず電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外してからおこなってください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

電源プラグをコンセントから抜く

長期間の外出・旅行のとき、またはお手入れのときは

安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災・感電の原因となることがあります。

注意

5 年に一度は内部の掃除を

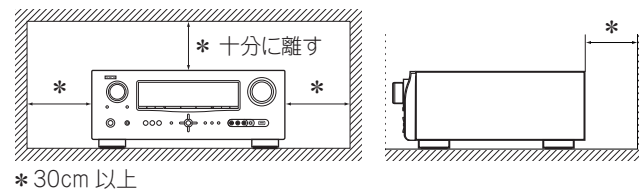
販売店などにご相談ください。内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。
特に、湿気の多くなる梅雨期の前におこなうと、より効果的です。なお、内部の掃除費用については販売店などにご相談ください。

目次

使用上のご注意

設置について

本機内部の放熱を良くするために、壁や他の機器との間は、十分に離して設置してください。

＊30cm 以上

携帯電話使用時のご注意

本機の近くで携帯電話をご使用になると、雑音が入る場合があります。携帯電話は本機から離れた位置で使用してください。

お手入れについて

- キャビネットや操作パネル部分の汚れは、柔らかい布で軽く拭き取ってください。化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。
- ベンジンやシンナーなどの有機溶剤および殺虫剤などが本機に付着すると、変質や変色の原因になりますので使用しないでください。

結露（つゆつき）について

本機を寒いところから急に暖かいところに移動させたり、本機を設置した部屋の温度を暖房などで急に上げたりすると、内部（動作部）に水滴が付くことがあります（結露）。結露したまま本機を使用すると、正常に動作せず、故障の原因となることがあります。結露した場合は、本機の電源を切ったまま 1〜2 時間放置してから使用してください。

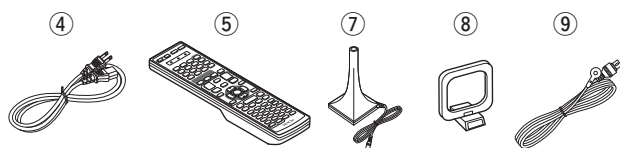
ステレオ音のエチケット

- 隣近所への配慮（おもいやり）を十分にいたしましょう。
- 特に静かな夜間は、小さな音でも通りやすいものです。夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。

付属品を確認する

ご使用の前にご確認ください。

① 取扱説明書（本書）..1
② 保証書（梱包箱に貼り付けています）...................................1
③ 製品のご相談と修理･サービス窓口のご案内 1
④ 電源コード【本機専用】（長さ：約1.7m）..........................1
⑤ リモコン（RC-1146）...1
⑥ 単3形乾電池...2
⑦ セットアップマイク
（DM-A409、コードの長さ：約6m）...............................1
⑧ AMループアンテナ 1
⑨ FM室内アンテナ 1

④ ⑤ ⑦ ⑧ ⑨

本書について

❑操作説明のボタンについて

本書の操作説明は、リモコンの操作ボタンをメインに説明しています。

❑マークについて

☞ このマークは、関連情報を記載している参照先のページをあらわします。

このマークは、補足説明や操作上のアドバイスをあらわします。

ご注意 このマークは、操作時に留意していただきたい注意点や、機能の制約などをあらわします。

❑イラストについて

本書に使用しているイラストは、取り扱い方法を説明するためのもので実物と異なる場合があります。

本機の特長

ディスクリート回路構成による全 7 チャンネル同一クオリティーのパワーアンプ搭載（実用最大出力 140W、6 Ω）

本機には、オリジナル音源を忠実にサラウンド再生するために、全チャンネルに同一のクオリティーと同一のパワーを持つパワーアンプを搭載しています。
パワーアンプ回路には、ディスクリート回路構成を採用することによって、高品位なサラウンド再生を実現しています。

HDMI Ver. 1.4a 対応（Ver. 1.4a、3D、ARC、Deep Color、x.v.Color、Auto Lipsync、HDMI コントロール機能対応）

本機は、ブルーレイディスクプレーヤーから入力する 3D 映像信号を、3D 対応テレビに出力することができます。また、本機とテレビ＊を接続している HDMI ケーブルを経由してテレビの音声を本機で再生する ARC（Audio Return Channel）機能にも対応しています。

＊ テレビも ARC 機能に対応していることが必要です。

さまざまなデジタル AV 機器を接続できる HDMI 端子を装備（入力：4 系統、出力 1 系統）

本機は、ブルーレイディスクプレーヤー、ゲーム、HD ビデオカメラなどの様々な HDMI 端子搭載機器との接続に対応するために、4 系統の HDMI 入力端子を装備しています。

ブルーレイディスクプレーヤーの HD オーディオに対応

本機には、ブルーレイディスクプレーヤーの音声フォーマットである Dolby TrueHD や DTS-HD Master Audio などの高品位デジタル音声フォーマットに対応したデコーダーを搭載しています。

音場の立体感を生み出す Dolby Pro Logic Ⅱz プロセッサー搭載

本機には Dolby Pro Logic Ⅱz デコーダーを搭載しています。本機にフロントハイトスピーカーを接続して Dolby Pro Logic Ⅱz 再生をおこなうことにより、より豊かな空間表現力を持った再生をお楽しみいただけます。

画面を見ながら各種設定ができるオン・スクリーン・ディスプレイ（OSD）

テレビの画面に表示する各種設定メニューを見ながら簡単に本機の設定がおこなえます。また、音量調節つまみを操作しているときは音量レベルを、入力ソースの切り替え操作時には入力ソース名をそれぞれ表示します。

お部屋とスピーカーの音響特性を最適化するオートセットアップ機能装備

本機には、お部屋の環境に最適なスピーカーの設定を自動的におこなう「Auto Setup 機能」を搭載しています。スピーカーから出力する音を付属の専用マイクが集音。お部屋の反響音や各スピーカーの音響特性を測定し、適切な音場を自動で設定します。

アナログ映像信号（SD 解像度）を 1080p(HD 解像度）の信号にアップスケーリングするデジタルビデオプロセッサー搭載

本機には、本機に入力されるアナログ映像信号を 1080p（HD 解像度）信号にアップスケーリングして HDMI 端子からテレビに出力できる「HDMI ビデオアップスケーリング機能」を搭載しています。これにより本機とテレビの接続が HDMI ケーブル 1 本で済むだけでなく、どの映像ソースでも HD 画質に迫る精細な映像を再現することができます。

iPhone® や iPod® の再生に対応した USB 端子搭載

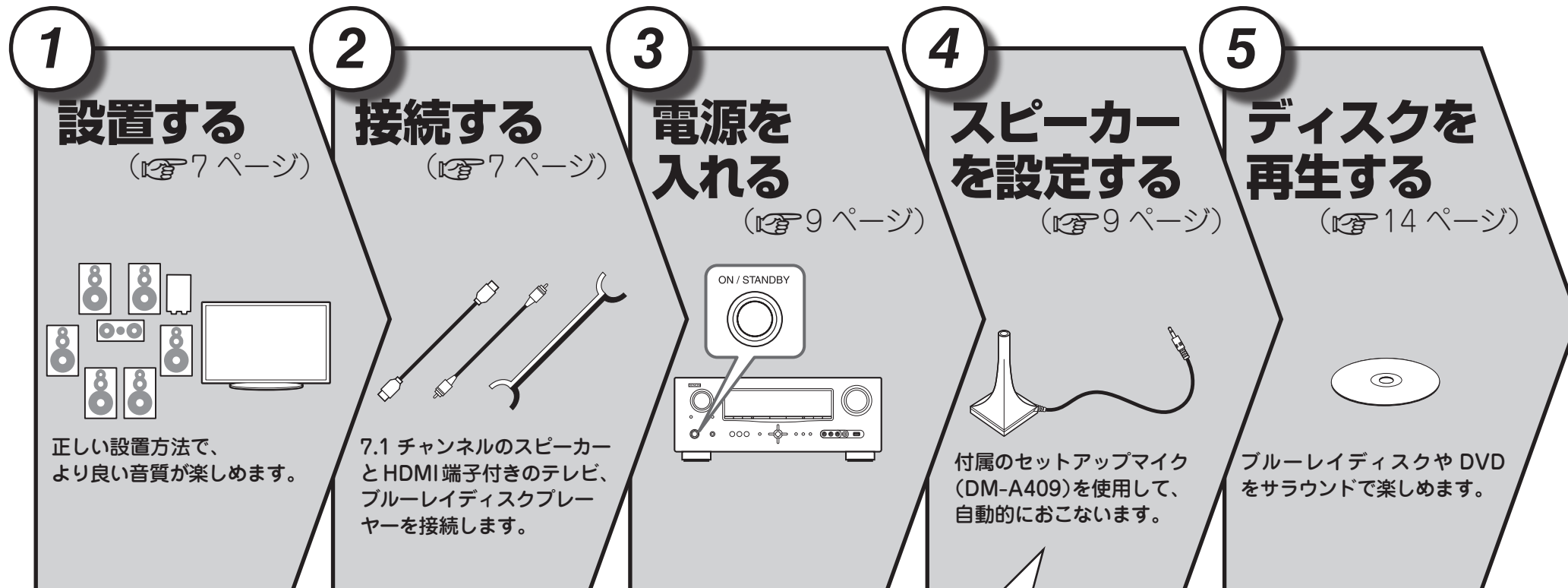
本機の USB 端子に、iPod に付属の専用 USB ケーブルを接続することで、iPod の再生や、本機のリモコンで iPod を操作することができます。
また、iPod が接続された状態で、本体またはリモコンの **iPod PLAY** ボタンを押すと、すぐに iPod の音楽を再生することができます。

Simple version

入門編（かんたんセットアップガイド）

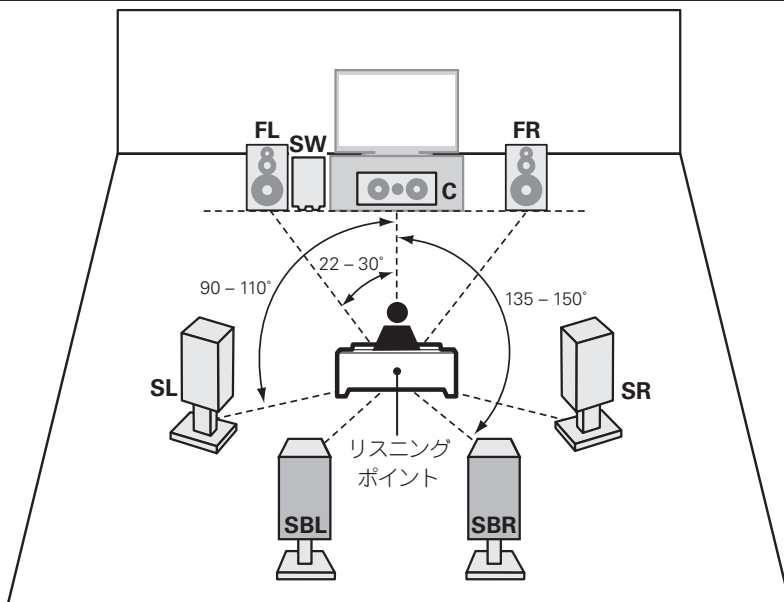
ここでは、ホームシアターを簡単にお楽しみいただくための手順を説明しています。
「入門編」ではサラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネルの設置 / 接続 / 設定方法を説明しています。
サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネル以外の設置 / 接続 / 設定方法については、34 ページをご覧ください。

❑ **接続するときは、各機器の電源を切ってください。**

❑ **接続する各機器の取扱説明書もご覧ください。**

1 設置する

①②③④⑤

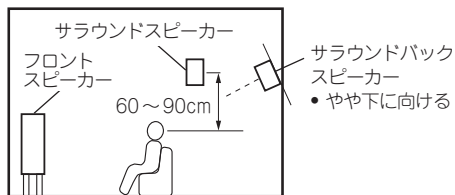
本機では、2.0/2.1 ～ 7.1 チャンネルのサラウンド再生ができます。このページでは、サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネル再生のスピーカー設置を例に説明しています。

本機のお買い上げ時の設定は、7.1 チャンネルです。
5.1 チャンネルで再生することもできます。5.1 チャンネルで再生する場合は、5.1 チャンネルのスピーカーのみ接続してください。
本機の Audyssey Auto Setup で、接続しているスピーカーの本数を検出し、ご使用になるスピーカーに最適な設定を自動的におこないます。

FL　フロントスピーカー（L）
FR　フロントスピーカー（R）
C　センタースピーカー
SW　サブウーハー
SL　サラウンドスピーカー（L）
SR　サラウンドスピーカー（R）
SBL　サラウンドバックスピーカー（L）
SBR　サラウンドバックスピーカー（R）

- サラウンドスピーカーは、耳の高さより 60 ～ 90cm 高い位置に設置することをおすすめします。

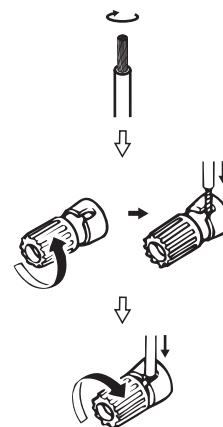
【側面から見た図】

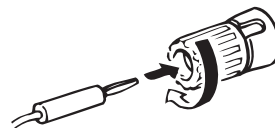
2 接続する

①②③④⑤

スピーカー

本機と接続するスピーカーの左チャンネル（L）、右チャンネル（R）、＋（赤）、－（黒）をよく確認して、同じ極性を接続してください。

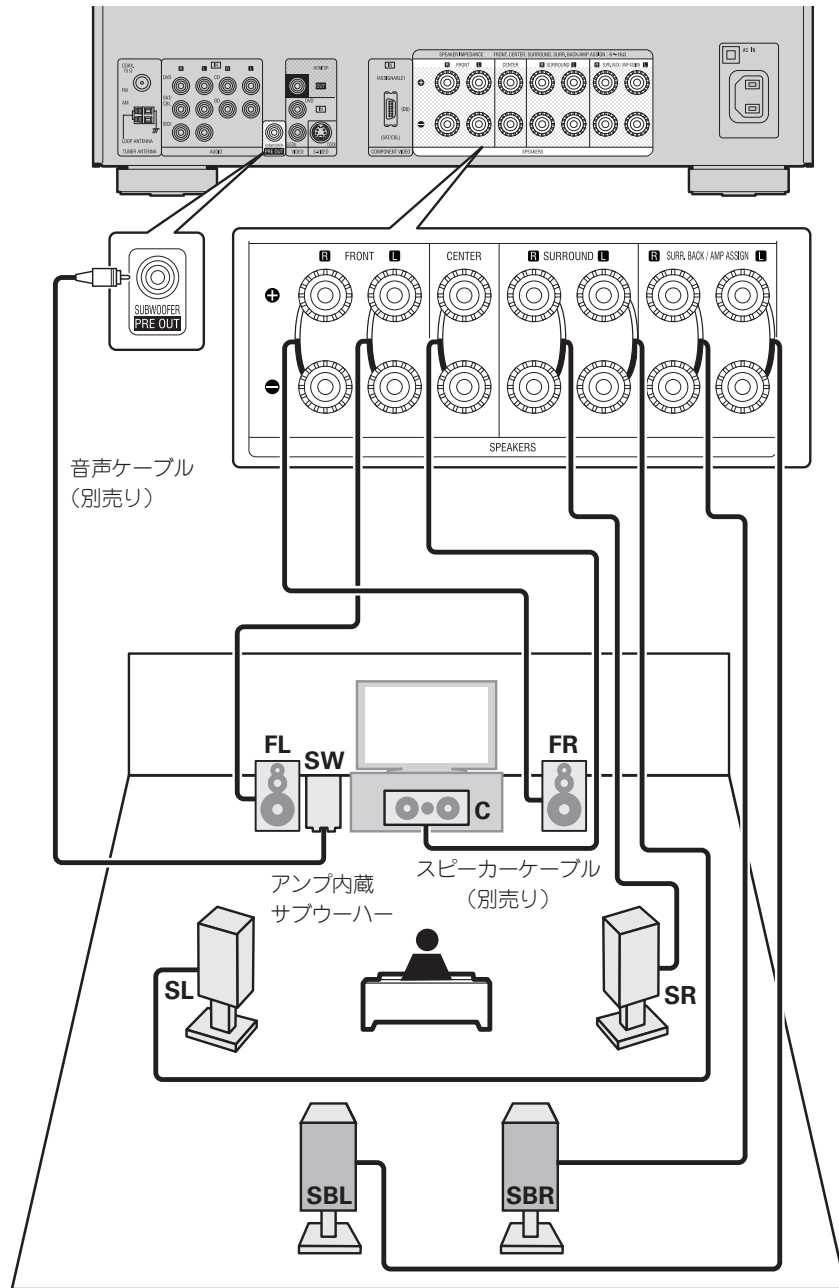
スピーカーケーブルを接続する

スピーカーケーブル先端の被覆を 10mm 程度はがし、芯線をしっかりよじるか、端末処理をおこなう。

バナナプラグをご使用になる場合

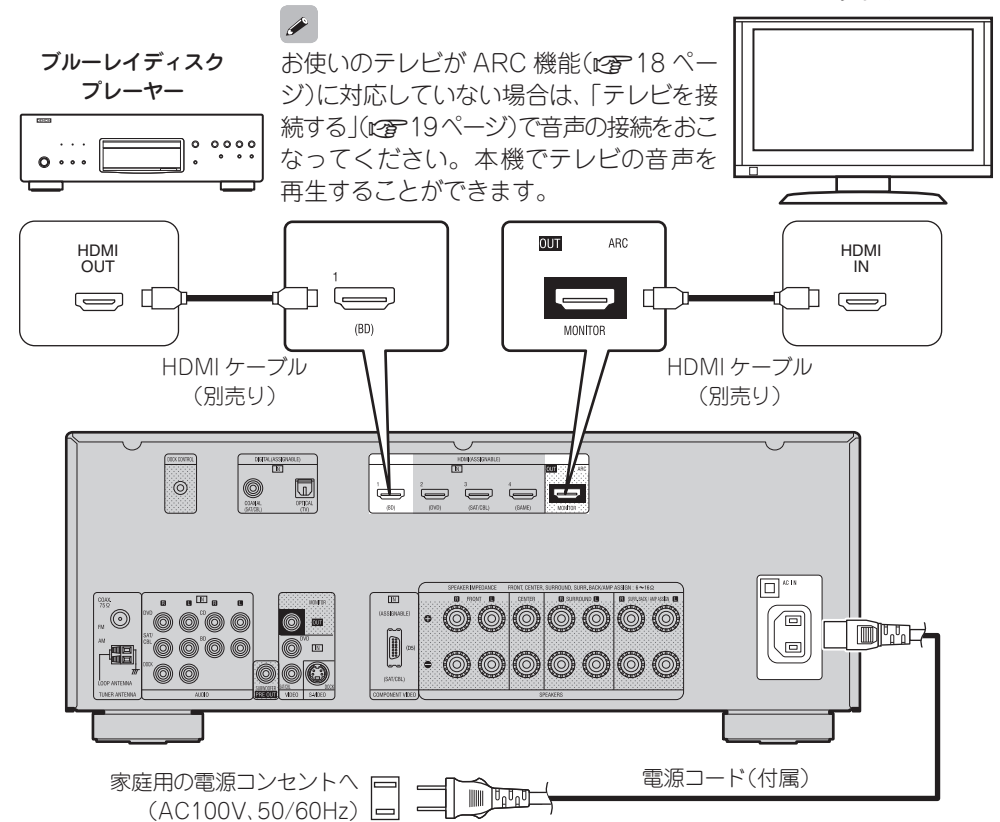
スピーカー端子を右に回してしめてから、バナナプラグを差し込む。

ご注意

- スピーカーケーブルの芯線が、スピーカー端子からはみ出さないように接続してください。芯線がリアパネルやねじに接触したり、＋側と－側が接触したりすると、保護回路が動作します（☞81 ページ「保護回路」）。
- 通電中は、絶対にスピーカー端子に触れないでください。感電する場合があります。
- 次のインピーダンスのスピーカーをご使用ください。

ご使用になるスピーカー端子	スピーカーインピーダンス
FRONT	6～16 Ω
CENTER	
SURROUND	
SURR. BACK / AMP ASSIGN	

「入門編」では、サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネルの設置 / 接続 / 設定方法を説明しています。
サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネル以外の設置 / 接続 / 設定方法については、34 ページをご覧ください。

ブルーレイディスクプレーヤーとテレビ

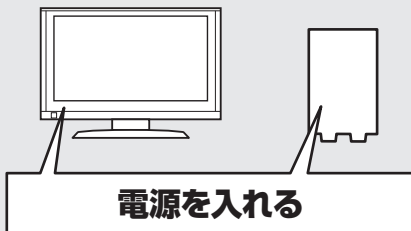
HDMI（High-Definition Multimedia Interface）ケーブルは、HDMI ロゴのついたケーブル（HDMI 認証品）を使用してください。HDMI ロゴのないケーブル（HDMI 非認証品）を使用した場合、正しい再生ができないことがあります。
Deep Color または 1080p などの信号を伝送する場合は、高音質再生のために“イーサネット対応標準 HDMI ケーブル”または“イーサネット対応ハイスピード HDMI ケーブル”を使用してください。

お使いのテレビが ARC 機能（☞18 ページ）に対応していない場合は、「テレビを接続する」（☞19ページ）で音声の接続をおこなってください。本機でテレビの音声を再生することができます。

ご注意

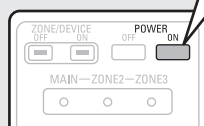
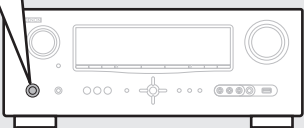
- **すべての接続が終わってから、電源コードを接続してください。**
- 接続ケーブルは、電源コードやスピーカーケーブルと一緒に束ねないでください。ハムや雑音の原因となることがあります。

「入門編」では、サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネルの設置 / 接続 / 設定方法を説明しています。
サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネル以外の設置 / 接続 / 設定方法については、34 ページをご覧ください。

3 電源を入れる

1 テレビとサブウーハーの電源を入れる。

2 本機から出力する映像がテレビに映るように、テレビの入力を切り替える。

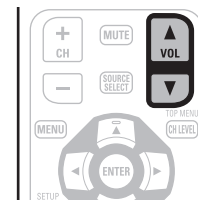
- 入力の切り替えかたは、テレビの取扱説明書をご覧ください。

3 **POWER ON を押して、本機の電源を入れる。**
電源表示が緑色に点滅して、電源が入ります。

4 スピーカーを設定する（Audyssey® Auto Setup）

接続されたスピーカーやリスニングルームの音響特性を測定し、最適な設定を自動的におこないます。この機能を"Audyssey Auto Setup"と呼びます。
測定は、リスニングエリア全体の複数の位置にセットアップマイクを設置しておこないます。
最善の結果を得るために､6 ポイントで測定することをおすすめします。

- Audyssey Auto Setup をおこなうと、MultEQ®/Dynamic EQ®/Dynamic Volume® の機能（☞55､56 ページ）が有効になります。
- 手動でスピーカーを設定したい場合は、メニューの"Speaker Setup"（☞58 ページ）でおこなってください。

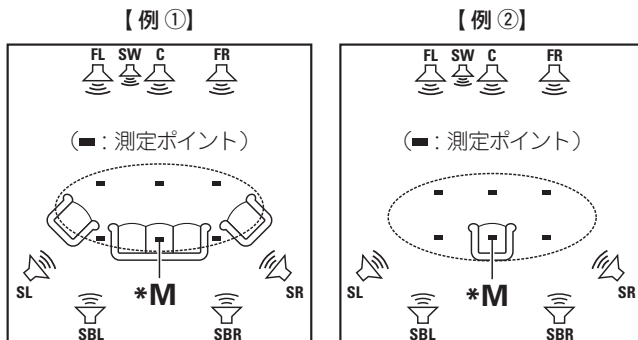
ご注意

- できるだけ部屋を静かにしてください。騒音は測定の妨げとなります。窓を閉め、電化製品（テレビ、ラジオ、エアコン、蛍光灯など）の電源を切ってください。測定の際、これらの騒音の影響を受ける場合があります。
- 測定中、携帯電話はリスニングルーム以外の場所に置いてください。携帯電話の電波が測定を妨げる原因になることがあります。
- セットアップマイクは､Audyssey Auto Setup が完了するまで、絶対に抜かないでください。
- 測定中は、スピーカーとセットアップマイクの間に立ったり、障害物を置いたりしないでください。正しい測定ができません。
- 測定中に大きなテストトーンを出力しますが、これは正常な動作です。リスニングルーム内の騒音が大きいほどテストトーンの音量が大きくなります。
- 測定中に **VOL ▲▼** を操作すると、測定を中止します。
- ヘッドホンを接続している場合、測定はできません。Audyssey Auto Setup をおこなう前に、ヘッドホンのプラグを抜いてください。

「入門編」では、サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネルの設置 / 接続 / 設定方法を説明しています。
サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネル以外の設置 / 接続 / 設定方法については､34 ページをご覧ください。

セットアップマイクの設置場所について

- 測定は、【例 ①】に示すようにリスニングエリア全体の複数の位置に付属のセットアップマイクを設置しておこないます。最善の結果を得るため、図のように 6 ポイントで測定することをおすすめします。
- リスニング環境が【例 ②】に示すように狭い場合でも、リスニングエリア全体の複数の位置で測定すると、より精度が高い設定ができます。

【例 ①】

【例 ②】

FL	フロントスピーカー(L)	SL	サラウンドスピーカー(L)
FR	フロントスピーカー(R)	SR	サラウンドスピーカー(R)
C	センタースピーカー	SBL	サラウンドバックスピーカー(L)
SW	サブウーハー	SBR	サラウンドバックスピーカー(R)

メインリスニングポイント(* M)について

メインリスニングポイントとは、最もリスナーが座る位置、または一人で視聴するときに座る位置です。Audyssey Auto Setup をはじめる前に、セットアップマイクをメインリスニングポイントに設置してください。Audyssey MultEQ® は、この位置から測定した値を用いて、スピーカーの距離、レベル、極性およびサブウーハーの最適なクロスオーバー周波数を計算します。

1 付属のセットアップマイクを準備する

セットアップマイクを三脚またはスタンドに取り付けて、メインリスニングポイントに設置する。

セットアップマイクを設置する場合は、受音部をリスニング時の耳の高さにあわせて調節してください。

ご注意

- セットアップマイクを手で持ちながら測定しないでください。
- セットアップマイクを座席の背もたれや壁の近くに置くと、音の反響で正しい測定ができない場合があります。

2 サブウーハーの設定をする

次の設定ができるサブウーハーをご使用の場合のみ、この設定をおこなってください。

❑ **ダイレクトモード機能があるサブウーハーの場合**

ダイレクトモード機能を “オン” に設定し、音量とクロスオーバー周波数の設定を無効にしてください。

❑ **ダイレクトモード機能がないサブウーハーの場合**

次のように設定してください。

- **音量の設定**：“12 時”の位置
- **クロスオーバー周波数の設定**：“最大 / 最高周波数”
- **ローパスフィルターの設定**：“オフ”
- **スタンバイモードの設定**：“オフ”

3 リモコンの設定をする

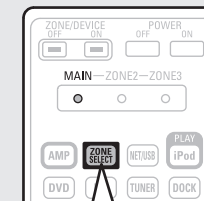
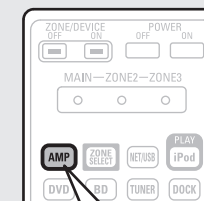
❑ **ゾーン操作モードの設定**

ZONE SELECT を押して、ゾーン操作モードを “MAIN”に切り替える。

リモコンのゾーン操作モード表示の“MAIN” が点灯します。

❑ **操作モードの設定**

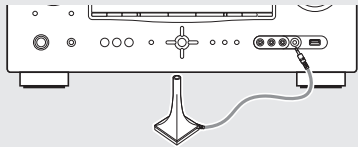
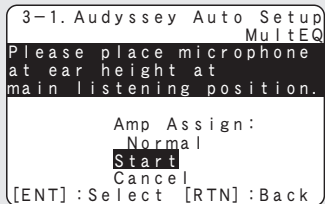
AMP を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。

「入門編」では、サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネルの設置 / 接続 / 設定方法を説明しています。
サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネル以外の設置 / 接続 / 設定方法については、34 ページをご覧ください。

準備

4 セットアップマイクを本体の SETUP MIC 端子に接続する。

セットアップマイクを接続すると、テレビに次のセットアップ画面を表示します。

```
3-1.Audyssey Auto Setup
                  MultEQ
Please place microphone
at ear height at
main listening position.

      Amp Assign:
       Normal
      Start
      Cancel
[ENT]:Select  [RTN]:Back
```

ここでは、サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネル再生の設定のしかたについて説明しています。サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネル以外の設定のしかたは、“Amp Assign”を選び、「スピーカーを設定する」(☞38ページ)の手順3と 4 の操作をおこなってください。

5 △▽ を押して“Start” を選び、ENTER を押す。

測定がはじまり、各スピーカーからテストトーンを出力します。

- 測定には数分間かかります。

“Cancel”を選択したとき

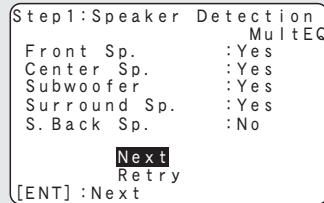
テレビ画面に“Cancel Auto Setup?”を表示します。“Yes”を選ぶと、“Audyssey Auto Setup”を終了します。

ステップ 1（Step 1）
スピーカー検出（Speaker Detection）

- Step 1 では、メインリスニングポイントの測定をします。
- ここでは、スピーカー接続の有無や大きさ、チャンネルレベル、距離およびクロスオーバー周波数を自動的に計算します。また、リスニングエリア内の音響歪みを補正します。

6 検出されたスピーカーを表示します。

```
Step1:Speaker Detection
                   MultEQ
 Front Sp.        :Yes
 Center Sp.       :Yes
 Subwoofer        :Yes
 Surround Sp.     :Yes
 S.Back Sp.       :No

            Next
            Retry
[ENT]:Next
```

ご注意

接続しているスピーカーが表示されない場合は、スピーカーが正しく接続されていないことが考えられます。スピーカーの接続を確認してください。

7 △▽ を押して“Next” を選び、ENTER を押す。

ご注意

テレビ画面に“Caution!”が表示された場合は、「エラーメッセージについて」(☞13 ページ）をご覧ください。関連する項目を確認し、必要な対処をおこなってください。問題点を処理した後、再び“Audyssey Auto Setup”をおこなってください。

再び Audyssey Auto Setup をおこなうとき

△▽ を押して“Retry”を選び、**ENTER** を押す。

測定を中止するとき

① △▽を押して“Cancel”を選び、**ENTER**を押す。
② ◁ ▷を押して“Yes”を選び、**ENTER**押す。

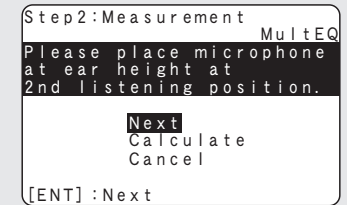
再度スピーカーを設定するとき

準備 の手順 4 以降の操作をおこなってください。

ステップ 2（Step 2）
測定（Measurement）

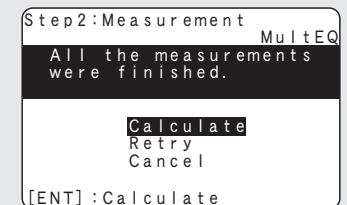
- Step 2 では、メインリスニングポイント以外の複数のポイント（2～6 ポイント）を測定します。
- 複数のポイントを測定すると、リスニングエリア内の音響歪みの補正精度をより高くすることができます。

8 2 ポイント目にセットアップマイクを移動させ、△▽ 押して“Next”を選び、ENTER を押す。

2 ポイント目の測定をはじめます。 最大6箇所まで測定できます。

次のポイント以降の測定を省略する場合は、“Calculate”を選んでください。
（Step 3 Calculating へ進みます。）

9 手順 8 をくり返して、3～6 箇所のポイントを測定する。

6 ポイント目の測定が完了すると、“All the measurements were finished.”を表示します。

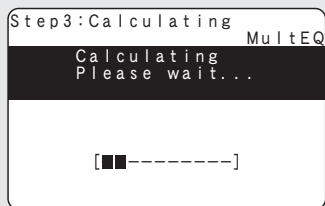
リモコンの操作ボタン	カーソルを移動する（上 / 下 / 左 / 右）	ENTER 設定を確定する	RETURN ひとつ前のメニューに戻る

ステップ3（Step 3）
解析（Calculating）

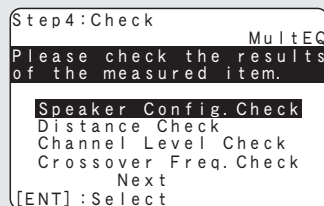
ステップ4（Step 4）
解析結果（Check）

ステップ5（Step 5）
保存（Store）

完了

10 **Step 2 の画面で △▽ を押して“Calculate” を選び、ENTER を押す。**

測定結果を自動的に解析し、リスニングルームにおける各スピーカーの特性を決定します。

- 解析には数分間かかります。解析時間は、接続されたスピーカーの数と測定ポイント数に依存します。
  接続するスピーカーの数と測定ポイント数が多くなるほど、解析に要する時間は長くなります。

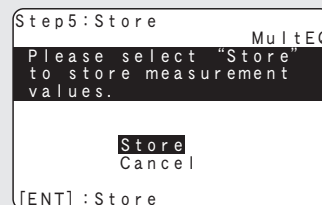
11 **△▽ を押して確認したい項目を選び、ENTER を押す。**

- サブウーハーなどでは、実際の距離と異なる値に設定される場合があります。
- 他の項目を確認したいときは、**RETURN** を押してください。

12 **△▽ を押して“Next” を選び、ENTER を押す。**

ご注意

- 接続している状態と異なる結果や“Caution!” が表示された場合は、「エラーメッセージについて」（☞13ページ）をご覧ください。その後、再度 Audyssey Auto Setup をおこなってください。
- 再測定後も、接続している状態と異なる結果やエラーメッセージが表示された場合は、接続を間違えている可能性があります。必ず本機の電源を切り、スピーカーの接続を確かめ、最初から測定をやり直してください。
- スピーカーの位置や向きを変えた場合は、最適なイコライザーの補正を得るために、再び Audyssey Auto Setup をおこなってください。

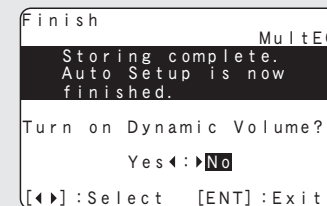
13 **△▽ を押して“Store” を選び、ENTER を押す。**

測定結果を保存します。

- 保存には 10 秒程度かかります。
- 測定結果を保存しない場合は、△▽ で“Cancel” を選んだ後、◁ ▷ で“Yes” を選んでください。すべての Audyssey Auto Setup の測定結果を消去します。

ご注意

測定結果の保存中は、絶対に電源を切らないでください。

14 **本体の SETUP MIC 端子からセットアップマイクを抜く。**

15 **Dynamic Volume® の設定をする。**

- Dynamic Volume設定の詳細については、56ページをご覧ください。

❏ Dynamic Volume の設定をするとき

- ◁ を押して“Yes”を選び、**ENTER** を押す。自動的に“Evening”モードになります。

❏ Dynamic Volume の設定をしないとき

- ▷ を押して“No”を選び、**ENTER** を押す。

ご注意

Audyssey Auto Setup をおこなった後に、スピーカーの接続やサブウーハーの音量を変更しないでください。変更した場合は、再び Audyssey Auto Setup をおこなってください。

エラーメッセージについて

スピーカーの設置や測定環境などにより、Audyssey® Auto Setup を完了できなかった場合に、エラーメッセージを表示します。エラーメッセージが表示された場合は、関連する項目を確認し、必要な対処をおこなってください。その後、再び“Audyssey Auto Setup”をおこなってください。

ご注意

スピーカーの接続を確認するときは、必ず電源を切ってください。

エラーメッセージ(例)	エラーの内容	エラーの処理方法
Caution MultEQ ●Microphone:None or Speaker :None Retry Cancel [ENT]:Retry	•接続しているセットアップマイクが壊れているか、付属以外のセットアップマイクを接続している。 •接続しているすべてのスピーカーが検出されない。 •フロントスピーカー(L)が正しく検出されない。	•付属のセットアップマイクを、本体の SETUP MIC 端子に接続してください。 •スピーカーの接続を確認してください。
Caution MultEQ ●Ambient noise is too high or Level is too low. Retry Cancel [ENT]:Retry	•部屋の騒音が大きいため、正しい測定ができない。 •スピーカーやサブウーハーの音量が小さいため、正しい測定ができない。	•騒音を発生する機器の電源を切るか、機器を遠ざけてください。 •周囲がより静かなときに再度おこなってください。 •スピーカーの設置や向きを確認してください。 •サブウーハーの音量を調節してください。
Caution MultEQ ◀ Front ▶ R :None Retry Cancel Skip [▲▼]:Up/Down [◀▶]:CH	•表示されたスピーカーが検出されない。	•表示されたスピーカーの接続を確認してください。
Caution MultEQ ◀ Front ▶ L :Phase Retry Cancel Skip [▲▼]:Up/Down [◀▶]:CH	•表示されたスピーカーの位相が逆である。	•表示されたスピーカーの極性を確認してください。 •スピーカーや部屋の環境によっては、正しく接続してもエラーメッセージが表示される場合があります。このような場合は、△▽を押して“Skip”を選び、**ENTER** を押してください。

パラメーターを確認する (Parameter Check)

Audyssey Auto Setup をおこなった後に、測定結果やイコライザーの種類を確認できます。

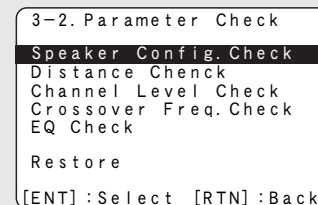
1 **△▽ を押して“Parameter Check”を選び、ENTER を押す。**

2 **△▽ を押して確認したい項目を選び、ENTER を押す。**

```
3-2.Parameter Check

Speaker Config.Check
Distance Chenck
Channel Level Check
Crossover Freq.Check
EQ Check

Restore

[ENT]:Select [RTN]:Back
```

Speaker Config. Check	スピーカーの構成を確認します。
Distance Check	スピーカーの距離を確認します。
Channel Level Check	スピーカーのチャンネルレベルを確認します。
Crossover Freq. Check	スピーカーのクロスオーバー周波数を確認します。
EQ Check	イコライザーの補正カーブを確認します。

- 手順 2 で、“EQ Check”を選んだ場合は、△▽ を押して確認したい補正カーブ(“Audyssey” または“Audyssey Flat”)を選んでください。
  ◁ ▷ を押すと、各スピーカーの表示を切り替えることができます。

3 **RETURN を押す。**
確認画面に戻ります。手順 2 をくり返しおこなってください。

Audyssey Auto Setup の設定値に戻すとき

“Restore”を“Yes”に設定すると、各設定を手動で変更した場合でも Audyssey Auto Setup の測定結果(MultEQ® が当初計算した値)に戻すことができます。

5 ディスクを再生する

1 BD を押して、再生するプレーヤーの入力ソースに切り替える。

2 本機と接続した機器を再生する。

あらかじめプレーヤーの設定(言語設定や字幕設定など)をおこなってください。

3 音量を調節する。

VOL ▲…………………………音量を上げる
VOL ▼…………………………音量を下げる
MUTE……………………………消音

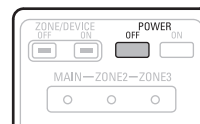
4 リスニングモードを設定する。

再生するコンテンツ(映画や音楽など)やお好みに合わせて、リスニングモードを選んでください(☞30ページ「リスニングモードを選ぶ(サラウンドモード)」)。

電源をスタンバイ状態にするとき

POWER OFF を押す。

【 スタンバイ時の電源表示 】

- 通常スタンバイ時：消灯
- メニューの"HDMI Control"設定(☞60ページ)が"ON"のとき：赤色

本体の **ON/STANDBY** を押しても、電源をスタンバイ状態にできます。

ご注意

電源がスタンバイ状態のときは、微量な電力を消費します。すべての電力を完全に遮断するときは、電源コードをコンセントから抜いてください。

リモコンの操作ボタン	△▽◁▷	カーソルを移動する(上 / 下 / 左 / 右)	ENTER	設定を確定する	RETURN	ひとつ前のメニューに戻る

Basic version

基本編

ここでは、本機の基本的な接続や操作方法について説明しています。

❑それぞれのメディアや外部機器の接続と再生のしかたは、以下のページをご覧ください。

音声および映像	接続のしかた	再生のしかた
テレビ	☞17、19 ページ	–
ブルーレイディスクプレーヤー	☞17、19 ページ	☞24 ページ
DVD プレーヤー	☞17、19 ページ	☞24 ページ
セットトップボックス（衛星チューナー / ケーブルテレビチューナー）	☞17、20 ページ	–
ゲーム機	☞17 ページ	–
ビデオカメラ	☞20 ページ	–
iPod 用コントロールドック	☞21 ページ	☞24 ページ
音声	**接続のしかた**	**再生のしかた**
iPod®	☞21 ページ	☞26 ページ
USB メモリー	☞21 ページ	☞29 ページ
CD プレーヤー	☞22 ページ	☞24 ページ
ラジオ	☞22 ページ	☞27 ページ

スピーカーの接続については、7 ページをご覧ください。

接続のしかた

知っておいてほしいこと

- **この取扱説明書では、対応するすべての音声信号方式や映像信号方式の接続方法を説明しています。接続する機器に合わせていずれかの接続方法を選んでください。**
- **接続方法によっては、本機の設定が必要なものもあります。詳しくは、各接続項目の説明をご覧ください。**
- **ご使用になる機器に合わせて、別売りのケーブルをご用意ください。**

ご注意

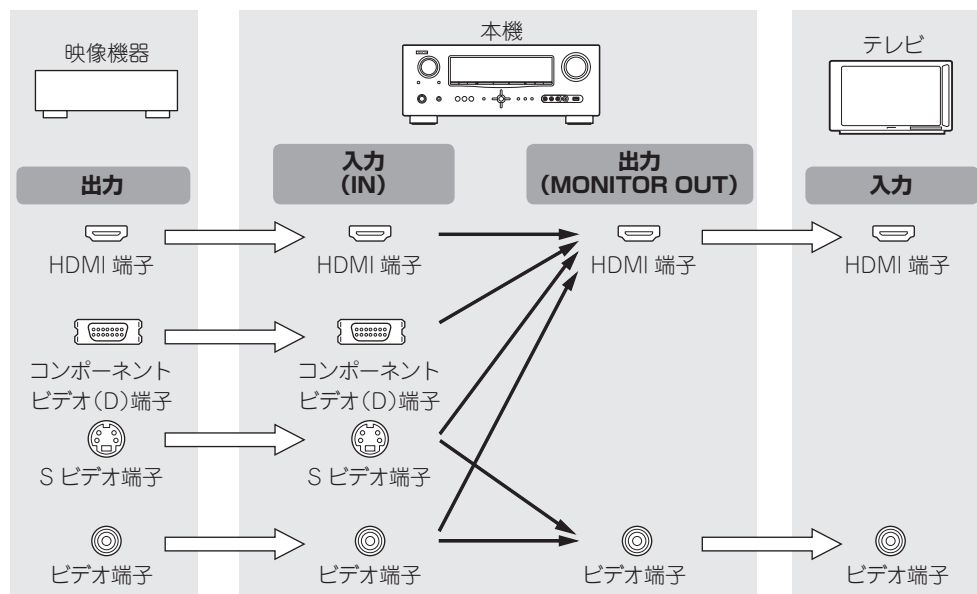
- すべての接続が終わるまで、電源プラグをコンセントに差し込まないでください。
- 接続する機器の取扱説明書も必ずお読みください。
- 左右のチャンネルを確かめてから、正しくLとL、RとRを接続してください。
- 接続ケーブルは、電源コードやスピーカーケーブルと一緒に束ねないでください。ハムや雑音の原因となることがあります。

入力された映像信号を変換して出力する（ビデオコンバージョン機能）

本機には4種類（HDMI、D端子、Sビデオ、ビデオ）の映像入力端子と2種類（HDMI、ビデオ）の映像出力端子があります。接続する機器に合わせて使用してください。
この機能は、本機に入力されたさまざまな方式の映像信号を、本機からテレビに出力する映像信号方式に自動的に変換して出力するものです。

【メインゾーンでの映像信号の流れ】

必要に応じて設定してください

映像信号の解像度を変更するときに設定します。
"Resolution"（☞50ページ）

- ビデオコンバージョン機能は、NTSC、PAL、SECAM、NTSC4.43、PAL-N、PAL-MおよびPAL-60のフォーマットに準拠しています。
- 本機のHDMI端子への映像入力信号の解像度は、メニューの"Resolution"（☞50ページ）で設定します。（1080pのHDMI信号と1080p コンポーネント信号は、解像度の設定に関係なく、1080pで出力します。）
- HDMI対応テレビの解像度は、"HDMI Monitor Information"（☞65ページ）で確認することができます。

ご注意

- HDMI信号をアナログ信号に変換することはできません。
- ゲーム機など特殊な映像信号を入力した場合、ビデオコンバージョン機能が動作しないことがあります。
- コンポーネントビデオ入力信号は、ビデオ信号には変換できません。

映像入力信号による画面表示のしかた

メニューや状態の画面表示のしかたは、本機に入力される映像信号の種類によって異なります。

❏HDMI 端子またはコンポーネント映像（D）端子から映像信号を入力しているとき

- **メニュー**：黒背景の画面に切り替わり、メニューを重ねて表示します *。
- **状態表示**：表示しません。

＊ 再生中の映像にメニューを重ねて表示したいときは、ビデオ端子にも同じ映像を入力してください。メニューを表示すると、映像端子から入力している映像に切り替わり、メニューを重ねて表示します。

❏ビデオ端子または S ビデオ端子から映像信号を入力しているとき

- **メニュー**：再生中の映像にメニューを重ねて表示します。
- **状態表示**：表示します。

画面表示の例

- メニュー画面

```
MENU

1. Audio Adjust
2. Information
3. Auto Setup
4. Manual Setup
5. Input Setup

[ENT]:Select
```

- 状態表示画面

入力ソース切り替え時

```
        [Auto]
IN   :DVD
MODE:STEREO
```

音量調節時

```
Master Volume -80.0dB
```

状態表示：入力ソースの切り替えや音量調節時、一時的に画面に操作状態を表示します。

HDMI 端子付きの機器を接続する

本機は HDMI 対応機器を 5 台まで接続できます。

HDMI 機能

本機は以下の HDMI 機能に対応しています。
- 高解像度映像信号
- 3D
- Deep Color（☞80 ページ）
- Auto Lip Sync（☞60 ページ）
- x.v.Color、sYCC601 color、Adobe RGB color、Adobe YCC601color（☞80、81 ページ）
- HD デジタルオーディオフォーマット
- ARC（Audio Return Channel）
- Content Type
- CEC（HDMI コントロール）

著作権保護システムについて

HDMI 接続を通して BD ビデオや DVD ビデオなどのデジタル映像と音声を再生するためには、プレーヤーとテレビ、プレーヤーと AV アンプなどの双方が HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection System）と呼ばれる著作権保護システムに対応している必要があります。HDCP はデータの暗号化と相手機器の認証からなるコピープロテクション技術です。本機は、HDCP に対応しています。
- HDCP に対応していない機器を接続した場合は、映像と音声を正しく出力しません。お手持ちのテレビやプレーヤーなどについては、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

HDMI ケーブルについて

- Deep Color 対応の機器を接続するときは、"ハイスピード HDMI ケーブル"または"イーサネット対応ハイスピード HDMI ケーブル"を使用してください。
- ARC 機能を使用するときは、HDMI1.4a 対応の"イーサネット対応標準 HDMI ケーブル"または"イーサネット対応ハイスピード HDMI ケーブル"で接続してください。

HDMI コントロール機能（☞39 ページ）

本機で外部機器を操作したり、外部機器から本機を操作することができます。

ご注意
- 接続する機器や設定によって、HDMI コントロール機能がはたらかない場合があります。
- HDMI コントロール機能に対応していないテレビやブルーレイディスクプレーヤー、DVD プレーヤーは操作できません。

3D 機能について

本機は、HDMI1.4a 規格の 3D（3 次元）映像信号の入力 / 出力に対応しています。3D 映像の再生には本機の他に、HDMI1.4a 規格の 3D 機能に対応しているプレーヤーとテレビが必要です。また、3D 映像をご覧いただくには、別売りの 3D メガネが必要です。

ARC（Audio return channel）機能について

HDMI 1.4a の ARC 機能では、テレビからの音声信号を HDMI ケーブル経由で伝送することができます。

ご注意

- ARC 機能は、メニューの“HDMI Control”設定（☞60 ページ）が“ON”のときに設定できます。
- ARC 機能に対応していないテレビと接続する場合は、HDMI ケーブルの他に音声ケーブルが必要になります。このときの接続方法は、「テレビを接続する」（☞19 ページ）をご覧ください。

Content Type 機能について

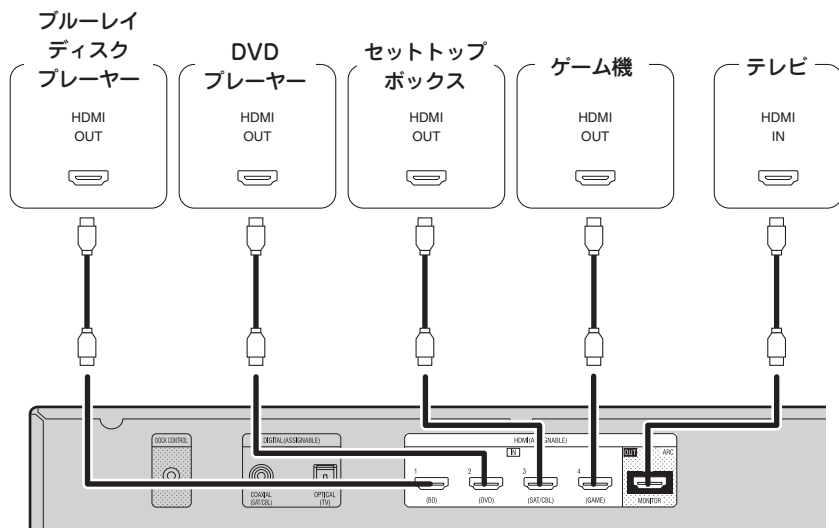
HDMI 1.4a 規格で追加された機能です。この機能は、出力映像に適した設定を自動でおこないます。

ご注意

Content Type 機能は、メニューの“Video Mode”設定（☞50 ページ）が“Auto”のときに動作します。

接続に使用するケーブル

音声＆映像ケーブル（別売り）	
HDMI ケーブル	

- デジタル映像信号とデジタル音声信号を HDMI ケーブル 1 本で伝送できるインターフェースです。

- 本機とプレーヤーを HDMI ケーブルで接続した場合は、本機とテレビも HDMI ケーブルで接続してください。
- Deep Color 対応の機器を接続するときは、“ハイスピード HDMI ケーブル”または“イーサネット対応ハイスピード HDMI ケーブル”を使用してください。
- プレーヤーの解像度は、テレビが対応している解像度に合わせてください。プレーヤーとテレビの解像度が合っていない場合、映像は出力されません。
- 本機とテレビを HDMI ケーブルで接続しても、テレビが HDMI 音声の再生に対応していない場合は、映像信号のみをテレビに出力します。

ご注意

HDMI 出力端子からの音声信号（サンプリング周波数、チャンネル数など）は、相手側の機器が入力できる HDMI 音声の仕様に制限されることがあります。

DVI-D 端子付きの機器に接続するとき

HDMI/DVI 変換ケーブル（別売り）をご使用になると、HDMI の映像信号を DVI 信号に変換して、DVI-D 端子付きの機器に接続することができます。

ご注意

- DVI-D 端子付きの機器と接続する場合、音声は出力されません。音声の接続をおこなってください。
- HDCP に対応していない DVI-D 機器には出力できません。
- 機器の組み合わせによって、映像が出力されない場合があります。

❑HDMI 接続に関する設定

必要に応じて設定してください。詳しくは、各参照ページをご覧ください。

Input Assign（☞49 ページ）

入力ソースに割り当てられている入力端子を変更するときに設定してください。

HDMI Setup（☞60 ページ）

HDMI の入出力信号に関する設定をします。

- Auto Lip Sync
- HDMI Audio Out
- HDMI Control
- Standby Source
- Power Off Control

ご注意

HDMI 入力端子から音声信号が入力された場合のみ、HDMI モニター出力端子から音声を出力します。

テレビを接続する

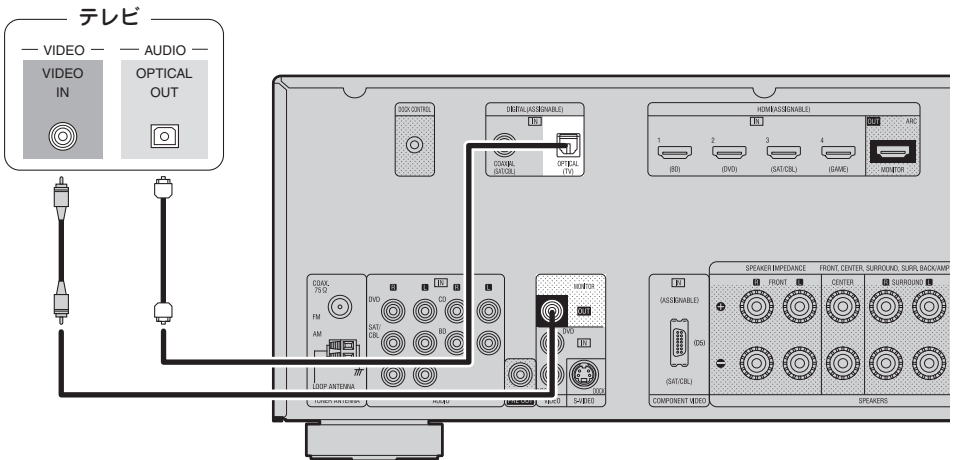
ご注意

本機に ARC（HDMI 1.4a 標準機能）対応のテレビを接続した場合、この接続は不要です。詳しくは、「ARC（Audio return channel）機能について」（☞18 ページ）またはテレビの取扱説明書をご覧ください。

- 接続する機器に合わせて端子を選び、接続してください。
- 映像機器を接続する際には、「入力された映像信号を変換して出力する（ビデオコンバージョン機能）」（☞16 ページ）をご覧ください。
- HDMI 接続のしかたは、「HDMI 端子付きの機器を接続する」（☞17 ページ）をご覧ください。

本機を通してテレビの音声を聞く場合は、デジタル出力端子（OPTICAL）に接続してください。

接続に使用するケーブル

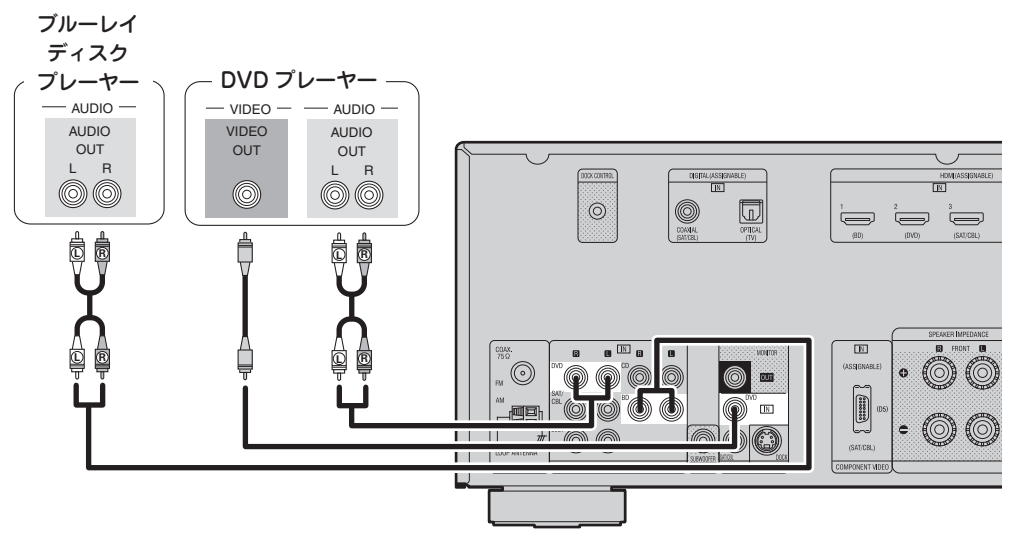
映像ケーブル（別売り）	
ビデオケーブル	（黄）
音声ケーブル（別売り）	
光伝送ケーブル	

必要に応じて設定してください

入力ソースに割り当てられているデジタル入力端子またはコンポーネントビデオ（D）入力端子を変更するときに設定します。
"Input Assign"（☞49 ページ）

ブルーレイディスクプレーヤーまたは DVD プレーヤーを接続する

- ブルーレイディスクや DVD の映像や音楽を楽しむことができます。
- 接続する機器に合わせて端子を選び、接続してください。
- HDMI 接続のしかたは、「HDMI 端子付きの機器を接続する」（☞17 ページ）をご覧ください。

接続に使用するケーブル

映像ケーブル（別売り）	
ビデオケーブル	（黄）
音声ケーブル（別売り）	
オーディオケーブル	（白） （赤）

必要に応じて設定してください

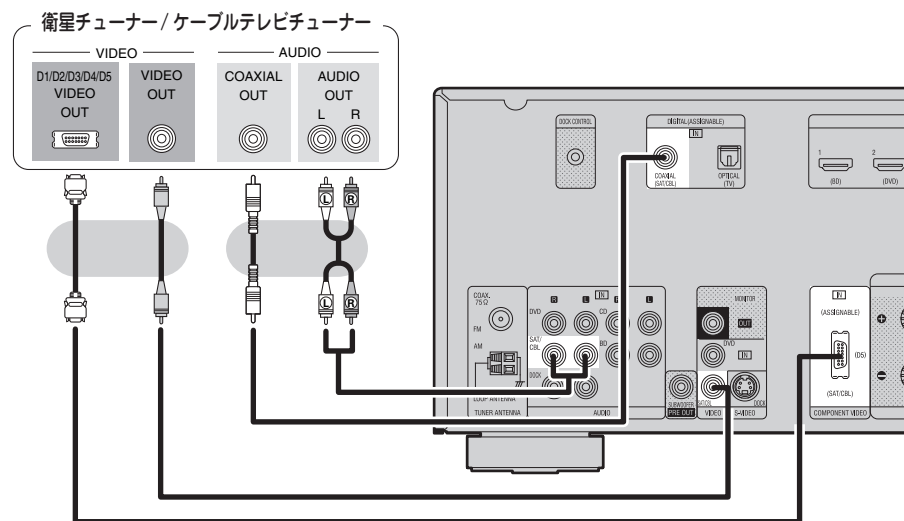
入力ソースに割り当てられているデジタル入力端子またはコンポーネントビデオ（D）入力端子を変更するときに設定します。
"Input Assign"（☞49 ページ）

HD オーディオ（Dolby TrueHD、DTS-HD、Dolby Digital Plus および DTS Express）を再生する場合は、HDMI で接続してください（☞17 ページ「HDMI 端子付きの機器を接続する」）。

セットトップボックス（衛星チューナー / ケーブルテレビチューナー）を接続する

- 衛星チューナーやケーブルテレビチューナーの映像を楽しむことができます。
- 接続する機器に合わせて端子を選び、接続してください。
- HDMI 接続のしかたは、「HDMI 端子付きの機器を接続する」（☞17 ページ）をご覧ください。

接続に使用するケーブル

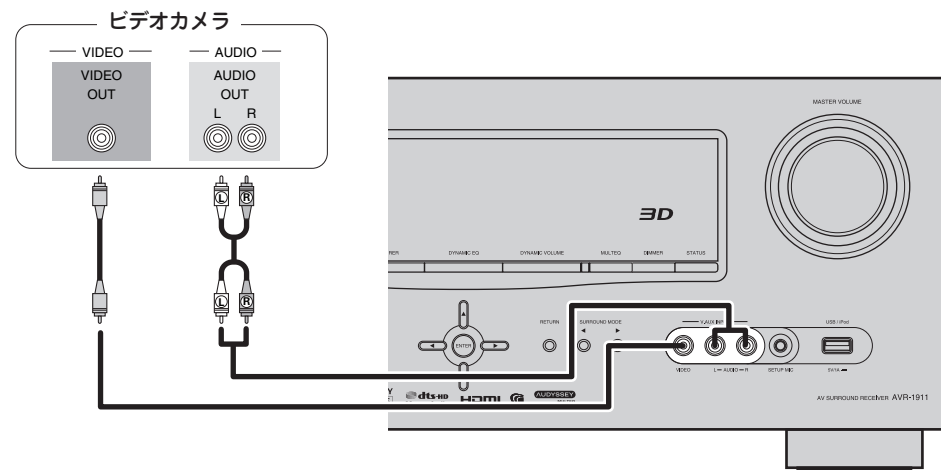
映像ケーブル（別売り）	
ビデオケーブル	（黄）
D 端子用ビデオケーブル	
音声ケーブル（別売り）	
オーディオケーブル	（白）（赤）
同軸デジタルケーブル	（オレンジ）

必要に応じて設定してください

入力ソースに割り当てられているデジタル入力端子またはコンポーネントビデオ（D）入力端子を変更するときに設定します。
"Input Assign"（☞49 ページ）

ビデオカメラを接続する

- ビデオカメラの映像や音声を楽しむことができます。
- HDMI 接続のしかたは、「HDMI 端子付きの機器を接続する」（☞17 ページ）をご覧ください。

接続に使用するケーブル

映像ケーブル（別売り）	
ビデオケーブル	（黄）
音声ケーブル（別売り）	
オーディオケーブル	（白）（赤）

必要に応じて設定してください

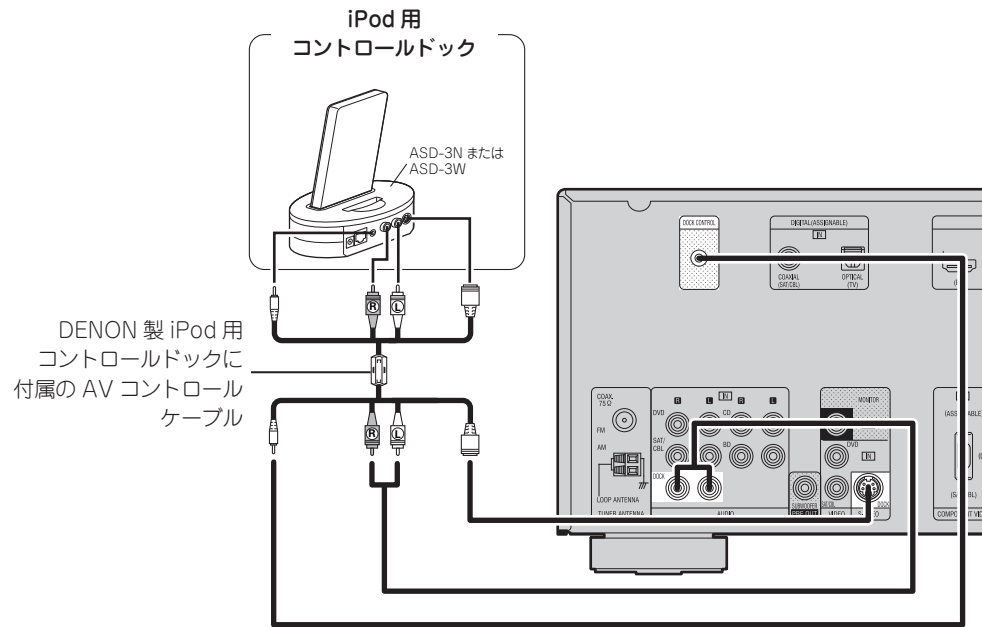
入力ソースに割り当てられているデジタル入力端子またはコンポーネントビデオ（D）入力端子を変更するときに設定します。
"Input Assign"（☞49 ページ）

本機の V.AUX 入力端子にゲーム機を接続してもゲームを楽しむことができます。このような場合は、入力ソースを"V.AUX"に設定してください。

ご注意

ゲーム機など特殊な映像信号を入力した場合、ビデオコンバージョン機能がはたらかない場合があります。このような場合は、入力と同じ端子のモニター出力をご使用ください。

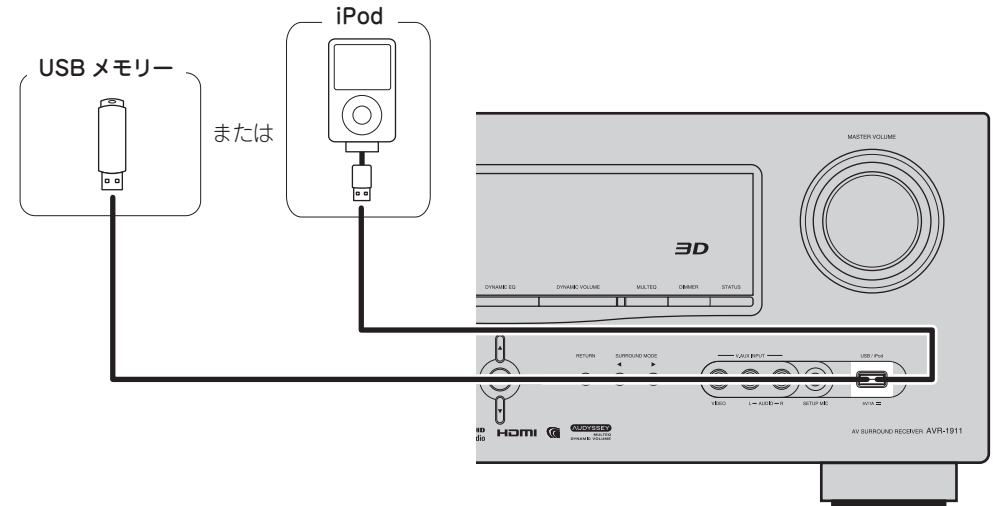
iPod 用コントロールドックを接続する

- iPod 用コントロールドックを接続すると、iPod 内の映像や音声を楽しむことができます。
- 本機と iPod の接続には、DENON 製 iPod 用コントロールドック（ASD-1R、ASD-11R、ASD-3N または ASD-3W、別売り）をご使用ください。
- iPod 用コントロールドック側の設定も必要です。詳しくは、iPod 用コントロールドックの取扱説明書をご覧ください。

本機のUSB端子に直接iPodを接続してご使用になることもできます（☞21ページ「USB端子に iPod または USB メモリーを接続する」）。

USB 端子に iPod または USB メモリーを接続する

iPod や USB メモリー内の音楽を楽しむことができます。

接続に使用するケーブル

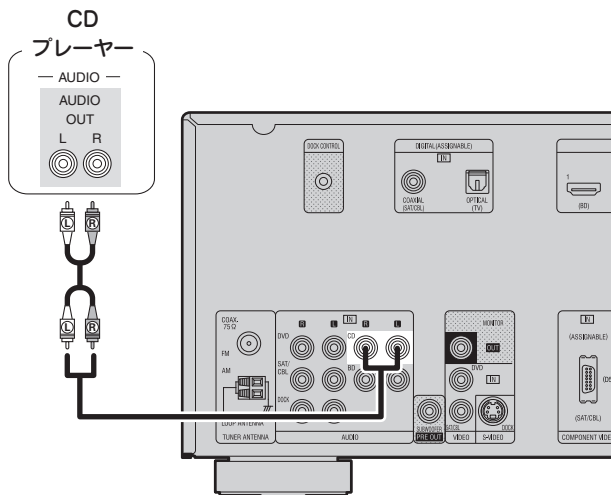
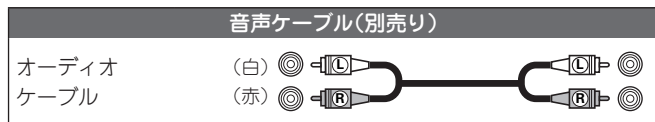
本機と iPod を接続するときは、iPod に付属の USB ケーブルをご使用ください。

- iPod 内の動画ファイルを再生する場合は、DENON 製 iPod 用コントロールドック（ASD-1R、ASD-11R、ASD-3N または ASD-3W、別売り）を使用してください（☞21 ページ「iPod用コントロールドックを接続する」）。
- iPod は、第 5 世代以降に発売された iPod touch、iPod classic、iPod nano で再生することができます。詳しくは、当社ホームページまたは 26 ページをご覧ください。
- すべての USB メモリーに対して、動作および電源の供給を保証するものではありません。USB 接続タイプのポータブル HDD で、AC アダプターを接続して電源が供給できるタイプのものをお使いになる場合は、AC アダプターのご使用をおすすめします。

ご注意

- USB メモリーは USB ハブ経由では動作しません。
- 本機の USB 端子とパソコンを USB ケーブルで接続して使用することはできません。
- USB メモリーを接続するときに、延長ケーブルを使用しないでください。他の機器に電波障害を引き起こす場合があります。

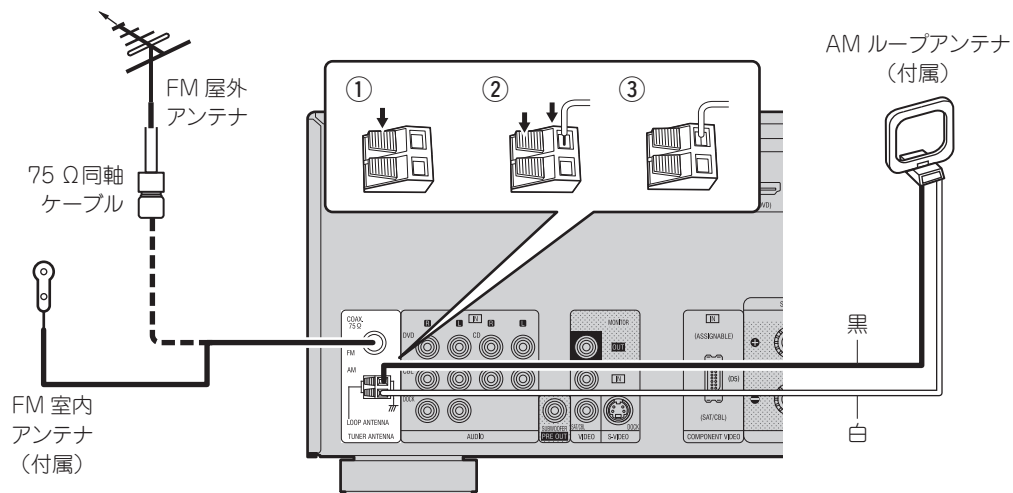
CD プレーヤーを接続する

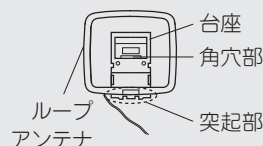
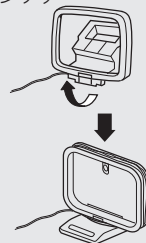
- CD を楽しむことができます。
- 接続する機器に合わせて端子を選び、接続してください。

接続に使用するケーブル

必要に応じて設定してください

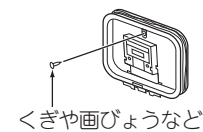
入力ソースに割り当てられているデジタル入力端子を変更するときに設定します。
“Input Assign”（☞49 ページ）

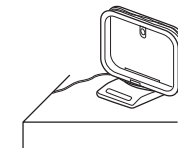
アンテナを接続する

- 本機に付属の FM アンテナや AM ループアンテナを接続すると、ラジオ放送を楽しむことができます。
- アンテナを接続した後に放送を受信し（☞27 ページ「FM/AM 放送局を聴く」）、雑音の少ない位置にテープなどで固定してください。

❏AM ループアンテナの組み立てかた

1 台座部をループアンテナの後ろから、ループアンテナの下を通して、手前に曲げる。

2 突起部を台座の角穴部に、差し込む。

❏AM ループアンテナの使いかた

壁に掛けて使う

組み立てずにそのままお使いください。

置いて使う

図のように組み立ててお使いください。

ご注意

- 2 つの FM アンテナを同時に接続しないでください。
- AM ループアンテナ線がリアパネルやねじに接触していないかご確認ください。
- AM や FM の受信感度はアンテナの設置場所や設置方向によって変わります。最もよく受信できるところに設置してください。
- 放送を良好に受信できない場合は、屋外アンテナの設置をおすすめします。詳しくは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

再生のしかた(基本操作)

知っておいてほしいこと

再生する前に、あらかじめ各機器との接続や本機の設定をおこなってください。

ご注意

再生するときは、接続した機器の取扱説明書もご覧ください。

入力ソースを選ぶ

再生する入力ソース選択ボタン(NET/USB、iPod、DVD、BD、TUNER、DOCK、SAT/CBL、GAME、V.AUX、CD、TV)を押す。

入力ソースをダイレクトに選べます。

- **iPod PLAY** を押すと、本機の入力ソースが"DOCK"または"USB/iPod"に切り替わり、接続されている iPod を自動的に再生します(☞27 ページ「iPod 再生機能」)。

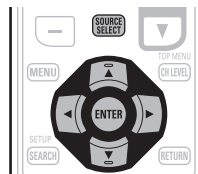
以下の操作方法でも入力ソースを選ぶことができます。

❑"Source Select" メニューを使用する

① **SOURCE SELECT**を押す。

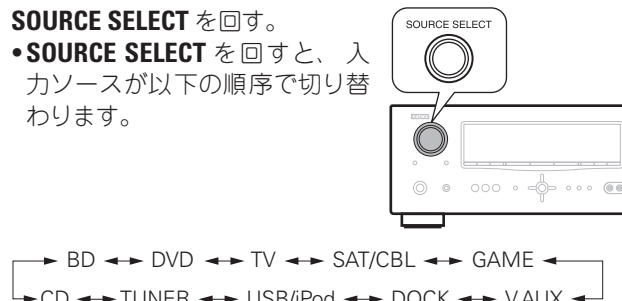
"Source Select" メニューを表示します。

② △▽◁ ▷を押して入力ソースを選び、**ENTER**を押す。

入力ソースを確定し、"Source Select" メニューを終了します。

- 本機の USB 端子に直接 iPod を接続してご使用になる場合は、入力ソースの"USB/iPod"を選んでください。
- 使用しない入力ソースをあらかじめ設定することができます。"Source Delete"(☞63 ページ)で設定してください。
- 入力ソースを選ばずに"Source Select" メニューを終了させる場合は、もう一度 **SOURCE SELECT** を押してください。

❑本体で操作する

SOURCE SELECT を回す。

- **SOURCE SELECT** を回すと、入力ソースが以下の順序で切り替わります。

主音量を調節する

VOL ▲▼ を押して、音量を調節する。

- メニューの"Volume Display"(☞63 ページ)の設定により、音量の表示値が異なります。

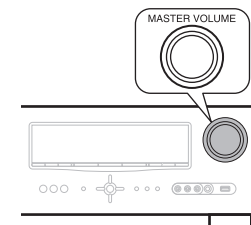
❑ "Volume Display"の設定(☞63 ページ)が"Relative"のとき

【調節できる範囲】 – – – –80.5dB ~ 18.0dB

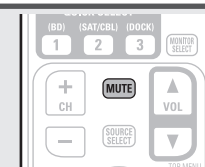
❑ "Volume Display"の設定(☞63 ページ)が"Absolute"のとき

【調節できる範囲】 0.0 ~ 99.0

- 入力信号やチャンネルレベルの設定などにより、調節できる範囲が異なります。

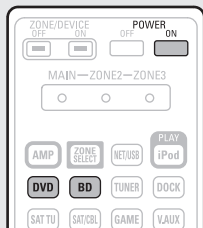
本体の **MASTER VOLUME** を回しても、主音量を調節できます。

一時的に音を消す(ミューティング)

MUTE を押す。

メニューの"Mute Level"(☞63ページ)で設定したレベルまで音量が減衰します。

ミューティングを解除するときは、もう一度 **MUTE** を押してください。主音量を調節しても解除できます。

ブルーレイディスクプレーヤーやDVD プレーヤーを再生する

1 再生の準備をする。

① テレビやサブウーハー、プレーヤーの電源を入れる。
② テレビの入力を、本機の入力に設定する。
③ プレーヤーにディスクを入れる。

2 POWER ON を押して、本機の電源を入れる。

3 BD または DVD を押して、再生するプレーヤーの入力ソースに切り替える。

4 ブルーレイディスクプレーヤーまたは DVD プレーヤーを再生する。

- あらかじめプレーヤーの設定(言語設定や字幕設定など)をおこなってください。

CD プレーヤーを再生する

1 再生の準備をする。

① サブウーハーやプレーヤーの電源を入れる。
② プレーヤーにディスクを入れる。

2 POWER ON を押して、本機の電源を入れる。

3 CD を押して、入力ソースを"CD"に切り替える。

4 CD プレーヤーを再生する。

iPod® を再生する

iPod の再生方法は、2 つあります。

① **DENON製iPod用コントロールドックを使用して再生する方法**
iPod の映像や写真、音楽の再生ができます。
② **iPodをUSB端子に直接接続して再生する方法(☞26ページ)**
iPod の音楽のみ再生できます。

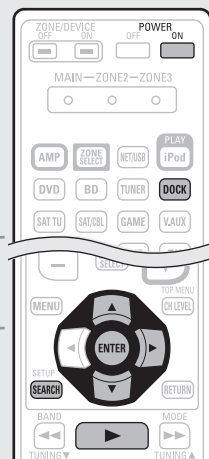
① DENON 製 iPod 用コントロールドックを使用して再生する

本機では、以下の DENON 製 iPod 用コントロールドックを使用することができます。

- ASD-1R、ASD-11R、ASD-3N、ASD-3W

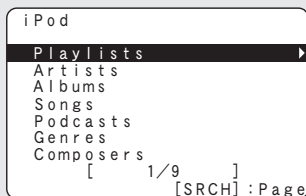
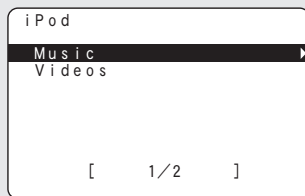
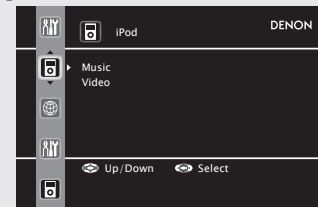
❏iPod® の音楽を聴く

1 再生の準備をする。

① DENON製iPod用コントロールドックに、iPod®を接続する(☞21ページ「iPod用コントロールドックを接続する」)。
② iPod用コントロールドックにiPod®をセットする。

2 POWER ON を押して、本機の電源を入れる。

3 DOCK を押して、入力ソースを"DOCK"に切り替える。

- 手順 4 で"ブラウズモード"を選ぶと、接続している iPod 用コントロールドックによって以下の画面を表示します。

【ASD-1R 使用時】

【ASD-11R 使用時】

【ASD-3N および ASD-3W 使用時】

- "ブラウズモード"のとき、iPod の画面表示は右図のようになります。

ご注意

画面が表示されない場合は、iPod が正しく接続されていない可能性があります。接続をやり直してください。

4 SEARCH を 2 秒以上長押しして、表示モードを選ぶ。

- iPod のデータを表示するモードは 2 つあります。

ブラウズモード iPod の情報をテレビ画面に表示させて操作するモードです。

- 本機のディスプレイには、半角英数字と一部の記号のみ表示することができます。対応していない文字は、". (ピリオド)"に置き換えて表示します。

リモートモード iPod に表示される画面を見ながら、直接 iPod 本体を操作するモードです。

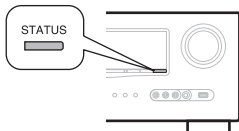
- 本機のディスプレイに"Remote iPod"または"Dock Remote"を表示します。

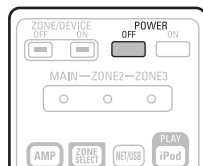
表示モード		ブラウズモード	リモートモード
再生できるファイル	音声ファイル	✓	✓
	写真ファイル		✓ ＊2
	動画ファイル	✓＊1	✓ ＊2
操作できるボタン	本機のリモコン	✓	✓
	iPod®		✓

＊1 DENON 製 iPod 用コントロールドック ASD-11R、ASD-3N または ASD-3W を使用しているときに再生できます。
＊2 DENON 製 iPod 用コントロールドック ASD-1R、ASD-11R、ASD-3N または ASD-3W と iPod の組み合わせによっては、映像が出力されない場合があります。

5 △▽ を押して項目を選び、ENTER または ▷ を押して再生したいファイルを選ぶ。

6 ENTER、▷ または ▶ を押す。
再生をはじめます。

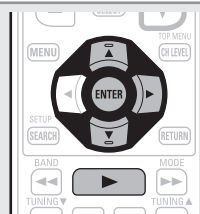
- メニューの"iPod"(☞63ページ)で、iPod画面の表示時間(お買い上げ時の設定：30 秒)を設定できます。△▽◁ ▷ を押すと、元の画面に戻ります。
- RESTORER モードを使用すると、圧縮オーディオの低域や高域を拡張してより豊かな再生ができます(☞57ページ)。お買い上げ時は、"Mode 3"に設定しています。
- ブラウズモードで再生中に **STATUS** ボタンを押すと、タイトル名、アーティスト名およびアルバム名を確認できます。

ご注意

- iPod は、**POWER OFF** を押して本機の電源をスタンバイ状態にしてから、取り外してください。入力ソースを"DOCK"以外に切り替えて、iPod を取り外すこともできます。
- iPod の種類またはソフトウェアのバージョンによっては、機能の一部が動作しない場合があります。
- 万一、iPod のデータが消失または損傷しても、当社は一切責任を負いません。

❑ブラウズモードで iPod® の映像を見る

DENON 製 iPod 用コントロールドック ASD-11R、ASD-3N または ASD-3W にビデオ機能対応の iPod を接続すると、ブラウズモードで映像ファイルを再生することができます。

1 △▽ を押して"ビデオ"を選び、ENTER または ▷ を押す。

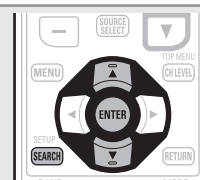
2 △▽ を押して検索項目またはフォルダを選び、ENTER または ▷ を押す。

3 △▽ を押して映像ファイルを選び、ENTER、▷ または ▶ を押す。
再生をはじめます。

❑リモートモードで iPod® の写真や映像を見る

本機では、スライドショーやビデオ機能を搭載している iPod の写真や映像を再生できます。

1 SEARCH を2秒以上長押しして、リモートモードに切り替える。
本機のディスプレイに"Remote iPod"または"Dock Remote"を表示します。

2 iPod の画面を見ながら △▽ を押して、"写真"または"ビデオ"を選ぶ。
- 使用する iPod によっては、iPod 本体を直接操作する必要があります。

3 再生したい写真または映像が表示されるまで、ENTER を押す。

iPod の写真や映像をテレビに映し出すには、iPod の"スライドショー設定"または"ビデオ設定"の"TV 出力"を"オン"に設定する必要があります。詳しくは、iPod の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

DENON 製 iPod 用コントロールドック ASD-1R、ASD-11R、ASD-3N または ASD-3W と iPod の組み合わせによっては、映像が出力されない場合があります。

❑iPod 再生時に使用できるボタン

操作ボタン	機能
MENU	アンプのメニュー表示
△▽◁▷	カーソル操作
ENTER	確定
SEARCH (短押し)	ページ検索モード ＊1
SEARCH (長押し)	ブラウズモードとリモートモードの切り替え
RETURN	リターン
◀◀ ▶▶ (長押し)	マニュアルサーチ(早戻し / 早送り)
▶	再生 / 一時停止
I◀◀ ▶▶I	オートサーチ(頭出し)
II	一時停止
■	停止
RESTORER	RESTORER
MEMORY	お気に入り登録 ＊2
TV POWER	テレビの電源オン / スタンバイ (お買い上げ時の設定：SONY)
TV INPUT	テレビの入力切り替え (お買い上げ時の設定：SONY)

- **リピート再生**(☞51 ページ "Repeat")
- **シャッフル再生**(☞51 ページ "Shuffle")

＊1 ASD-1R または ASD-11R を使用時に機能します。
＊2 ASD-3N または ASD-3W を使用時に機能します。

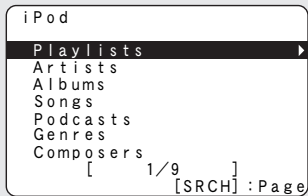
② USB 端子に iPod を直接接続して再生する

iPod® に付属の USB ケーブルを使用して、iPod を本機の USB 端子に接続すると、iPod の音楽を楽しむことができます。

- 本機は、iPod（第 5 世代以降）、iPod nano、iPod classic、iPod touch の音声に対応しています。（iPod shuffle には対応していません。）

1 iPod® に付属の USB ケーブルを使用して、iPod を本機の USB 端子に接続する（☞21 ページ「USB 端子に iPod または USB メモリーを接続する」）。

2 POWER ON を押して、本機の電源を入れる。

3 NET/USB を押して、入力ソースを“USB/iPod”に切り替える。

ご注意

画面が表示されない場合は、iPod が正しく接続されていない可能性があります。接続をやり直してください。

4 SEARCH を 2 秒以上長押しして、表示モードを選ぶ。

- iPod のデータを表示するモードは 2 つあります。

ブラウズモード iPod の情報をテレビ画面に表示させて操作するモードです。

- 本機のディスプレイには、半角英数字と一部の記号のみ表示することができます。対応していない文字は、“.（ピリオド）”に置き換えて表示します。

リモートモード iPod に表示される画面を見ながら、直接 iPod 本体を操作するモードです。

- 本機のディスプレイに“Remote iPod”を表示します。
- 本機は、iPod の第 5 世代および iPod nano の第 1 世代には対応していません。

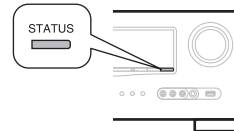
表示モード		ブラウズモード	リモートモード
再生できるファイル	音声ファイル	✓	✓
	動画ファイル		＊
操作できるボタン	本機のリモコン	✓	✓
	iPod®		✓

＊ 音声のみ再生します。

5 △▽ を押して項目を選び、ENTER または ▷ を押して再生したいファイルを選ぶ。

6 ENTER、▷ または ▶ を押す。

再生をはじめます。

- メニューの“iPod”（☞63 ページ）で、iPod 画面の表示時間（お買い上げ時の設定：30 秒）を設定できます。△▽◁ ▷ を押すと、元の画面に戻ります。
- RESTORER モードを使用すると、圧縮オーディオの低域や高域を拡張してより豊かな再生ができます（☞57 ページ）。お買い上げ時は、“Mode 3”に設定しています。
- ブラウズモードで再生中に **STATUS** ボタンを押すと、タイトル名、アーティスト名およびアルバム名を確認できます。

ご注意

- iPod の種類またはソフトウェアのバージョンによっては、機能の一部が動作しない場合があります。
- 万一、iPod のデータが消失または損傷しても、当社は一切責任を負いません。

❑iPod 再生時に使用できるボタン

操作ボタン	機能
MENU	アンプのメニュー表示
△▽◁▷	カーソル操作
ENTER	確定
SEARCH（短押し）	ページ検索モード
SEARCH（長押し）	ブラウズモードとリモートモードの切り替え
RETURN	リターン
◀◀ ▶▶（長押し）	マニュアルサーチ（早戻し / 早送り）
▶	再生 / 一時停止
I◀◀ ▶▶I	オートサーチ（頭出し）
II	一時停止
■	停止
RESTORER	RESTORER
TV POWER	テレビの電源オン / スタンバイ（お買い上げ時の設定：SONY）
TV INPUT	テレビの入力切り替え（お買い上げ時の設定：SONY）

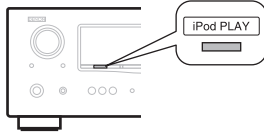
- **リピート再生**（☞51 ページ “Repeat”）
- **シャッフル再生**（☞51 ページ “Shuffle”）

iPod 再生機能

本機の電源がスタンバイで、iPod 用コントロールドックまたは iPod を接続しているときに **iPod PLAY** を押すだけで、iPod の再生ができます。

iPod PLAY を押す。

- 本機の電源が入ります。
- 本機の入力ソースが“DOCK” または“USB/iPod”に切り替わります。
- iPod の再生をはじめます。

本体の **iPod PLAY** を押しても、リモコンと同じように操作できます。

ご注意

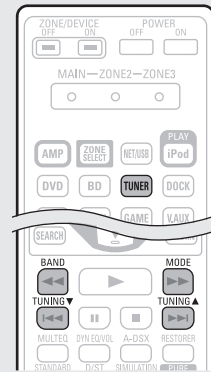
- iPod 再生機能は、iPod 用コントロールドック(“DOCK”)または iPod(“USB/iPod”)が接続されていない場合は動作しません。
- IPod 用コントロールドック(“DOCK”)と iPod(“USB/iPod”)の両方を接続している場合は、iPod 用コントロールドック(“DOCK”)の再生を優先します。

ラジオ放送局を受信する

FM/AM 放送局を聴く

1 **TUNER を押して、入力ソースを“TUNER” に切り替える。**

2 **BAND を押して、“FM” または“AM”を選ぶ。**

FM	FM 放送局を聴くときに選びます。
AM	AM 放送局を聴くときに選びます。

3 **放送局を受信する。**

オートチューニング 自動で放送局を受信します。

① **MODE** を押して、ディスプレイの“AUTO” 表示を点灯させる。
② **TUNING ▲** または **TUNING ▼** を押して、聴きたい放送局を選ぶ。

マニュアルチューニング 手動で放送局を受信します。

① **MODE** を押して、ディスプレイの“AUTO” 表示を消灯させる。
② **TUNING ▲** または **TUNING ▼** を押して、聴きたい放送局を選ぶ。

- オートチューニングで聴きたい放送局を受信できない場合は、マニュアルチューニングで放送局を受信してください。
- マニュアルチューニング中に **TUNING ▲** または **TUNING ▼** を押し続けると、連続的に受信周波数が変わります。
- メニューの“TUNER”(☞63 ページ)で、TUNER画面の表示時間(お買い上げ時の設定:30 秒)を設定できます。△▽◁ ▷ を押すと、元の画面に戻ります。

❑手動でラジオ放送を選局しプリセットする(マニュアルプリセット)

手動でお好みの放送を選局し、プリセットします。
最大 56 局までプリセットできます。

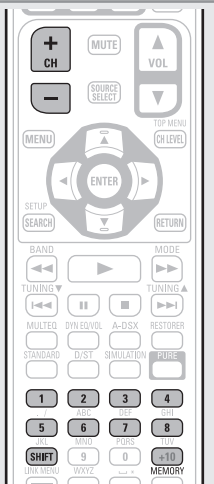
- **メニューの“Auto Preset”(☞48 ページ)をおこなうと、自動で放送局をプリセットできます。**ただし、マニュアルプリセット後に“Auto Preset” をおこなった場合、マニュアルプリセットで設定した放送局は上書きされます。

1 **プリセットしたい放送局を受信する。**

2 **MEMORY を押す。**

3 **SHIFT を押して、プリセットしたいブロック(A ~ G) とチャンネル(1 ブロックあたり 1 ~ 8)を選ぶ。その後、CH +, CH – または 1 ~ 8 でプリセット番号を選ぶ。**

4 **もう一度 MEMORY を押して、設定を確定する。**

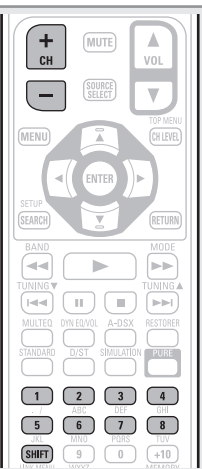
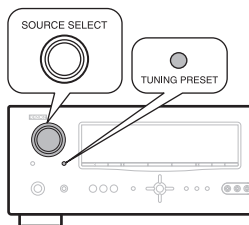
- 続けて他の放送局をプリセットする場合は、手順 1 ~ 4 をおこなってください。

お買い上げ時の設定

ブロック(A ~ G)および チャンネル(1 ~ 8)	お買い上げ時の設定
A1 ~ A8	76.0/83.0/89.0/90.0/90.0/90.0/90.0/90.0MHz
B1 ~ B8	522/603/999/1404/1629kHz, 90.0/90.0/90.0MHz
C1 ~ C8	90.0MHz
D1 ~ D8	90.0MHz
E1 ~ E8	90.0MHz
F1 ~ F8	90.0MHz
G1 ~ G8	90.0MHz

プリセットした放送局に名前をつける（Preset Name）（☞48 ページ）

❑プリセットした放送局を聞く

1 **SHIFT** を押して、プリセットしたブロック（A ～ G）を選ぶ。

2 **CH +, CH –** または **1 ~ 8** でプリセットしたチャンネルを選ぶ。

本体で操作する場合は、以下の手順でおこなってください。
① **TUNING PRESET**を押す。
② **SOURCE SELECT**を回して、プリセットした放送局選ぶ。

❑ダイレクトに放送局を受信する

ダイレクトに周波数を入力し、放送局を受信します。

1 **SEARCH** を押す。

2 **0 ~ 9** を押して、周波数を入力する。

• ◁ を押すと、1 つ前に入力した周波数を取り消すことができます。

3 入力が完了したら、**ENTER** を押す。
放送局を受信します。

❑FM/AM 放送を受信時に使用できるボタン

操作ボタン	機能
CH +, –	プリセットチャンネルの選択
MENU	アンプのメニュー表示
△▽◁▷	カーソル操作
ENTER	確定
SEARCH	ダイレクト選局
RETURN	リターン
BAND	FM/AM 受信バンドの切り替え
MODE	サーチモードの切り替え
TUNING ▲▼	選局（アップ / ダウン）
0 ~ 9	プリセットチャンネルの選択（1 ～ 8）/ ダイレクト選局（0 ～ 9）
SHIFT	プリセットチャンネルブロックの選択
MEMORY	プリセットチャンネルの登録
TV POWER	テレビの電源オン / スタンバイ（お買い上げ時の設定：SONY）
TV INPUT	テレビの入力切り替え（お買い上げ時の設定：SONY）

USB メモリーを再生する

USB メモリー内の音楽ファイルを再生できます。

知っておいてほしいこと

❏USB メモリーについて

本機の USB 端子に USB メモリーを接続すると、USB メモリー内の音楽ファイルを再生できます。

- 本機では、マスストレージクラスに対応している USB メモリーのみ再生できます。
- 本機は、FAT16 または FAT32 フォーマットに対応しています。

【本機で再生できるフォーマット】

	USB メモリー ＊1
WMA（Windows Media Audio）	✓＊2
MP3（MPEG-1 Audio Layer-3）	✓
MPEG-4 AAC	✓＊3

＊1 USB メモリーについて
- MP3 ID3 タグ（バージョン 2）に対応しています。
- WMA META タグに対応しています。

＊2 著作権保護の無いファイルのみ再生できます。
＊3 著作権保護の無いファイルのみ再生できます。
パソコンで CD などからリッピングする際に WMA でエンコードすると、パソコンの設定により著作権保護がかかる場合があります。

【本機で再生できるフォーマット】

	サンプリング周波数	ビットレート	拡張子
WMA（Windows Media Audio）	32/44.1/48 kHz	48～192 kbps	.wma
MP3（MPEG-1 Audio Layer-3）	32/44.1/48 kHz	32～320 kbps	.mp3
MPEG-4 AAC	32/44.1/48 kHz	16～320 kbps	.m4a

USB メモリー内のファイルを再生する

1 USB メモリーを USB 端子に接続する（☞21 ページ「USB端子に iPod または USB メモリーを接続する」）。

2 **NET/USB** を押して、入力ソースを"USB/iPod"に切り替える。

3 △▽ を押して検索項目またはフォルダを選び、**ENTER** または ▷ を押す。

4 △▽ を押してファイルを選び、**ENTER**、▷ または ▶ を押す。
再生をはじめます。

- メニューの"USB"（☞63ページ）で、USB画面の表示時間（お買い上げ時の設定：30 秒）を設定できます。△▽◁ ▷ を押すと、元の画面に戻ります。
- RESTORER モードを使用すると、圧縮オーディオの低域や高域を拡張してより豊かな再生ができます（☞57ページ）。お買い上げ時は、"Mode 3"に設定しています。
- USB メモリーが複数のパーティションに分かれている場合は、先頭のパーティションのみ選べます。
- 本機で対応している MP3 ファイルの規格は、「MPEG-1 Audio Layer-3」です。

ご注意

- 本機に USB メモリーを接続して使用しているときに、万一 USB メモリーのデータが消失または損傷した場合、当社は一切責任を負いません。
- USB メモリーは USB ハブ経由では動作しません。
- すべての USB メモリーに対して、動作および電源の供給を保証するものではありません。USB 接続タイプのポータブル HDD で、AC アダプターを接続して電源が供給できるタイプのものをお使いになる場合は、AC アダプターのご使用をおすすめします。
- 本機の USB 端子とパソコンを USB ケーブルで接続して使用することはできません。

❏USB メモリー再生時に使用できるボタン

操作ボタン	機能
MENU	アンプのメニュー表示
△▽◁▷	カーソル操作
ENTER	確定
SEARCH	ページの検索
RETURN	リターン
◀◀ ▶▶（長押し）	マニュアルサーチ（早戻し / 早送り）
▶	再生
⏮ ⏭	オートサーチ（頭出し）
❚❚	一時停止
■	停止
RESTORER	RESTORER
TV POWER	テレビの電源オン / スタンバイ（お買い上げ時の設定：SONY）
TV INPUT	テレビの入力切り替え（お買い上げ時の設定：SONY）

- **リピート再生**（☞51 ページ "Repeat"）
- **シャッフル再生**（☞51 ページ "Shuffle"）

リスニングモードを選ぶ（サラウンドモード）

本機は、本機に入力される音声信号を、マルチチャンネルサラウンドやステレオで再生することができます。
再生するコンテンツ（映画や音楽など）やお好みに合わせて、リスニングモードを選んでください。

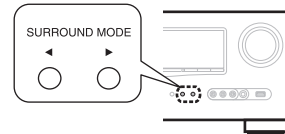
リスニングモードについて

入力音声信号	再生	リスニングモード	
2 チャンネル マルチチャンネル	サラウンド	スタンダード再生 （☞30 ページ）	【2 チャンネル信号を入力しているとき】 • サラウンドチャンネルの信号を生成してサラウンド再生をします。 【マルチチャンネル信号を入力しているとき】 • ソースに収録されているサラウンド信号のままサラウンド再生をします。（メニューの"Speaker Config."（☞58ページ）のスピーカーサイズの設定に合わせて再生します。） • ソースに収録されていないサラウンドバックチャンネルやフロントハイトチャンネルの信号を生成することもできます。
2 チャンネル マルチチャンネル	サラウンド	DENON オリジナルサラウンド再生 （☞32 ページ）	DENON オリジナルサラウンドモードの中から、ソースの種類やお好みに合わせたサラウンド効果を選んで再生することができます。
2 チャンネル マルチチャンネル	ステレオ	ステレオ再生 （☞32 ページ）	• マルチチャンネル信号を入力しているときは、2 チャンネルの音声にダウンミックスして再生します。 • サブウーハー信号も出力します。
2 チャンネル → ステレオ マルチチャンネル → サラウンド		ダイレクト再生 （☞32 ページ）	ソースに収録されている音声のまま再生するモードです。 • サラウンドバック信号やフロントハイト信号は生成しません。 • このモードのとき、以下の設定はできません。 • Tone（☞54 ページ） • MultEQ®（☞55 ページ） • Dynamic EQ®（☞55 ページ） • Dynamic Volume®（☞56ページ） • RESTORER（☞57 ページ）
2 チャンネル → ステレオ マルチチャンネル → サラウンド		ピュアダイレクト再生 （☞32 ページ）	「ダイレクト再生」モードよりも更に高音質の再生をおこなうモードです。 音質に影響する次の回路の動作を停止します。 • 本体のディスプレイ表示回路（ディスプレイが消灯します。） • アナログビデオ入出力回路

✎

- 入力信号の音声フォーマットやチャンネル数によっては、選択できないリスニングモードがあります。詳しくは「入力信号の種類と対応するサラウンドモード」（☞78 ページ）をご覧ください。
- メニューの"Surround Parameter"（☞52 ページ）で音場効果を調整すると、よりお好みのサウンドでお楽しみいただけます。
- リスニングモードは、本体の **SURROUND MODE ◀** ボタンまたは **SURROUND MODE ▶** ボタンを押しても選択できます。

SURROUND MODE ◀ または **SURROUND MODE ▶** を押すと、以下の順序でモードが切り替わります。

→ DIRECT ↔ STEREO ↔ STANDARD ↔ MULTI CH STEREO ↔ ROCK ARENA ←
→ VIRTUAL ↔ MATRIX ↔ VIDEO GAME ↔ MONO MOVIE ↔ JAZZ CLUB ←

スタンダード再生

❑2チャンネルのソースをサラウンド再生する

1 機器を再生する（☞24〜29ページ）。

2 **STANDARD** を押して、2 チャンネル信号からマルチチャンネル音声を生成するためのサラウンドデコーダーを選ぶ。

- **STANDARD** を押すたびに、サラウンドモードが切り替わります。
選択できるデコーダーは、メニューの"Amp Assign"（☞58ページ）または"Speaker Config."（☞58 ページ）の設定によって異なります。

DOLBY PLⅡz *1　フロントハイトスピーカーを使用して、7.1 チャンネルのサラウンド再生をおこなうモードです。
- "PLⅡz Height"を表示します。

DOLBY PLⅡx *2　サラウンドバックスピーカーを使用して、7.1 チャンネルまたは 6.1 チャンネルのサラウンド再生をおこなうモードです。
- "PLⅡx Cinema"、"PLⅡx Music" または "PLⅡx Game"を表示します。

DOLBY PLⅡ　5.1 チャンネルのサラウンド再生をおこなうモードです。フロントハイトスピーカーやサラウンドバックスピーカーを使用しないときに選びます。
- "PLⅡ Cinema"、"PLⅡ Music"、"PLⅡ Game"または"Pro Logic"を表示します。

DTS NEO:6　サラウンドバックスピーカーを使用して、7.1 チャンネル、6.1 チャンネルまたは 5.1 チャンネルのサラウンド再生をおこなうモードです。
- "DTS NEO:6 Cinema" または"DTS NEO:6 Music"を表示します。

*1 メニューの"Amp Assign"設定（☞58ページ）が"Front Height"のとき、および"Speaker Config."⇨"Front Height"設定（☞58ページ）が"None"以外のときに選べます。
*2 メニューの"Amp Assign"設定（☞58 ページ）が"Normal"のとき、および"Speaker Config."⇨"S.Back"設定（☞58ページ）が"None"以外のときに選べます。

3 メニューの“Surround Parameter” ⇨“Mode”（☞52 ページ）で、再生するコンテンツに合わせたモードを選ぶ。

Cinema	映画ソースに適したモードです。
Music	音楽ソースに適したモードです。“Cinema” モードに比べてフロントスピーカーへの音の振り分けを多くしています。
Game	ゲームに適したモードです。
Pro Logic	Dolby Pro Logic で収録されている 2 チャンネルソースの再生に適したモードです。
Height *	サラウンドデコーダーが“Dolby PLIIz” のときのモードです。サラウンドデコーダーが“Dolby PLIIz” のときは、他のモードを選べません。

- メニューの“Surround Parameter” ⇨“Front Height”（☞54 ページ）の設定を“ON”にすると、“Height”モードに切り替わります。

❏マルチチャンネルのソースをサラウンド再生する（ドルビーデジタル、DTS、AAC など）

1 機器を再生する（☞24〜29 ページ）。

2 STANDARD を押して、マルチチャンネル音声を再生するためのサラウンドデコーダーを選ぶ。

ディスプレイ表示を見ながらサラウンドモードを選んでください（☞ 右表“再生中のサラウンドモードの表示”）。

- 選択できるデコーダーは、入力信号やメニューの“Amp Assign”（☞58 ページ）、“Speaker Config.”（☞58 ページ）の設定によって異なります。

再生中のサラウンドモードの表示

入力信号	サラウンドモード処理	ディスプレイ表示
DOLBY DIGITAL（2 チャンネル以外）/ DOLBY DIGITAL EX	DOLBY DIGITAL	DOLBY DIGITAL
	DOLBY DIGITAL EX	DOLBY DIGITAL EX
	DOLBY DIGITAL + PLIIx CINEMA	DOLBY D + PLIIx C
	DOLBY DIGITAL + PLIIx MUSIC	DOLBY D + PLIIx M
	DOLBY DIGITAL + PLIIz HEIGHT	DOLBY D + PLIIz
DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL +
	DOLBY DIGITAL Plus + EX	DOLBY D + + EX
	DOLBY DIGITAL Plus + PLIIx CINEMA	DOLBY D + + PLIIx C
	DOLBY DIGITAL Plus + PLIIx MUSIC	DOLBY D + + PLIIx M
	DOLBY DIGITAL Plus + PLIIz HEIGHT	DOLBY D + + PLIIz
DOLBY TrueHD	DOLBY TrueHD	DOLBY TrueHD
	DOLBY TrueHD + EX	DOLBY HD +EX
	DOLBY TrueHD + PLIIx CINEMA	DOLBY HD +PLIIx C
	DOLBY TrueHD + PLIIx MUSIC	DOLBY HD +PLIIx M
	DOLBY TrueHD + PLIIz HEIGHT	DOLBY HD +PLIIz
DTS（5.1 チャンネル）/ DTS-ES Discrete 6.1/ DTS-ES Matrix 6.1 / DTS 96/24	DTS SURROUND	DTS SURROUND
	DTS + PLIIx CINEMA	DTS + PLIIx C
	DTS + PLIIx MUSIC	DTS + PLIIx M
	DTS + PLIIz HEIGHT	DTS + PLIIz
	DTS + NEO:6	DTS + NEO:6
	DTS ES MTRX6.1＊1	DTS ES MTRX6.1
	DTS ES DSCRT6.1＊2	DTS ES DSCRT6.1
	DTS 96/24＊3	DTS 96/24
DTS-HD	DTS-HD HI RES	DTS-HD HI RES
	DTS-HD MSTR	DTS-HD MSTR
	DTS-HD + NEO:6	DTS-HD + NEO:6
	DTS-HD + PLIIx CINEMA	DTS-HD + PLIIx C
	DTS-HD + PLIIx MUSIC	DTS-HD + PLIIx M
	DTS-HD + PLIIz HEIGHT	DTS-HD + PLIIz
	DTS Express	DTS Express
MPEG-2 AAC	MPEG2 AAC	MPEG2 AAC
	AAC + Dolby EX	AAC + Dolby EX
	AAC + PLIIx CINEMA	AAC + PLIIx C
	AAC + PLIIx MUSIC	AAC + PLIIx M
	AAC + PLIIz HEIGHT	AAC + PLIIz
PCM（マルチチャンネル）	MULTI CH IN	MULTI CH IN
	MULTI IN + Dolby EX	MULTI +Dolby EX
	MULTI IN + PLIIx CINEMA	MULTI IN +PLIIx C
	MULTI IN + PLIIx MUSIC	MULTI IN +PLIIx M
	MULTI IN + PLIIz HEIGHT	MULTI IN +PLIIz
	MULTI CH IN 7.1	MULTI CH IN 7.1

＊1 入力信号が“DTS-ES Matrix 6.1” で、メニューの“AFDM” 設定（☞53 ページ）が“ON”のときに表示します。
＊2 入力信号が“DTS-ES Discrete 6.1” のときに表示します。
＊3 入力信号が“DTS 96/24” のときに表示します。

【ディスプレイ表示について】

❶使用するデコーダーをあらわします。
- DOLBY DIGITAL Plus デコーダーは、“DOLBY D +”と表示します。

❷サラウンドバックスピーカーから出力する音声を生成するデコーダーをあらわします。
- “+ PLIIz” はフロントハイトスピーカーからのフロントハイト音声をあらわします。

各サラウンドモードのときに再生できる入力信号については、「サラウンドモードとパラメーター一覧表」（☞76 ページ）をご覧ください。

AAC ソースの再生について

- AAC 放送再生中に再生チャンネル数などの放送内容が切り替わった場合、音声が途中で途切れる場合があります。
- テレビやデジタルチューナーなどによっては、AAC 出力が“オフ”になっていたり、AAC 信号を PCM 信号に変換する設定になっていたりする場合があります。テレビやデジタルチューナーなどの設定画面で、デジタル音声や AAC 出力の設定をご確認ください。詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

DENON オリジナルサラウンド再生

1 **機器を再生する（☞24〜29 ページ）。**

2 **SIMULATION を押して、サラウンドモードを選ぶ。**

- **SIMULATION** を押すたびに、サラウンドモードが切り替わります。

MULTI CH STEREO	ステレオサウンドをすべてのスピーカーで楽しむモードです。
ROCK ARENA	アリーナのライブコンサートの雰囲気を楽しむモードです。
JAZZ CLUB	ライブハウスでのライブコンサートの雰囲気を楽しむモードです。
MONO MOVIE ＊	モノラルの映画ソースをサラウンド再生するモードです。
VIDEO GAME	ビデオゲームのサラウンドに適したモードです。
MATRIX	ステレオの音楽ソースに広がり感を加えて楽しむモードです。
VIRTUAL	フロントスピーカーやヘッドホンでサラウンド効果を楽しむモードです。

＊ モノラル録音ソースを“MONO MOVIE”モードで再生する場合、片チャンネル（左または右）では音声が片寄るため、両チャンネルに入力してください。

再生するプログラムソースによっては、十分な効果が得られない場合があります。このような場合は、各モードを試してお好みの音場でお楽しみください。

ご注意

入力信号が Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、DTS-HD、DTS Express の場合、DENON オリジナルサラウンドモードは選べません。

ステレオ再生

音質調整ができるステレオ再生用のモードです。トーンを調節できます。

- フロントスピーカー（左 / 右）とサブウーハーから音声を出力します。
- マルチチャンネル信号を入力しているときは、2 チャンネルの音声にダウンミックスして再生します。

1 **機器を再生する（☞24〜29 ページ）。**

2 **D/ST を押して、“STEREO”を選ぶ。**

ステレオ再生をはじめます。

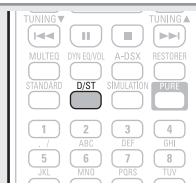
ダイレクト再生

ソースに収録されている音声のまま再生するモードです。

- サラウンドバック信号やフロントハイト信号は生成しません。
- このモードのとき、以下の設定ができません。
  - Tone（☞54 ページ）
  - MultEQ®（☞55 ページ）
  - Dynamic EQ®（☞55 ページ）
  - Dynamic Volume®（☞56 ページ）
  - RESTORER（☞57 ページ）

1 **機器を再生する（☞24〜29 ページ）。**

2 **D/ST を押して、“DIRECT” を選ぶ。**

ダイレクト再生をはじめます。

ピュアダイレクト再生

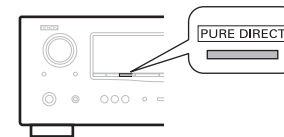
「ダイレクト再生」モードよりも更に高音質の再生をおこなうモードです。

- 音質に影響する次の回路の動作を停止します。
  - 本体のディスプレイ表示回路（ディスプレイが消灯します。）
  - アナログビデオ入出力回路
- サラウンドバック信号やフロントハイト信号は生成しません。
- このモードのとき、以下の設定ができません。
  - Tone（☞54 ページ）
  - MultEQ（☞55 ページ）
  - Dynamic EQ（☞55 ページ）
  - Dynamic Volume（☞56 ページ）
  - RESTORER（☞57 ページ）

1 **機器を再生する（☞24〜29 ページ）。**

2 **PURE を押す。**

ディスプレイが消灯し、ピュアダイレクト再生をはじめます。

- ピュアダイレクト再生モードを解除する場合は、もう一度 **PURE** を押してください。
- HDMI 信号を再生しているときは、ピュアダイレクト再生モードでも映像を出力します。
- 本体の **PURE DIRECT** を押しても、リモコンと同じように操作できます。

ご注意

ピュアダイレクト再生モード中は、メニュー画面を表示しません。

Advanced version

応用編

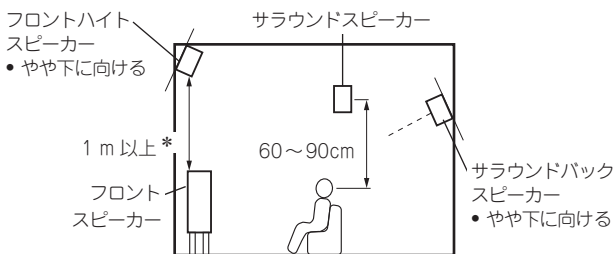
ここでは、本機をより使いこなすことができる機能や操作について説明しています。

スピーカーを設置 / 接続 / 設定する（サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネル以外）

ここでは、サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネル以外の設置 / 接続 / 設定方法を説明しています。サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネルの設置 / 接続 / 設定方法は、「入門編（かんたんセットアップガイド）」（☞6 ページ）をご覧ください。
本機の Audyssey® Auto Setup で、接続しているスピーカーの本数を検出し、ご使用になるスピーカーに最適な設定を自動的におこないます。

設置

本機は、サラウンド空間により一層の広がりや奥行きを表現するDolby Pro Logic IIz（☞80ページ）に対応しています。
Dolby Pro Logic IIz をご使用になる場合は、フロントハイトスピーカーを設置してください。

サラウンドスピーカーは、耳の高さより 60～90cm 高い位置に設置することをおすすめします。

【側面から見た図】

＊ Dolby Pro Logic IIz 推奨

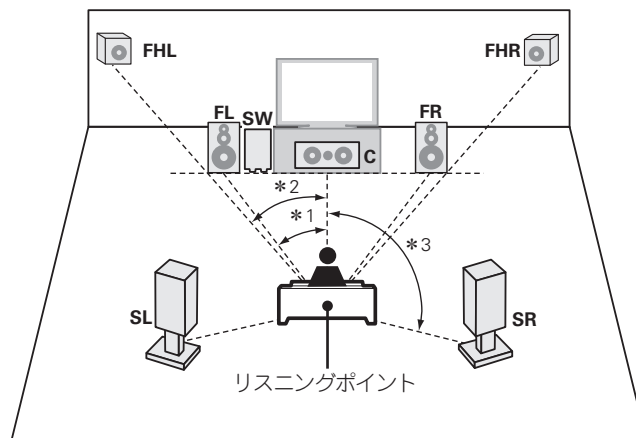
ご注意

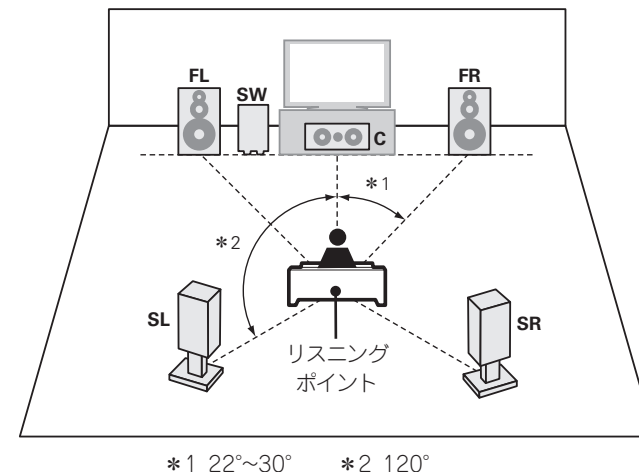
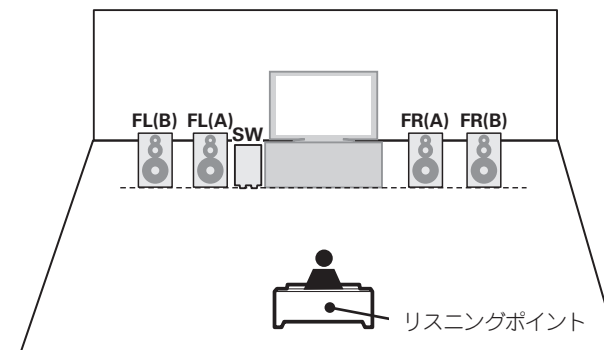
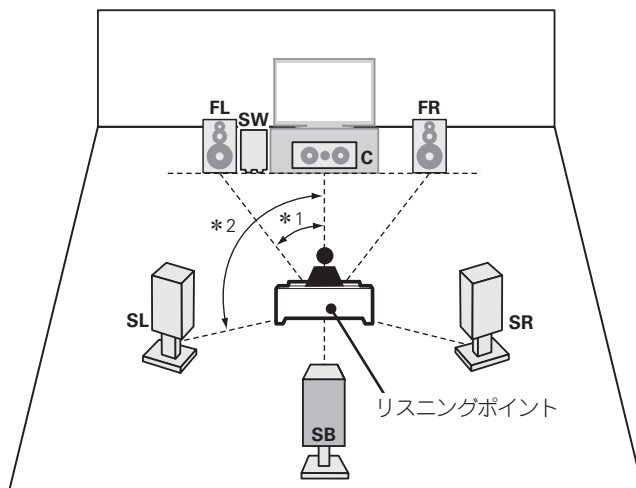
フロントハイトスピーカーとサラウンドバックスピーカーを、同時に使用することはできません。

7.1 チャンネル（フロントハイトスピーカー）を設置するとき

＊1 22°～30°　＊2 22°～45°　＊3 90°～110°

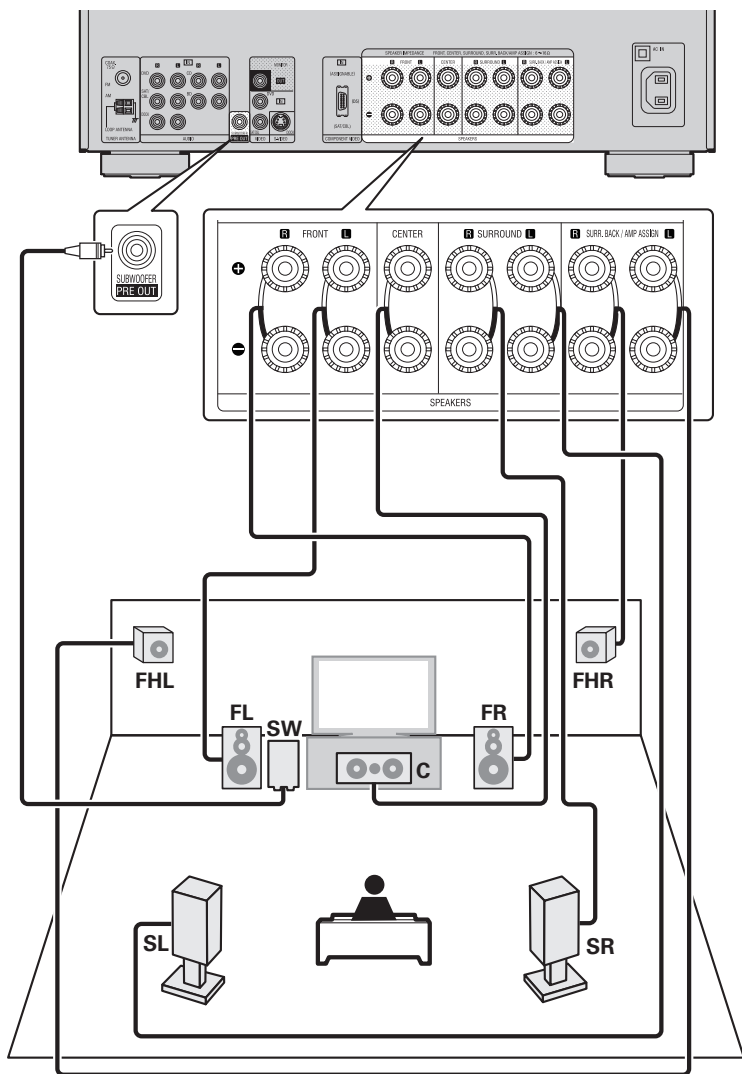
6.1 チャンネル（サラウンドバックスピーカー）を設置するとき

＊1 22°～30°　＊2 90°～110°

5.1 チャンネルのスピーカーを設置するとき

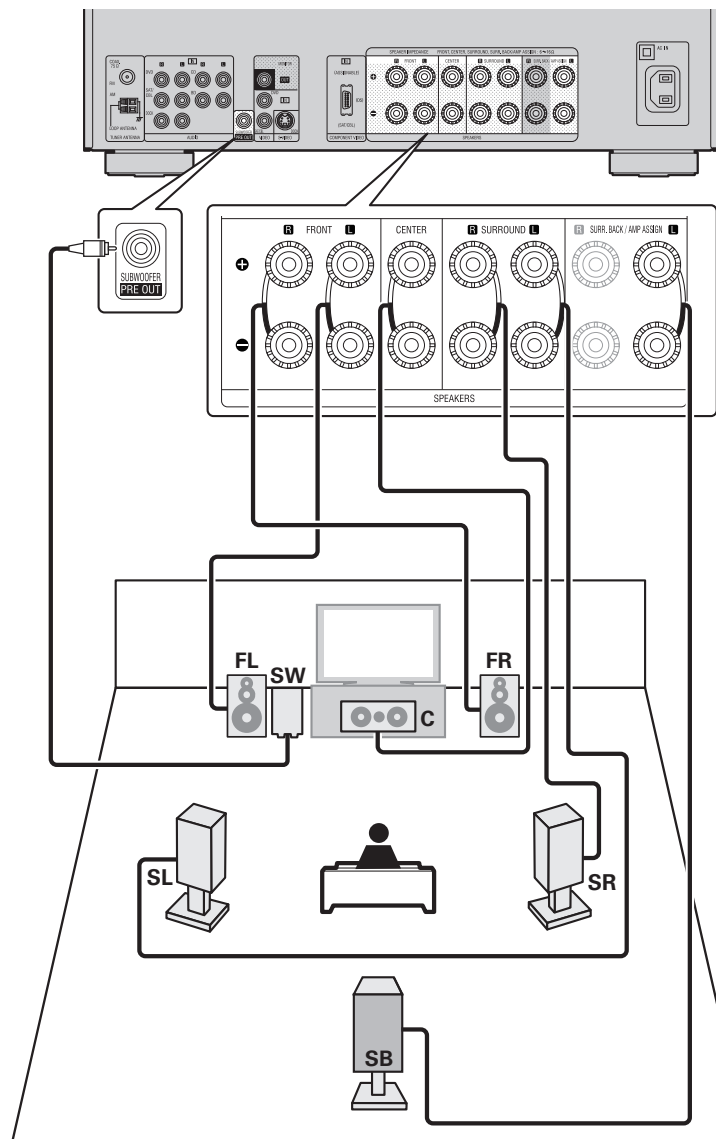
＊1 22°～30°　＊2 120°

フロント A/B スピーカーを設置するとき

FL フロントスピーカー（L）
FR フロントスピーカー（R）
C センタースピーカー
SW サブウーハー
SL サラウンドスピーカー（L）
SR サラウンドスピーカー（R）
SB サラウンドバックスピーカー
FHL フロントハイトスピーカー（L）
FHR フロントハイトスピーカー（R）

接続

- サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネルの接続方法は、7 ページをご覧ください。
- テレビの接続方法は、8 ページをご覧ください。

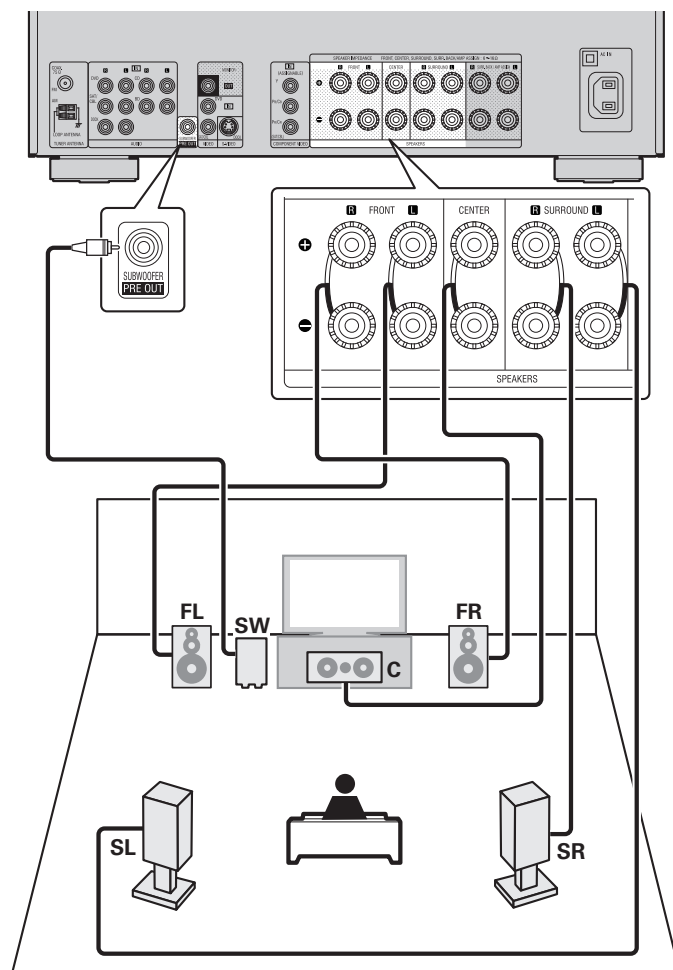
7.1 チャンネル（フロントハイトスピーカー）接続

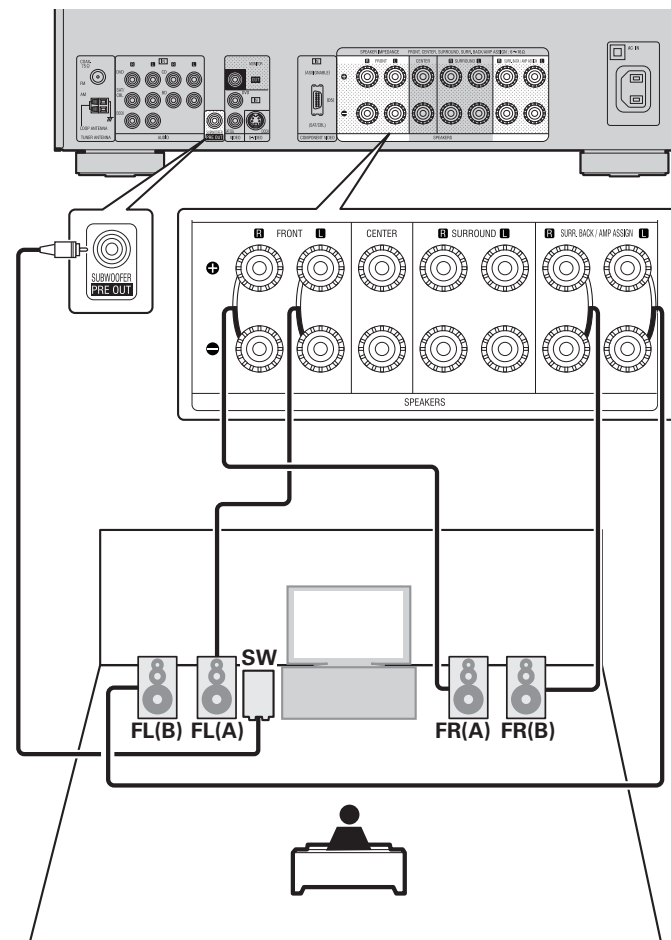
フロントハイトスピーカーを使用した 7.1 チャンネル再生をおこなう場合は、「スピーカーを設定する」（☞38 ページ）で“Amp Assign”を“Front Height”に設定してください。

6.1 チャンネル（サラウンドバックスピーカー）接続

サラウンドバックスピーカーを 1 本だけ使用する場合（6.1 チャンネル接続時）は、SURR. BACK/AMP ASSIGN 端子の“L”側に接続してください。このときのスピーカー設置については、「6.1 チャンネル（サラウンドバックスピーカー）を設置するとき」（☞34 ページ）をご覧ください。

サラウンドバックスピーカーを使用した 6.1 チャンネル再生をおこなう場合は、「スピーカーを設定する」（☞38 ページ）で“Amp Assign”を“Normal”に設定してください。

スピーカーインピーダンスおよびスピーカーケーブルの接続のしかたについては、7 ページをご覧ください。

5.1 チャンネル接続

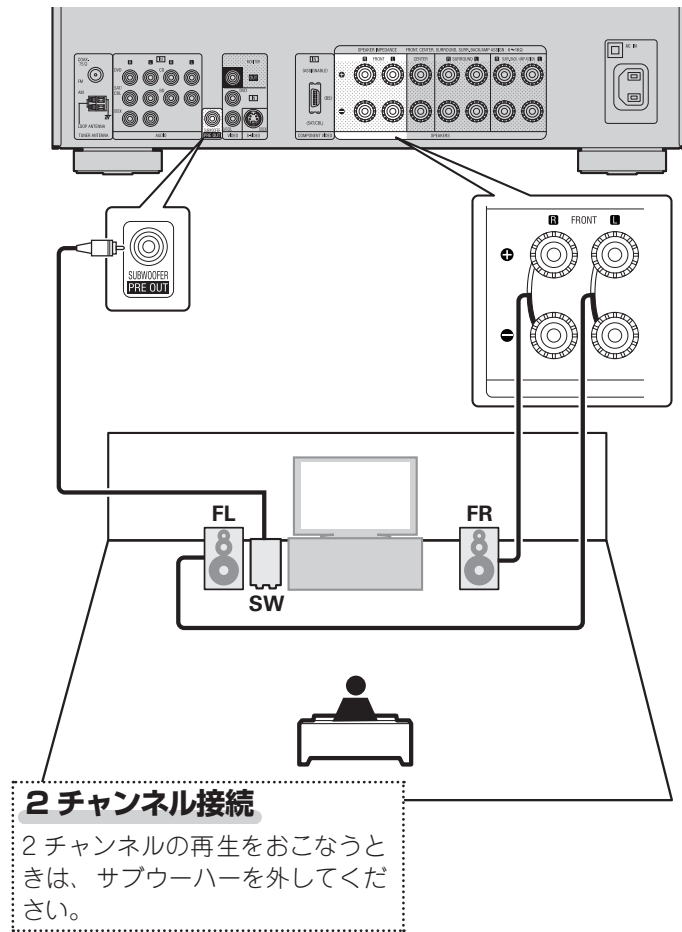
5.1 チャンネル再生をおこなう場合は、「スピーカーを設定する」(☞38 ページ) で“Amp Assign”を“Normal”に設定してください。

フロント A/B 接続

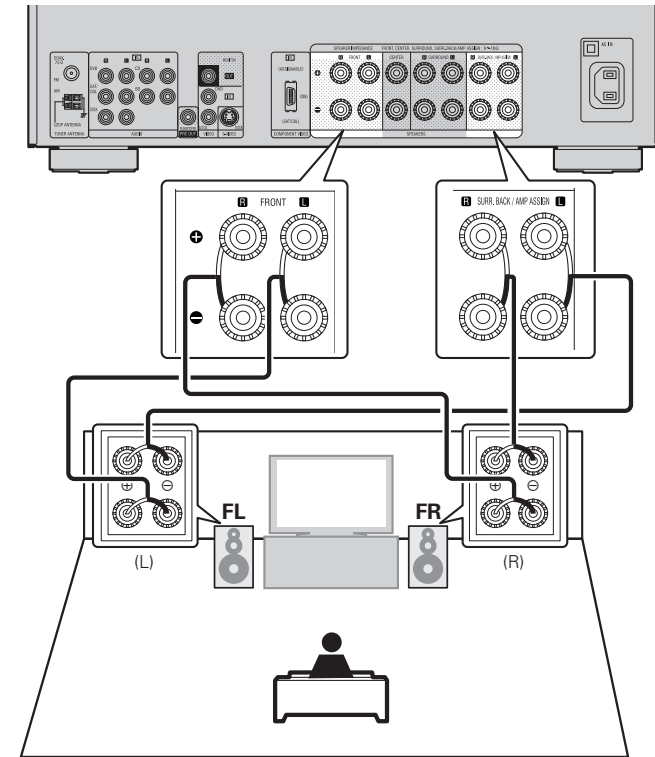
SURR.BACK/AMP ASSIGN 端子に２組目のフロントスピーカーを接続して使用することができます。
このような場合、「スピーカーを設定する」(☞38 ページ)の“Amp Assign”を“Front B”に設定してください。

マルチチャンネルソースをサラウンド再生する場合は、センタースピーカー、サラウンドスピーカーおよびサブウーハーを接続してください。5.1 チャンネル再生ができます。
マルチチャンネル再生にはフロントスピーカー(A)を、2 チャンネル再生にはフロントスピーカー(B)を使用するなど、スピーカーの仕様や再生するソースによってフロントスピーカーを使い分けることができます(☞60 ページ “Front Speaker Setup”)。

スピーカーインピーダンスおよびスピーカーケーブルの接続のしかたについては、7 ページをご覧ください。

2.1 チャンネル /2 チャンネル接続

2 チャンネル接続

2 チャンネルの再生をおこなうときは、サブウーハーを外してください。

バイアンプ接続

バイアンプ接続は、バイアンプ対応スピーカーのツィーター用端子とウーハー用端子に、別々のアンプを接続する方法です。これによりウーハーの逆起電力（出力されずに戻ってくる電力）がツィーターに流れ込んでツィーターの音質に影響を及ぼすことがないため、より高音質な再生をお楽しみいただくことができます。
このような場合、「スピーカーを設定する」（☞38 ページ）の“Amp Assign”を“Front Bi-Amp”に設定してください。

バイアンプ接続では、フロントスピーカー端子と SURR.BACK/AMP ASSIGN 端子から同じ信号を出力します。
マルチチャンネルソースをサラウンド再生するときは、センタースピーカー、サラウンドスピーカーおよびサブウーハーを接続してください。5.1 チャンネル再生ができます。

ご注意

- バイアンプ接続に対応したスピーカーをご使用ください。
- バイアンプ接続ではスピーカーのウーファー端子とツィーター端子を接続している短絡板または短絡用ワイヤーを必ず外してください。

入門編
基本編
応用編
情報編

スピーカーを設定する

□ で囲まれている項目は、お買い上げ時の設定です。

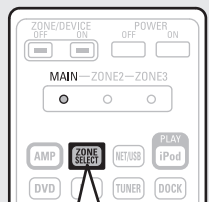
ここでは、サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネル以外の設定方法を説明しています。
サラウンドバックスピーカーを使用した 7.1 チャンネルの設定方法は、入門編の「スピーカーを設定する（Audyssey® Auto Setup）」（☞9 ページ）をご覧ください。

あらかじめスピーカーを設置し、本機とスピーカーを接続してください。

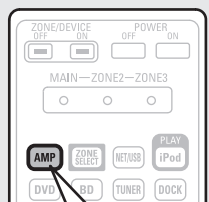
1 リモコンの設定

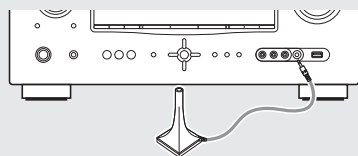
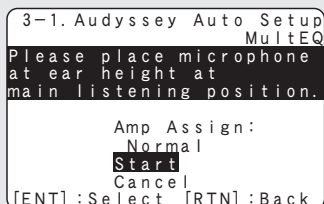
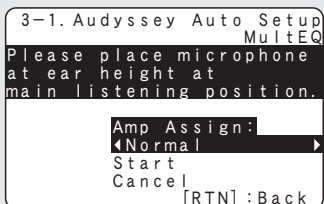
このリモコンは各ゾーンの操作と、本機以外の機器の操作ができるため、操作の前に操作するゾーンと機器の切り替えをしてください。
ここでは、メインゾーンのスピーカーの設定を本機を操作しておこなうため、次のとおりに設定してください。

❑ ゾーン操作モードの設定

ZONE SELECT を押して、ゾーン操作モードを“MAIN”に切り替える。
リモコンのゾーン操作モード表示の“MAIN”が点灯します。

ZONE SELECT を押す。

❑ 操作モードの設定

AMP を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。

AMP を押す。

2 セットアップマイクを接続する。

セットアップマイクを接続すると、テレビに次のセットアップ画面を表示します。

3 △▽ を押して、“Amp Assign” を選ぶ。

4 ◁ ▷ を押して、接続したスピーカーの設定を選ぶ。

Normal	7.1 チャンネル（フロント / センター / サラウンド / サラウンドバック / サブウーハー）スピーカーを接続して使用するときに選びます。
ZONE2	SURR.BACK/AMP ASSIGN 端子にゾーン 2 用スピーカーを接続して使用するときに選びます。
Front Height	SURR.BACK/AMP ASSIGN 端子にフロントハイトスピーカーを接続して使用するときに選びます。
Front Bi-Amp	SURR.BACK/AMP ASSIGN 端子にフロントスピーカーのツィーター部を接続し、FRONT 端子にフロントスピーカーのウーハー部を接続して使用するときに選びます。
Front B	SURR.BACK/AMP ASSIGN 端子に 2 組目のフロントスピーカーを接続して使用するときに選びます。このような場合、手順 5 へ進んでください。

5 【手順 4 で“Front B”を選んだとき】

① △▽ を押して、“Front Sp.” を選ぶ。
② ◁ ▷ を押して、使用するスピーカーを選ぶ。

A	フロントスピーカー A を測定するときに選びます。
B	フロントスピーカー B を測定するときに選びます。
A+B	フロントスピーカー A と B を同時に測定するときに選びます。

6 11 ページの“準備”手順 5 へ進む。

ご注意

Audyssey Auto Setup をおこなった後に、スピーカーの接続やサブウーハーの音量を変更しないでください。もし変更した場合には、再び Audyssey Auto Setup をおこなってください。

再生のしかた（基本操作）（☞23 ページ）

リスニングモードを選ぶ（サラウンドモード）（☞30 ページ）

- ❑ **HDMI コントロール機能（☞39 ページ）**
- ❑ **スリープタイマー機能（☞40 ページ）**
- ❑ **チャンネルレベルを調節する（☞40 ページ）**
- ❑ **クイックセレクト機能（☞41 ページ）**
- ❑ **各種メモリー機能（☞41 ページ）**

便利な機能

HDMI コントロール機能

本機と HDMI コントロール機能対応のテレビやプレーヤーを HDMI 接続し、それぞれの機器の HDMI コントロール機能の設定をすると、次の操作ができます。

- ❑ **テレビの電源オフ操作に連動して、本機の電源をオフにできます。**
- ❑ **テレビの操作で、音声を出力する機器の切り替えができます。**
  テレビの音声出力の設定操作にて「アンプから音声を出力する」の設定操作をおこなうと、アンプの電源をオンにすることができます。
- ❑ **テレビの音量調節操作で、本機の音量の調節ができます。**
- ❑ **テレビの入力の切り替え操作に連動して、本機の入力ソースの切り替えができます。**
- ❑ **プレーヤーを再生すると、本機の入力ソースがそのプレーヤーの入力ソースに切り替わります。**

ご注意

- **メニューの"HDMI Control"を"ON"に設定しているときは、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。**
- HDMI コントロール機能は、HDMI コントロール機能対応のテレビが動作の制御をおこないます。HDMI コントロール機能を使用するときは、必ずテレビを接続してください。
- 接続しているテレビやプレーヤーによっては、動作しない機能があります。あらかじめ各機器の取扱説明書をご覧ください。
- メニューの"Power Off Control"を"OFF"（☞61 ページ）に設定している場合は、接続している機器の電源がスタンバイになっても、本機の電源はスタンバイになりません。
- HDMI 機器の接続を追加するなど、接続に関する変更をおこなうと、連動操作が初期化される場合があります。このような場合は設定をやり直してください。
- メニューの"HDMI Control"を"ON"に設定している場合は、"Input Assign"（☞49 ページ）の設定で、"TV"に HDMI 端子を割り当てることはできません。

1 本機の HDMI コントロール機能を有効にする。
メニューの"HDMI Control"（☞60 ページ）を"ON"に設定してください。

2 HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の電源を入れる。

3 HDMI ケーブルで接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能を有効にする。
- 接続している機器の設定については、各機器の取扱説明書をご覧ください。
- いずれかの機器の電源プラグを抜いた場合は、手順 2、3 をおこなってください。

4 テレビの入力を、本機に接続した HDMI 入力に切り替える。

5 本機の入力を HDMI 入力のソースに切り替えて、プレーヤーの映像が正しく映るか確認する。

6 テレビの電源をスタンバイにすると、本機とプレーヤーの電源もスタンバイになることを確認する。

HDMI コントロール機能が正しく動作しない場合は、次の点をご確認ください。
- テレビやプレーヤーが HDMI コントロール機能に対応しているか。
- メニューの"HDMI Control"の設定（☞60 ページ）が"ON"になっているか。
- メニューの"Power Off Control"の設定（☞61 ページ）が"OFF"になっていないか。
- 本機に接続しているすべての機器の HDMI コントロール機能の設定は正しいか。

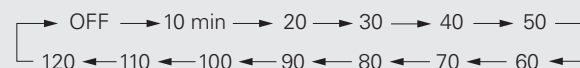
ご注意

以下の操作をおこなうと、連動操作が初期化される場合があります。その場合には、手順 2、3 をおこなってください。
- メニューの"Input Assign"⇨"HDMI"設定（☞49 ページ）の変更
- HDMI で接続している機器の接続変更や機器の増加

スリープタイマー機能

設定した時間が経過すると、自動的に電源をスタンバイにすることができます。
視聴しながら、おやすみになるときに便利です。

SLEEP を押して、スリープ時間を設定する。
ディスプレイの“**SLEEP**”表示が点灯します。

- **SLEEP** を押すたびに、スリープ時間が以下の順序で切り替わります。

スリープタイマーを解除するとき

SLEEP を押して、“OFF”を選ぶ。
ディスプレイの“**SLEEP**”表示が消灯します。

- 本機の電源がスタンバイまたはオフになると、スリープタイマーの設定は解除されます。
- スリープタイマーでメインゾーンの電源が切れると、ゾーン 2 の電源も同時に切れます。

チャンネルレベルを調節する

再生するプログラムソースまたはお好みに合わせて、各チャンネルレベルの調節ができます。

❑スピーカーごとにチャンネルレベルを調節する

1 ZONE SELECT を押して、ゾーン操作モードを“MAIN”に切り替える。
リモコンのゾーン操作モード表示の“MAIN”が点灯します。

2 AMP を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。

3 CH LEVEL を押す。

4 △▽ を押して、調節するスピーカーを選ぶ。
- ボタンを押すたびに、チャンネルが切り替わります。

5 ◁ ▷ を押して、チャンネルレベルを調節する。
- サブウーハーのチャンネルレベルを調節する場合、“–12dB”のときに ◁ を押すと、“OFF”の設定になります。

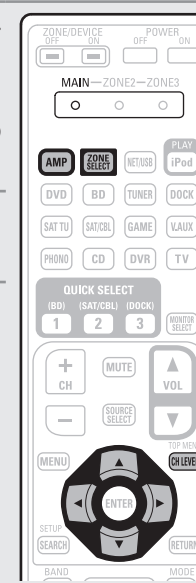
PHONES 端子にヘッドホンプラグを挿入しているときは、ヘッドホン用のチャンネルレベルを調節できます。

❑チャンネルレベルをまとめて調節する（フェーダー機能）

フロント側（フロントスピーカー / フロントハイトスピーカー / センタースピーカー）またはリア側（サラウンドスピーカー / サラウンドバックスピーカー）のスピーカーのチャンネルレベルをまとめて調節（減衰）します。

1 ZONE SELECT を押して、ゾーン操作モードを“MAIN”に切り替える。
リモコンのゾーン操作モード表示の“MAIN”が点灯します。

2 AMP を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。

3 CH LEVEL を押す。

4 ▽ を押して“Fader”を選び、◁ ▷ を押して調節するチャンネル（“FRONT”または“REAR”）を選ぶ。

5 ◁ ▷ を押して、チャンネルレベルを調節する。
（◁：フロント側、▷：リア側）
- 一番小さい値に調節されているチャンネルレベルが、–12dB になるまで調節できます。

フェーダー機能は、サブウーハーチャンネルにははたらきません。

クイックセレクト機能

手順 1 の設定内容をまとめて記憶させることができます。
- よく使う設定を **QUICK SELECT 1**～**3** ボタンに記憶させておくと、常に同じ再生環境を簡単に呼び出してお楽しみいただくことができます。
- ゾーンごとに 3 つの設定を記憶させることができます。

❑記憶のさせかた

1 **メインゾーンで、以下の内容を記憶させたい状態に設定する。**

① 入力ソース（☞23ページ）
② 音量（☞23ページ）
③ サラウンドモード（☞30ページ）
④ Video Select（☞50ページ）
⑤ Audyssey Setting（MultEQ®、Dynamic EQ®、Dynamic Volume®）（☞55ページ）

2 **メインゾーンで、ディスプレイに“Memory” が表示されるまで、QUICK SELECT を長押しする。**
現在の設定を記憶します。

【 お買い上げ時の設定 】

記憶させるボタン	入力ソース	音量
QUICK SELECT 1	BD	-40dB
QUICK SELECT 2	SAT/CBL	-40dB
QUICK SELECT 3	DOCK	-40dB

❑呼び出しかた

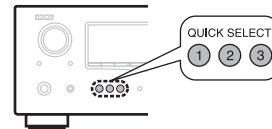
1 **ZONE SELECT を押して、ゾーン操作モードを“MAIN” に切り替える。**
リモコンのゾーン操作モード表示の“MAIN”が点灯します。

2 **呼び出したい設定が記憶されている QUICK SELECT を押す。**
ディスプレイの Q1、Q2 または Q3 表示が点灯します。

クイックセレクト名を変更するには

本機では、メニュー画面に表示するクイックセレクト名をお好みの名前に変更することができます。
変更のしかたは、メニューの“Quick Select Name”（☞63ページ）をご覧ください。

- クイックセレクト機能は、ゾーンごとに設定できます（☞43ページ「クイックセレクト機能」）。
- 本体の **QUICK SELECT** を押しても、リモコンと同じように操作できます。

ご注意

メニューの“Source Delete”（☞63 ページ）で、クイックセレクト機能に記憶させている入力ソースを削除すると、そのクイックセレクトの設定も削除されます。このような場合は、もう一度クイックセレクト機能に記憶させてください。

各種メモリー機能

❑パーソナルメモリープラス機能

前回使用していたときの設定内容（入力モード、HDMI 出力モード、 サラウンドモード、MultEQ、Dynamic EQ、Dynamic Volume やオーディオディレイなど）を入力ソースごとに記憶します。

サラウンドパラメーター、トーンコントロールの設定および各スピーカーの音量は、サラウンドモードごとに記憶します。

❑ラストファンクションメモリー

スタンバイにする直前の各種設定を記憶します。
再び電源を入れると、スタンバイにする直前の設定になります。

ゾーン 2（別の部屋）での再生

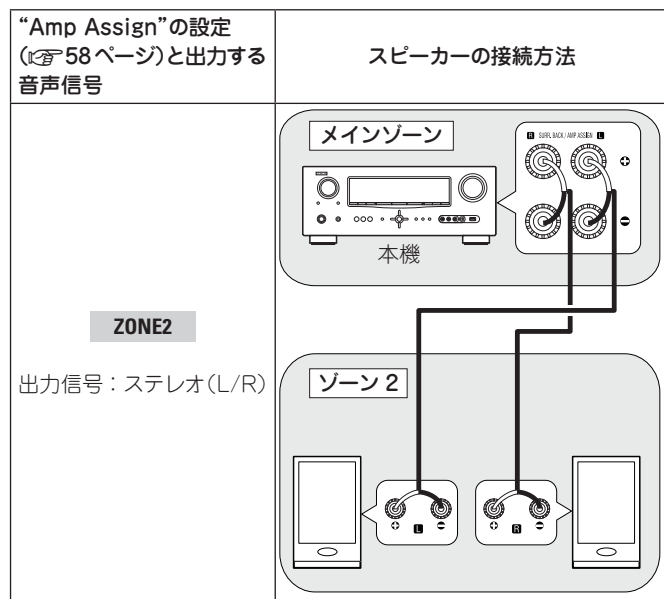
- 本機を操作してメインゾーン（本機のある部屋）以外の部屋（ゾーン 2）で、音声を楽しむことができます。
- メインゾーンとゾーン 2 で同時に同じソースを再生することはもちろん、別々のソースを再生することもできます。

音声出力

スピーカー出力によるゾーン 2 再生

アンプアサイン機能により、本機の SURR.BACK/AMP ASSIGN 端子からゾーン 2 の音声を出力します。

❏スピーカーの接続と設定

“Amp Assign”の設定（☞58 ページ）と出力する音声信号	スピーカーの接続方法
ZONE2 出力信号：ステレオ（L/R）	

ご注意

ゾーン 2 では、HDMI 端子、デジタル端子（COAXIAL または OPTICAL）から入力されたデジタル音声信号は再生できません。

再生のしかた

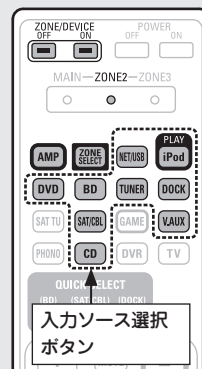
1 ZONE SELECT を押して、ゾーン操作モードを“ZONE2”に切り替える。

リモコンのゾーン操作モード表示の“ZONE2”が点灯します。

2 AMP を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。

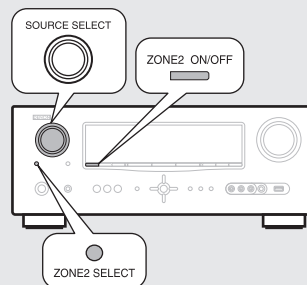
3 ZONE/DEVICE ON を押して、ゾーン 2 の電源を入れる。

Z2 表示が点灯します。

- 電源がスタンバイ状態のときに入力ソース選択ボタンを押しても、ゾーン 2 の電源がオンになります。
- **ZONE/DEVICE OFF** を押すと、ゾーン 2 の電源がオフになります。
- 本体の **ZONE2 ON/OFF** を押しても、ゾーン 2 の電源をオン / オフすることができます。

4 入力ソース選択ボタンを押して、再生する入力ソースを選ぶ。

選択した入力ソースの音声を、ゾーン 2 より出力します。

- 本体の **ZONE2 SELECT** を押した後に **SOURCE SELECT** を回しても、入力ソースの選択ができます。

メインゾーンとゾーン 2 の両方の電源がオンのときにメインゾーンの電源だけをオフにすることができます。手順 1 の操作で“MAIN”を選んでから **ZONE/DEVICE OFF** を押してください。

音量の調節

VOL ▲▼ を押して、音量を調節する。

【 調節できる範囲 】 －－－ –80dB ~ –40dB ~ 18dB

（メニューの“Volume Display”の設定（☞63 ページ）が、“Relative”のとき）

【 調節できる範囲 】 0 ~ 41 ~ 99

（メニューの“Volume Display”の設定（☞63 ページ）が、“Absolute”のとき）

- お買い上げ時は、“Volume Limit”（☞62 ページ）を“-10dB（71）”に設定しています。

本体の **ZONE2 SELECT** を押した後に **MASTER VOLUME** を回しても、音量を調節することができます。

一時的に音を消す（ミューティング）

MUTE を押す。

メニューの“Mute Level”（☞62 ページ）で設定したレベルまで音量が減衰します。

- ミューティングを解除するときは、もう一度 **MUTE** を押してください。音量を調節したり、ゾーン 2 の電源をオフにしても解除できます。

クイックセレクト機能

ゾーン 2 においても、手順 1 の設定内容をまとめて記憶させることができます。

- よく使う設定を **QUICK SELECT 1**～**3** ボタンに記憶させておくと、常に同じ再生環境を簡単に呼び出してお楽しみいただくことができます。
- ゾーンごとに 3 つの設定を記憶させることができます。

❑記憶のさせかた

1 **ゾーン 2 で、以下の内容を記憶させたい状態に設定する。**

① 入力ソース(☞42ページ)
② 音量(☞42ページ)

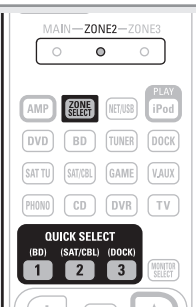
2 **ZONE SELECT を押して、ゾーン操作モードを"ZONE2" に切り替える。**

リモコンのゾーン操作モード表示の"ZONE2"が点灯します。

3 **本体のディスプレイに"Memory" が表示されるまで、QUICK SELECT を押す。**

現在の設定を記憶します。

【お買い上げ時の設定】

記憶させるボタン	入力ソース	音量
QUICK SELECT 1	BD	-40dB
QUICK SELECT 2	SAT/CBL	-40dB
QUICK SELECT 3	DOCK	-40dB

❑呼び出しかた

1 **ZONE SELECT を押して、ゾーン操作モードを"ZONE2" に切り替える。**

リモコンのゾーン操作モード表示の"ZONE2"が点灯します。

2 **呼び出したい設定が記憶されている QUICK SELECT を押す。**

ディスプレイの Q1、Q2 または Q3 表示が点灯します。

クイックセレクト名を変更するには

本機では、メニュー画面に表示するクイックセレクト名をお好みの名前に変更することができます。
変更のしかたは、メニューの"Quick Select Name"(☞63ページ)をご覧ください。

詳細設定のしかた

メニュー 一覧

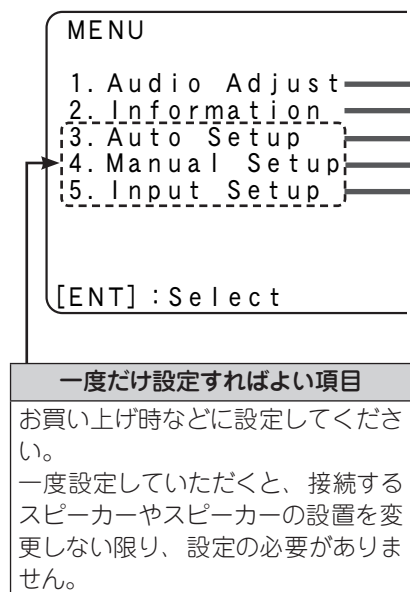
メニューの操作をおこなうときは、本機にテレビを接続し、テレビ画面にメニューを表示させてから操作してください。
メニューの操作のしかたは、右記の参照ページをご覧ください。

```
MENU

1. Audio Adjust
2. Information
3. Auto Setup
4. Manual Setup
5. Input Setup

[ENT]:Select
```

一度だけ設定すればよい項目

お買い上げ時などに設定してください。
一度設定していただくと、接続するスピーカーやスピーカーの設置を変更しない限り、設定の必要がありません。

“Input Setup” メニューは、選択している入力ソースによって、表示内容が異なります。

設定項目	番号	詳細項目	内　容	参照ページ
1. Audio Adjust 1. Audio Adjust 1. Surround Parameter 2. Tone 3. Audyssey Settings 4. Manual EQ 5. RESTORER 6. Audio Delay [ENT]:Select [RTN]:Back	1-1	Surround Parameter	音場効果を調節します。	52
	1-2	Tone	トーンを調節します。	54
	1-3	Audyssey Settings	MultEQ®、Dynamic EQ® および Dynamic Volume® を設定します。	55
	1-4	Manual EQ	グラフィックイコライザーを使って各スピーカーの音色を調節します。	56
	1-5	RESTORER	圧縮音声を圧縮前の状態に復元し、低域の量感を補正して豊かに再生します。	57
	1-6	Audio Delay	映像と音声の再生タイミングのずれを補正します。	57
2. Information 2. Information 1. Status 2. Audio Input Signal 3. HDMI Information 4. Auto Surround Mode 5. Quick Select 6. Preset Channel [ENT]:Select [RTN]:Back	2-1	Status	現在の設定状態を表示します。	65
	2-2	Audio Input Signal	音声入力信号の情報を表示します。	65
	2-3	HDMI Information	HDMI の入出力信号やテレビの情報を表示します。	65
	2-4	Auto Surround Mode	オートサラウンドモードに記憶している内容を表示します。	65
	2-5	Quick Select	クイックセレクト機能で記憶している内容を表示します。	65
	2-6	Preset Channel	チューナーのプリセットチャンネル情報を表示します。	65
3. Auto Setup 3. Auto Setup 1. Audyssey Auto Setup 2. Parameter Check [ENT]:Select	3-1	Audyssey Auto Setup	ご使用になるスピーカーに最適な設定を自動的におこないます。	9
	3-2	Parameter Check	Audyssey Auto Setup の測定結果を確認します。 この項目は、Audyssey Auto Setup をおこなった後に表示します。	13
4. Manual Setup 4. Manual Setup 1. Speaker Setup 2. HDMI Setup 3. Audio Setup 4. ZONE2 Setup 5. Option Setup [ENT]:Select [RTN]:Back	4-1	Speaker Setup	スピーカーの大きさや距離、チャンネルレベルなどを設定します。	58
	4-2	HDMI Setup	HDMI の映像 / 音声出力に関する設定をします。	60
	4-3	Audio Setup	音声の再生に関する設定をします。	61
	4-4	ZONE2 Setup	ゾーン2で再生する音声の設定をします。	62
	4-5	Option Setup	その他の設定をします。	63
5. Input Setup （例：TUNER） 5. Input Setup TUNER 1. Auto Preset 2. Preset Skip 3. Preset Name 4. Video 5. Rename 6. Source Level [ENT]:Select [RTN]:Back	-	Auto Preset	自動で FM 放送局をプリセットします。	48
		Preset Skip	選局するとき、スキップしたい放送局をあらかじめ設定します。	48
		Preset Name	プリセットした放送局の表示名を変更します。	48
		Input Assign	入力端子の割り当てを変更します。	49
		Video	映像の設定をします。	50
		Input Mode	入力モードとデコードモードを設定します。	51
		Rename	選択した入力ソースの表示名を変更します。	51
		Source Level	音声入力の再生レベルを補正します。	51
		Playback Mode	iPod や USB メモリーの再生に関する設定をします。	51

テレビ画面とディスプレイの表示について

テレビ画面とディスプレイの表示について、代表的な例を説明します。

	テレビ画面	ディスプレイ	説　明
トップメニューの表示	MENU 1 Audio Adjust 2 Information 3 Auto Setup 4 Manual Setup 5 Input Setup [ENT]:Select	Audio Adjust	❶ メニュー項目を表示します。 ❷ テレビ画面：選択中の行を示します。 ディスプレイ：選択中の項目を表示します。 • テレビ画面で、設定した項目に移動させるときは、△▽ を押します。 ❸ 選択中の設定メニューの番号を表示します。
設定を変更するときの表示	5-1. Input Assign Default HDMI Digi Comp BD 1 DVD 2 TV – 01 SAT/CBL 3 C1 1 GAME 4 V. AUX [ENT]:Select [RTN]:Back **ENTER** を押す。 5-1. Input Assign Default HDMI Digi Comp BD ◀ 1▶ DVD 2 TV – 01 SAT/CBL 3 C1 1 GAME 4 V. AUX [ENT]:Select [RTN]:Back	BD [HDMI1] **ENTER** を押す。 BD ◀HDMI1 ▶	❶ 選択中の設定メニューの番号を表示します。 ❷ テレビ画面:選択中の行を示します。 ディスプレイ：選択中の項目を表示します。 • テレビ画面で、設定したい項目に移動させるときは、△▽◁ ▷ を押します。 ❸ **ENTER**を押して、設定したい項目を選びます。 ❹ 設定を変更できる項目には、項目名の両端に ◀ ▶ を表示します。◁ ▷を押して、設定を変更します。
文字を入力するときの表示	5-4. Rename DVD :DVD Default [SFT]:a/A [SRCH]:KeyBD [ENT]:OK [RTN]:Cancel	DVD DVD	❶ ◁ ▷を押すと、カーソルが左右に移動します。 ❷ 入力したい位置で△▽を押すと、文字の入力ができます。 ❸ 選択中の設定メニューの番号を表示します。 キーボード画面での文字入力や、リモコンの数字ボタンでの文字入力方法は、46 ページをご覧ください。
お買い上げ時の設定に戻すときの表示	5-4. Rename DVD : [DVD] Default [▲▼]:Up/Down [ENT]:Select [RTN]:Back	Default **ENTER** を押す。 Default? :◀ No	❶ ▽を押して"Default"を選び、**ENTER**を押して設定します。 ❷ 選択中の設定メニューの番号を表示します。

文字入力について

本機は、以下の画面表示名をお好みに合わせて変更することができます。

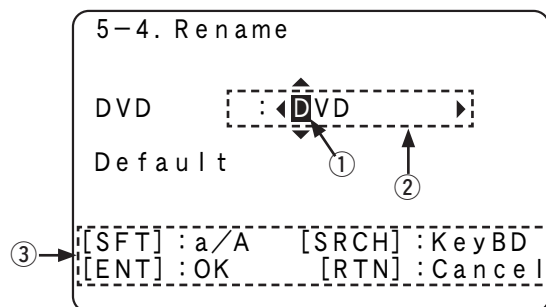
- "Preset Name"（☞48 ページ）
- "Rename"（☞51 ページ）
- "Zone Rename"（☞64 ページ）
- "Quick Select Name"（☞63 ページ）

文字の入力には、次の３通りの方法があります。

文字入力方式の種類

入力方式	操作の概要
数字ボタンで入力する（ノーマル画面）	• リモコンで操作します。 • 一つのボタンに複数の文字が割り当ててあり、ボタンを押すたびに文字が切り替わります。
カーソルボタンで入力する（ノーマル画面）	• リモコンまたは本体で操作します。 • △▽◁ ▷ と **ENTER** で文字を入力します。
キーボード画面で入力する	• リモコンで操作します。 • テレビ画面に表示される文字を選んで、文字を入力します。

ノーマル画面入力方式

❑ノーマル入力画面の表示

① カーソル
② 文字入力部
③ 操作ボタンガイド

- **[SFT] SHIFT**　大文字 / 小文字の切り替え
- **[SRCH] SEARCH**　キーボード画面入力方式への切り替え
- **[ENT] ENTER**　文字入力の確定
- **[RTN] RETURN**　文字入力の取り消し

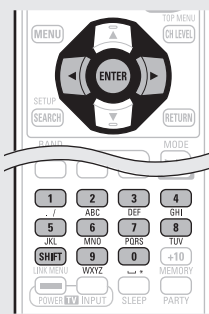
数字ボタンで入力する

1 **文字の入力をおこなう画面を表示する（☞44 ページ「メニュー 一覧」）。**

2 **◁ ▷ を押して変更したい文字にカーソルを合わせ、入力したい文字が表示されるまで、数字ボタン（0 ～ 9）を押す。**

- 入力できる文字の種類は、次のとおりです。

ボタン	文字	ボタン	文字
1	1 - . / :	6 MNO	M N O m n o 6
2 ABC	A B C a b c 2	7 PQRS	P Q R S p q r s 7
3 DEF	D E F d e f 3	8 TUV	T U V t u v 8
4 GHI	G H I g h i 4	9 WXYZ	W X Y Z w x y z 9
5 JKL	J K L j k l 5	0	0（空白）' ( ) ＊ + ; < = > ? [ ]

- 文字を入力中に **SHIFT** を押すと、文字の種類を切り替えることができます。
- 同じボタンに割り当てられている文字を続けて入力するときは、文字を入力した後に ▷ を押してカーソルを右に移動させ、次の文字を入力してください。
- 別のボタンに割り当てられている文字を続けて入力するときは、続けて別のボタンを押すと、自動的にカーソルを移動し、文字を確定します。

3 **手順 2 をくり返して名前を変更し、ENTER を押して入力した文字を確定する。**

例： 入力ソース"DVD"を"DENON"に変更する場合

① "V"にカーソルを合わせる。　DVD
② 3 DEF を2回押す。
"V"が"E"に変わります。　DED
③ 6 MNO を2回押す。
自動的に"E"を確定し、"D"が"N"に変わります。　DEN
④ ▷を押す。
"N"を確定します。　DEN
⑤ 6 MNO を3回押す。
"O"を入力します。　DENO
⑥ ▷を押す。
"O"を確定します。　DENO
⑦ 6 MNO を2回押す。
"N"を入力します。　DENON
⑧ **ENTER**を押して、入力ソース名を確定する。

カーソルボタンで入力する

1 **文字の入力をおこなう画面を表示する（☞44 ページ「メニュー 一覧」）。**

2 **◁ ▷ を押して、変更したい文字にカーソルを合わせる。**

3 **△▽ を押して文字を変更し、ENTER を押す。**

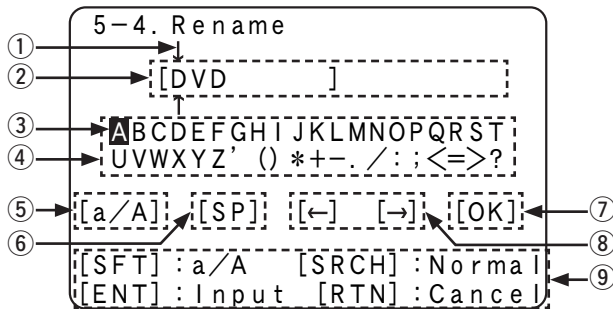
- 入力できる文字の種類は、次のとおりです。

【英大文字】
ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
【英小文字】
abcdefghijklmnopqrstuvwxyz
【記号】' ( ) ＊ + - . / : ; < = > ? [ ]
【数字】0123456789（空白）

- 文字を入力中に **SHIFT** を押すと、大文字と小文字を切り替えることができます。

4 **手順 2、3 をくり返して名前を変更し、ENTER を押して ENTER を押して入力した文字を確定する。**

キーボード画面入力方式

❑キーボード入力画面の表示

① カーソル
② 文字入力部
③ カーソル
④ キーボード部
⑤ 大文字/小文字の切り替えキー
⑥ スペース入力キー
⑦ 文字入力の確定キー
⑧ カーソル移動キー
⑨ 操作ボタンガイド

- **[SFT] SHIFT** 大文字 / 小文字の切り替え
- **[SRCH] SEARCH** ノーマル画面入力方式への切り替え
- **[ENT] ENTER** 選択文字の入力
- **[RTN] RETURN** 文字入力の取り消し

1 文字の入力をおこなう画面を表示する（☞44 ページ「メニュー 一覧」）。

2 ノーマル入力画面表示中に、**SEARCH** を押す。
キーボード入力画面に切り替わります。

3 変更したい文字を選ぶ。
① △▽◁ ▷ を押して [←] または [→] を選ぶ。
② **ENTER** を押して、変更したい文字にカーソルを合わせる。
ENTER を押すたびに、カーソルが 1 文字ずつ移動します。

4 △▽◁ ▷ を押して、入力したい文字を選び、**ENTER** を押す。

- 入力できる文字の種類は、次のとおりです。

【英大文字 / 記号】
ABCDEFGHIJKLMNOPQRST
UVWXYZ ' ( ) * + - . / : ; < = > ?
【英小文字 / 数字】
abcdefghijklmnopqrst
uvwxyz[ ]0123456789

5 手順 3、4 をくり返して、名前を変更する。

6 △▽◁ ▷ を押して“[OK]”を選び、**ENTER** を押す。

入力の設定（Input Setup）

現在選択している入力ソースに関する設定をします。
- 設定を変更しなくてもご使用いただけます。必要に応じて設定してください。

メニューの操作のしかた

1 **ZONE SELECT** を押して、ゾーン操作モードを“MAIN” に切り替える。
リモコンのゾーン操作モード表示の“MAIN”が点灯します。

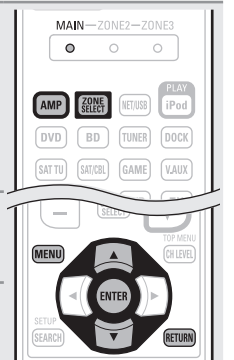
2 **AMP** を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。

3 **MENU** を押す。
テレビ画面にメニューを表示します。

4 △▽ を押して、設定または操作したいメニューを選ぶ。

5 **ENTER** を押して、設定を確定する。

- 前の項目に戻るときは、**RETURN** を押してください。
- メニューを終了するときは、メニュー表示中に **MENU** を押してください。メニュー画面が消えます。

リモコンの操作ボタン	カーソルを移動する（上 / 下 / 左 / 右）	ENTER 設定を確定する	RETURN ひとつ前のメニューに戻る

知っておいてほしいこと

❏本書内の入力ソースの表示について

本書では、各項目で設定できる入力ソース名を次のようにあらわしています。

BD　DVD　TV　SAT/CBL　GAME　V.AUX　DOCK　USB/iPod　TUNER　CD

ご注意

メニューの"Source Delete"(☞63 ページ)で、"Delete"に設定した入力ソースは選べません。

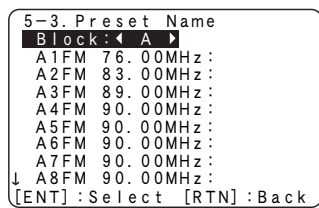
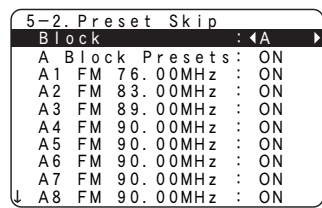
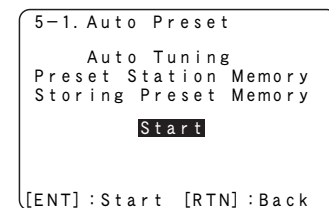
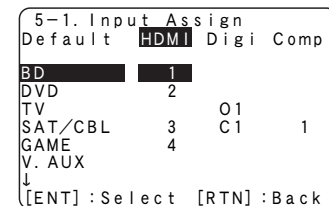
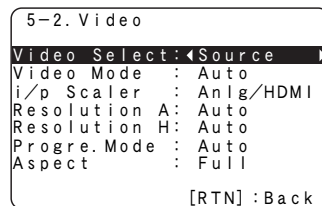
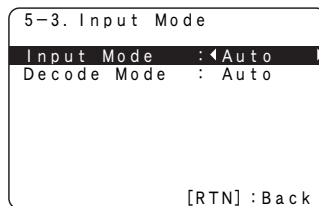
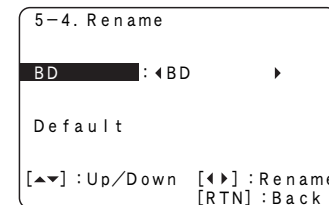
"Input Setup"でできること

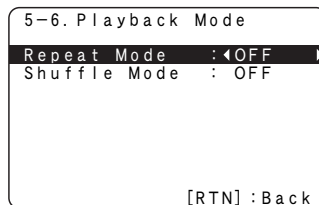
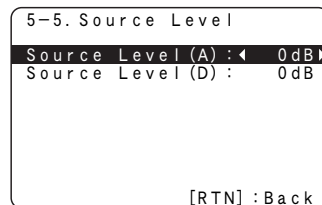
Auto Preset (☞48 ページ)

Preset Skip (☞48 ページ)

Preset Name (☞48 ページ)

Input Assign (☞49 ページ)

Video (☞50 ページ)

Input Mode (☞51 ページ)

Rename (☞51 ページ)

Source Level (☞51 ページ)

Playback Mode (☞51 ページ)

Auto Preset

自動で FM 放送を選局し、プリセットします。

設定項目	設定内容
Start FM 放送の選局をはじめます。 TUNER	"Auto Preset" でお好みの FM 放送を選局できない場合は、「手動でラジオ放送を選局しプリセットする(マニュアルプリセット)」(☞27 ページ)でお好みの放送を選局してください。

Preset Skip

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

選局するとき、スキップしたい放送局をあらかじめ設定します。

設定項目	設定内容
A～G プリセットしたブロックの中から、スキップしたいブロック(A～G)を選びます。 TUNER	**1～8**:選択したブロックの中で、スキップしたいチャンネルを設定します。 • **ON**：選択したチャンネルを表示します。 • **Skip**：選択したチャンネルを表示しません。 選択したブロックを "Skip" に設定すると、ブロック(A～G) ごとにスキップすることができます。

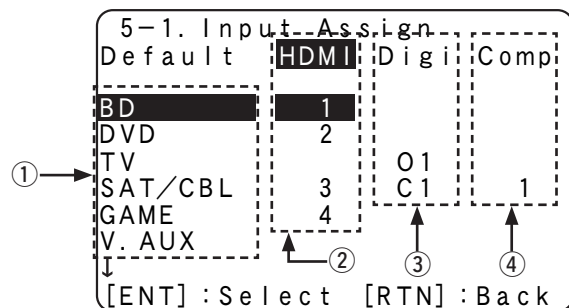
Preset Name

プリセットした放送局の表示名を変更します。

設定項目	設定内容
A1～G8 選択したチャンネルの表示名を変更します。 TUNER	• 8 文字まで入力できます。 • 文字の入力方法については、46 ページをご覧ください。
Default 変更されたプリセット名を、お買い上げ時の設定に戻します。	**Yes**：お買い上げ時の設定に戻します。 **No**：お買い上げ時の設定に戻しません。

リモコンの操作ボタン　カーソルを移動する(上 / 下 / 左 / 右)　ENTER 設定を確定する　RETURN ひとつ前のメニューに戻る

Input Assign

"Input Assign"メニュー画面の表示例

① 入力ソース
② HDMI入力
③ デジタル音声入力
"O" は光デジタル入力、"C" は同軸デジタル入力をあらわします。
④ コンポーネントビデオ入力

"Input Assign"メニューの操作のしかた

1 △▽◁ ▷ を押して、設定したい項目へカーソルを移動させ、**ENTER** を押す。

2 ◁ ▷ を押して、入力端子を割り当てる。

3 **ENTER** を押して、設定を確定する。

ご注意

Game ソースの"HDMI"、"Digital" および"Component" の割り当てをすべて"None" に設定すると、入力ソースの切り替えで Game ソースが選べなくなります。

設定項目	設定内容
HDMI 入力ソースに割り当てられている HDMI 入力端子を変更するときに設定します。 BD DVD TV SAT/CBL GAME V.AUX DOCK	**HDMI 1**/**HDMI 2**/**HDMI 3**/**HDMI 4**：選択した入力ソースに、いずれかの HDMI 入力端子を割り当てます。 **None**：選択した入力ソースに HDMI 入力端子を割り当てません。 • 各入力ソースのお買い上げ時の設定は、以下のとおりです。

入力ソース	BD	DVD	TV	SAT/CBL	GAME	V.AUX	DOCK
お買い上げ時の設定	HDMI 1	HDMI 2	None	HDMI 3	HDMI 4	None	None

設定項目	設定内容
HDMI （つづき）	• HDMI 入力端子の割り当てができない入力ソースには、"-"を表示します。 • "HDMI" で割り当てた映像信号と、メニューの"Input Assign" ⇨ "Digital" で割り当てた音声信号を組み合わせて再生する場合は、"Input Mode"（☞51 ページ）を"Digital"に設定してください。 • アナログ端子およびデジタル端子から入力された音声信号は、テレビに出力しません。 • 入力ソースの"DOCK" に HDMI 入力端子を割り当てていても、iPod 用コントロールドックが接続されているときは、"DOCK" が有効になります。 • メニューの"HDMI Control"（☞60 ページ）を"ON" に設定している場合は、"TV" に"HDMI" を割り当てることはできません。
Digital 入力ソースに割り当てられているデジタル入力端子を変更するときに設定します。 BD DVD TV SAT/CBL GAME V.AUX DOCK CD	**C1**（同軸デジタル入力端子）/**O1**（光デジタル入力端子）：選択した入力ソースに、いずれかのデジタル入力端子を割り当てます。 **None**：選択した入力ソースにデジタル入力端子を割り当てません。 • 各入力ソースのお買い上げ時の設定は、以下のとおりです。

入力ソース	BD	DVD	TV	SAT/CBL	GAME
お買い上げ時の設定	None	None	OPTICAL 1	COAXIAL 1	None

入力ソース	V.AUX	DOCK	CD
お買い上げ時の設定	None	None	None

設定項目	設定内容
Component 入力ソースに割り当てられているコンポーネントビデオ（D）入力端子を変更するときに設定します。 BD DVD TV SAT/CBL GAME V.AUX DOCK	**Comp1**（コンポーネントビデオ（D）1 入力端子）：選択した入力ソースにコンポーネントビデオ（D）入力端子を割り当てます。 **None**：選択した入力ソースにコンポーネントビデオ（D）入力端子を割り当てません。 • 各入力ソースのお買い上げ時の設定は、以下のとおりです。

入力ソース	BD	DVD	TV	SAT/CBL	GAME	V.AUX	DOCK
お買い上げ時の設定	None	None	None	Component 1	None	None	None

• コンポーネントビデオ（D）入力端子の割り当てができない入力ソースには、"-"を表示します。
• 入力ソースの"DOCK" にコンポーネント（D）入力端子を割り当てていても、iPod 用コントロールドックが接続されているときは、"DOCK" が有効になります。

設定項目	設定内容
Default “Input Assign”で設定した内容を、お買い上げ時の設定に戻します。	**Yes**：お買い上げ時の設定に戻します。 **No**：お買い上げ時の設定に戻しません。 “Default”を選んで **ENTER** を押すと“Default Setting?”というメッセージが表示されますので、“Yes”または“No”を選び、**ENTER** を押してください。

Video

<u>お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。</u>

映像に関する設定をします。

＊ “BD”、“TV”よび“GAME”は、各入力ソースに“HDMI”（☞49ページ）または“Component”（☞49ページ）を割り当てているときに設定できます。

設定項目	設定内容
Video Select 今聞いている音声に、好きな映像を組み合わせて再生します。	**<u>Source</u>**：入力ソースの映像と音声を再生します。 **BD** / **DVD** / **TV** / **SAT/CBL** / **GAME** / **V.AUX** / **DOCK**：見たい映像の入力ソースを選びます。今聞いている音声に、選択した入力ソースの映像を組み合わせて再生します。入力ソースごとに設定できます。 “BD”、“TV”および“GAME”は、各入力ソースに“Component”を割り当てているときのみ選べます。 ご注意 • HDMI 入力信号は選べません。 • メニューの“Source Delete”（☞63ページ）で、“Delete”に設定した入力ソースは選べません。
Video Mode 映像処理の設定をします。 BD＊ DVD TV＊ SAT/CBL GAME＊ V.AUX DOCK	**<u>Auto</u>**：HDMI のコンテンツ情報に基づく映像処理を自動でおこないます。 **Movie**：コンテンツに関係なく映像処理をおこないます。 **Game**：ゲームコンテンツに合わせて映像処理をおこないます。 • “Video Mode”の設定が“Auto”の場合は、入力されたコンテンツに応じてモードが切り替わります。 • 同じ部屋でメインゾーン（音声と映像）とゾーン 2（音声のみ）の両方を使用して同じソースを再生すると、メインゾーンの音声とゾーン 2 の音声の出力のタイミングがずれて聞こえることがありますが、故障ではありません。このような場合は、“Game”モードに設定すると、タイミングのずれを少なく抑えることができます。

設定項目	設定内容
i/p Scaler 入力ソースの解像度を、設定した解像度に変換します。 BD＊ DVD TV＊ SAT/CBL GAME＊ V.AUX DOCK	**<u>Analog</u>**：アナログ映像入力信号に対して、i/p スケーラー機能を使用します。 **Analog & HDMI**：アナログ映像入力信号と HDMI 入力信号の両方に対して、i/p スケーラー機能を使用します。 **HDMI**：HDMI 映像入力信号に対して i/p スケーラー機能を使用します。 **OFF**：i/p スケーラー機能を使用しません。 • “Analog & HDMI”は、HDMI 入力端子を割り当てている入力ソースに対して設定できます。 • 各入力端子が割り当てられている入力ソースによって、設定項目が異なります。 • i/p スケーラー機能は、入力された信号が x.v.Color、3D、sYCC601 color、Adobe RGB color、Adobe YCC601 color およびコンピュータ解像度のときは効果がありません。
Resolution 出力する解像度を設定します。 Resolution A：アナログ映像の解像度 Resolution H：HDMI 映像の解像度 BD＊ DVD TV＊ SAT/CBL GAME＊ V.AUX DOCK	**<u>Auto</u>**：HDMI 出力端子に接続しているテレビのパネル画素数を自動的に検出し、適切な解像度で出力します。 **480p**/**576p**/**1080i**/**720p**/**1080p**：出力したい解像度を選びます。 • “i/p Scaler”の設定が“OFF”以外のときに設定できます。 • “i/p Scaler”の設定が“Analog & HDMI”のときは、アナログ映像入力信号と HDMI 映像入力信号の解像度をそれぞれ設定できます。
Progressive Mode 映像素材に最適なプログレッシブモードを選択します。 BD＊ DVD TV＊ SAT/CBL GAME＊ V.AUX DOCK	**<u>Auto</u>**：映像の素材を自動的に検出し、適切なモードを設定します。 **Video1**：ビデオ素材の再生に適しています。 **Video2**：ビデオ素材や 30 フレームのフィルム素材の再生に適しています。 “i/p Scaler”の設定が“OFF”以外のときに設定できます。
Aspect HDMI 端子へ出力する、映像信号のアスペクト比（縦横比）を設定します。 BD＊ DVD TV＊ SAT/CBL GAME＊ V.AUX DOCK	**<u>Full</u>**：16：9 のアスペクト比で出力します。 **Normal**：4：3 のアスペクト比で出力します。 i/p Scaler”の設定が“OFF”以外のときに設定できます。

Input Mode

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

各入力ソースの音声入力モードとデコードモードを設定します。
選択できる入力モードは、入力ソースによって異なります。

設定項目	設定内容
Input Mode 各入力ソースの音声入力モードを設定します。	**Auto**：本機に入力されている信号を自動的に検出して再生します。 **HDMI**：HDMI 入力端子からの入力信号のみを再生します。 **Digital**：デジタル入力端子からの入力信号のみを再生します。 **Analog**：アナログ入力端子からの入力信号のみを再生します。 • “HDMI”は、メニューの“Input Assign”（49ページ）で“HDMI”を割り当てた入力ソースのときに選択できます。 • “Digital”は、メニューの“Input Assign”（49ページ）で“Digital”を割り当てた入力ソースのときに選択できます。 • 入力ソースが“TV” および“Game” のときは、“Analog” に設定できません。 • デジタル信号を正しく入力すると、ディスプレイの DIG. 表示が点灯します。DIG. 表示が点灯しない場合は、デジタル入力端子の割り当て（“Input Assign”（49 ページ））や接続を確認してください。 • メニューの“HDMI Control”の設定が“ON”で、HDMI MONITOR 端子に ARC 対応テレビを接続している場合、入力ソース“TV” の入力モードは ARC 固定になります。
Decode Mode 各入力ソースのデコードモードを設定します。 BD / DVD / TV / SAT/CBL / DOCK / GAME / V.AUX / CD	**Auto**：デジタル入力信号の種類を識別し、自動的にデコードして再生します。 **PCM**：PCM 信号が入力されたときだけデコードして再生します。 **DTS**：DTS 信号が入力されたときだけデコードして再生します。 • メニューの“Input Assign”（49ページ）で“HDMI”または“Digital”に割り当てた入力ソースのときに選択できます。 • 通常は、“Auto”に設定してください。“PCM”や“DTS”は、それぞれの入力信号を再生するときに設定してください。

Rename

選択した入力ソースの表示名を変更します。

設定項目	設定内容
Rename 選択した入力ソースの表示名を変更します。	• 8 文字まで入力できます。 • 文字の入力方法については、46 ページをご覧ください。
Default 変更した入力ソース名を、お買い上げ時の設定に戻します。	**Yes**：お買い上げ時の設定に戻します。 **No**：お買い上げ時の設定に戻しません。

Source Level

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

選択した入力ソースの音声入力の再生レベルを補正します。
ソースによって再生レベルに差があるときなどに設定してください。

設定内容
-12dB～+12dB（0dB）
メニューの“Input Assign”の設定（49ページ）で、“HDMI”または“Digital”を割り当てた入力ソースに対しては、アナログ入力レベルとデジタル入力レベルを別々に調節することができます。

Playback Mode

入力ソースが“DOCK”または“USB/iPod”のときに設定できます。

設定項目	設定内容
Repeat リピート再生モードを設定します。	❏ **iPod 再生時** **All**：すべての曲をリピート再生します。 **One**：再生中の曲をリピート再生します。 **OFF**：リピート再生モードをキャンセルします。 ❏ **USB メモリー再生時** **All**：すべての曲をリピート再生します。 **One**：再生中の曲をリピート再生します。 **Folder**：再生中のフォルダの中の曲をリピート再生します。
Shuffle シャッフル再生モードを設定します。	❏ **iPod 再生時**（iPod、DENON 製 iPod 用コントロールドック ASD-1R または ASD-11R を接続しているとき） **Songs**：曲をシャッフル再生します。 **Albums**：アルバムをシャッフル再生します。 **OFF**：シャッフル再生モードをキャンセルします。 ❏ **iPod 再生時**（DENON 製 iPod 用コントロールドック ASD-3N または ASD-3W を接続しているとき） **ON**：シャッフル再生モードを有効にします。 **OFF**：シャッフル再生モードをキャンセルします。 ❏ **USB メモリー再生時** **ON**：シャッフル再生モードを有効にします。 **OFF**：シャッフル再生モードをキャンセルします。

音声を調整する(Audio Adjust)

サラウンド音声の音場効果をお好みにあわせて調節できます。
調節できる項目(パラメーター)は、再生している信号や選択しているサラウンドモードによって異なります。
調節できる各項目については、「サラウンドモードとパラメーター一覧表」(☞76ページ)をご覧ください。

メニューの操作のしかた

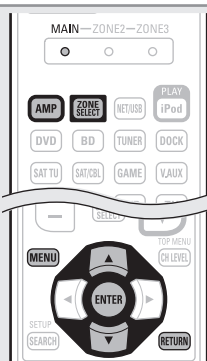
1 ZONE SELECT を押して、ゾーン操作モードを"MAIN"に切り替える。
リモコンのゾーン操作モード表示の"MAIN"が点灯します。

2 AMP を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。

3 MENU を押す。
テレビ画面にメニューを表示します。

4 △▽ を押して、設定または操作したいメニューを選ぶ。

5 ENTER を押して、設定を確定する。

- 前の項目に戻るときは、**RETURN** を押してください。
- メニューを終了するときは、メニュー表示中に **MENU** を押してください。メニュー表示が消えます。

"Audio Adjust"でできること

- Surround Parameter (☞52 ページ)
- Tone (☞54 ページ)
- Audyssey Settings (☞55 ページ)
- Manual EQ (☞56 ページ)
- RESTORER (☞57 ページ)
- Audio Delay (☞57 ページ)

Surround Parameter

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

音場効果を調節します。入力信号によっては、本設定ができない場合があります。
調節できる各項目については、「サラウンドモードとパラメーター一覧表」(☞76 ページ)をご覧ください。

設定項目	設定内容
Mode 再生するソースに合わせてモードを選びます。	❑ **PLⅡx または PLⅡ モードのとき** **Cinema**:映画ソースに適したモードです。 **Music**:音楽ソースに適したモードです。 **Game**:ゲームに適したモードです。 **Pro Logic**:ドルビープロロジック再生モードです(PLⅡ モードのみ)。 ❑ **PLⅡz モードのとき** **Height**:ドルビー PLⅡz フロントハイトの再生モードです。 ❑ **DTS NEO:6 モードのとき** **Cinema**:映画ソースに適したモードです。 **Music**:音楽ソースに適したモードです。 • メニューの"Surround Parameter"⇨"Front Height"の設定(☞54 ページ)が"ON"のときは、自動的に"Height"モードになります。 • "Music" モードは、ステレオ音楽成分を多く含む映画ソースにも効果的です。
Cinema EQ 映画のせりふの高域成分をやわらげ、聴きやすくします。	**ON**:"Cinema EQ"を使用します。 **OFF**:"Cinema EQ"を使用しません。
DRC ダイナミックレンジ(静かな音と大きな音のレベル差)を圧縮します。	**Auto**:再生するソースによってダイナミックレンジの圧縮を自動でオン / オフします。ドルビー TrueHD ソースのときに設定できます。 **Low/Mid/High**:ダイナミックレンジの圧縮量を設定します。 **OFF**:ダイナミックレンジを圧縮しません。
D.Comp ダイナミックレンジ(静かな音と大きな音のレベル差)を圧縮します。	**Low/Mid/High**:ダイナミックレンジの圧縮量を設定します。 **OFF**:ダイナミックレンジを圧縮しません。
LFE 低域信号(LFE)レベルを調節します。	**-10dB~0dB** 各ソースを正しく再生するために、次の値に設定することをおすすめします。 • ドルビーデジタルソース:"0dB" • DTS の映画ソース:"0dB" • DTS の音楽ソース:"-10dB"
Center Image センターチャンネルの音声を左右に振り分け、前方の音場イメージを広げます。	**0.0~1.0 (0.3)**

リモコンの操作ボタン | カーソルを移動する(上 / 下 / 左 / 右) | ENTER 設定を確定する | RETURN ひとつ前のメニューに戻る

設定項目	設定内容
Panorama フロント左右チャンネルの音場をサラウンドチャンネルまで拡大し、前方の音場イメージを広げます。	**ON**：設定します。 **OFF**：設定しません。
Dimension 音場イメージの中心を前方または後方にシフトし、再生バランスを調節します。	**0～6（3）**
Center Width センターチャンネルの音声を左右に振り分け、前方の音場イメージを広げます。	**0～7（3）**
Delay Time 遅延時間を調節し、音場イメージを広げます。	**0ms～300ms（30ms）**
Effect Lev. エフェクトレベルを調節します。	**1～15（10）** サラウンド信号の定位感や位相感が不自然に感じる場合は、低いレベルに設定してください。
Room Size 音場空間の大きさを設定します。	**Small**：小さな音場空間のイメージ **Medium-S**：やや小さな音場空間のイメージ **Medium**：標準的な音場空間のイメージ **Medium-L**：やや大きな音場空間のイメージ **Large**：大きな音場空間のイメージ **ご注意** "Room Size"は、再生する部屋の大きさを表すものではありません。
AFDM **（オートフラグディテクトモード）** ソースのサラウンドバックチャンネル信号を検出して自動的に最適なサラウンドモードを設定します。	**ON**：設定します。 **OFF**：設定しません。 **【例】Dolby Digital ソフト（EX フラグあり）の再生** • "AFDM" を "ON" に設定すると、サラウンドモードは自動的に "DOLBY D+PLⅡx C" モードになります。 • Dolby Digital EX モードで再生する場合は、"AFDM" を "OFF"、"Surround Parameter" ⇨ "S.Back" を "MTRX ON" に設定してください。 Dolby Digital EX ソースには、EX フラグが含まれていないものがあります。"AFDM" を "ON" に設定していても、再生モードが自動的に切り替わらない場合は、メニューの "Surround Parameter" ⇨ "S.Back" を "MTRX ON" または "PLⅡx CINEMA" に設定してください。

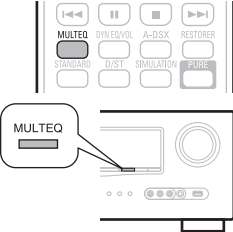
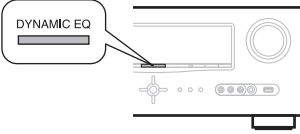
設定項目	設定内容
S.Back サラウンドバックチャンネルの生成方法を設定します。	❑ **2 チャンネルソースのとき** **ON**：サラウンドバックチャンネルを使用します。 **OFF**：サラウンドバックチャンネルを使用しません。 ❑ **マルチチャンネルソースのとき** サラウンドバックチャンネルのデコード方法を設定します。 **DSCRT ON**：7.1 チャンネルソースに含まれるサラウンドバック信号を再生します。 **MTRX ON**：サラウンドチャンネル信号からサラウンドバック信号を生成して再生します。 **ES MTRX**＊1：DTS ソースのサラウンドチャンネル信号からサラウンドバック信号を生成して再生します。 **ES DSCRT**＊2：6.1 チャンネルの DTS ソースに含まれているサラウンドバック信号を再生します。 **PLⅡx CINEMA**＊3：Dolby Pro Logic Ⅱx Cinema モードでデコードし、サラウンドバック信号を生成して再生します。 **PLⅡx MUSIC**：Dolby Pro Logic Ⅱx Music モードでデコードし、サラウンドバック信号を生成して再生します。 **OFF**：サラウンドバックチャンネルを再生しません。 ＊1 DTS ソースを再生中に選べます。 ＊2 ディスクリート 6.1 チャンネル信号の識別信号が含まれている DTS ソースを再生中に選べます。 ＊3 メニューの "Speaker Config." ⇨ "S.Back" の設定（☞58 ページ）が "2sp" のときに選べます。 • **STANDARD** を押して設定することもできます。 • 再生しているソースにサラウンドバック信号が含まれている場合は、AFDM 機能によりデコーダーの種類を自動的に選択します。お好みのデコードに切り替えるには、"AFDM" を "OFF" に設定してください。 **ご注意** メニューの "Speaker Config." ⇨ "S.Back" の設定（☞58 ページ）が "None" のとき、"S.Back" は表示しません。

設定項目	設定内容
Front Height フロントハイトチャンネルを設定します。	**ON**：フロントハイトチャンネルを使用します。 **OFF**：フロントハイトチャンネルを使用しません。 ご注意 • “Front Height”は、以下の設定のときに表示します。 • メニューの“Amp Assign”設定（☞58 ページ）が“Front Height”のとき • メニューの“Speaker Config.”⇨“Front Height”設定（☞58 ページ）が“None”以外のとき • 再生する HD オーディオソースに、フロントハイトチャンネルが含まれている場合も、“Front Height” を表示しません。このような場合は、PLIIz モードでデコードせずに、入力信号のままフロントハイトチャンネルを再生します。
Height Gain フロントハイトチャンネルの音量をコントロールします。	**Low**：フロントハイトチャンネルの音量を小さくします。 **Mid**：フロントハイトチャンネルを標準音量で出力します。 **High**：フロントハイトチャンネルの音量を大きくします。 ご注意 “Height Gain”は、以下の設定のときに表示します。 • メニューの“Amp Assign”設定（☞58 ページ）が“Front Height”のとき • メニューの“Speaker Config.”⇨“Front Height”の設定（☞58 ページ）が“None”以外のとき • サラウンドモードが“PLIIz” または PLIIz のデコーダーを使用しているとき
Subwoofer サブウーハー出力のオン / オフを設定します。	**ON**：出力します。 **OFF**：出力しません。 ご注意 サラウンドモードが“DIRECT” モード（☞32 ページ）または“PURE DIRECT”モード（☞32 ページ）で、メニューの“Subwoofer Mode”設定（☞59 ページ）が“LFE+Main”のときに設定できます。
Default “Surround Parameter”で設定された内容を、お買い上げ時の設定に戻します。	**Yes**：お買い上げ時の設定に戻します。 **No**：お買い上げ時の設定に戻しません。

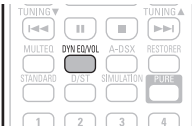
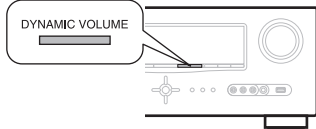
Tone

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

トーンを調節します。

設定項目	設定内容
Tone Control トーンコントロール機能のオン / オフを設定します。	**ON**：低音や高音のトーンを調節できます。 **OFF**：トーンを調節せずに再生します。 メニューの“Dynamic EQ”設定（☞55 ページ）が“OFF”のときに設定できます。 ご注意 • “Tone Control”の設定は、ゾーン 2 には反映しません。 • サラウンドモードが“DIRECT” モードのとき、トーンの調節はできません。
Bass 低音を調節します。	**-6dB～+6dB（0dB）** メニューの“Tone Control”の設定が“ON”のときに設定できます。
Treble 高音を調節します。	**-6dB～+6dB（0dB）** メニューの“Tone Control”の設定が“ON”のときに設定できます。

Audyssey Settings

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

MultEQ®、Dynamic EQ® および Dynamic Volume® の設定をします。
これらの設定は、Audyssey® Auto Setup をおこなった後に設定できます。
Audyssey 技術に関する詳細な情報については、80 ページをご覧ください。

ご注意

Audyssey Auto Setup をおこなっていない場合、または Audyssey Auto Setup をおこなった後にスピーカーの設定を変えると、Dynamic EQ/Dynamic Volume を選択できず、"Run Audyssey"を表示します。
このような場合は、再度 Audyssey Auto Setup をおこなうか、"Restore"（☞13 ページ）をおこなって Audyssey Auto Setup 実行後の設定に戻してください。

設定項目	設定内容
MultEQ MultEQ は、Audyssey Auto Setup の測定結果に基づき、リスニング環境における時間特性と周波数特性の両方を補正します。 ３種類の補正カーブから選択します。"Audyssey"に設定することをおすすめします。 MultEQ の設定は、Dynamic EQ や Dynamic Volume を動作させるために必要です。	**<u>Audyssey</u>**：すべてのスピーカーの周波数特性を最適に補正します。 **Audyssey Byp.L/R**：フロントスピーカー以外のスピーカーの周波数特性を最適に補正します。 **Audyssey Flat**：すべてのスピーカーの周波数特性が均一になるように補正します。 **Manual**：メニューの"Manual EQ"（☞56 ページ）で調節された周波数特性を適用します。 **OFF**："MultEQ"を使用しません。 • Audyssey Auto Setup をおこなうと、"Audyssey"、"Audyssey Byp. L/R"および"Audyssey Flat"が選択できます。 • Audyssey Auto Setup 後は自動的に"Audyssey"になります。 • "Audyssey"、"Audyssey Byp. L/R" または"Audyssey Flat" が選ばれたときは、ディスプレイの AUDYSSEY MULTEQ 表示が点灯します。 • Audyssey Auto Setup をおこなった後、測定したスピーカーの本数を増やさずに、スピーカーの構成、距離、チャンネルレベルおよびクロスオーバー周波数などの設定を変更した場合は、ディスプレイの AUDYSSEY MULTEQ 表示が点灯します。 • リモコンや本体の **MULTEQ** を押しても、MultEQ の設定ができます。 **ご注意** • メニューの"EQ Customize"（☞62 ページ）で、"Not Used"に設定したイコライザーは選択できません。 • ヘッドホン使用時、"MultEQ"の設定は自動的に"OFF"になります。

設定項目	設定内容
Dynamic EQ® 人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぎます。 Dynamic EQ は MultEQ と連動して動作します。	**<u>ON</u>**："Dynamic EQ"を使用します。 **OFF**："Dynamic EQ"を使用しません。 • "ON" に設定すると、ディスプレイの AUDYSSEY MULTEQ DYN EQ 表示が点灯します。 • リモコンや本体のボタンでも、Dynamic EQ の設定ができます。 **【リモコンで操作する場合】** **DYN EQ/VOL** を押す。 **DYN EQ/VOL** を押すたびに、以下の順序で設定が切り替わります。 **【本体で操作する場合】** **DYNAMIC EQ** を押す。 **DYNAMIC EQ** を押すたびに、以下のように設定が切り替わります。 Dynamic EQ：ON ←→ Dynamic EQ：OFF
Reference Level Offset Audyssey Dynamic EQ は、一般的なフィルム（映画など）のミキシングレベルをリファレンスとしています。音量レベルが 0dB から下げられた際にミキシング特性・サラウンド効果を常にコンテンツが作成された本来の特性に自動的に維持します。しかし、フィルムのリファレンスはミュージックやテレビ番組などフィルム以外のコンテンツの作成には使用されていない場合もあります。Dynamic EQ は、フィルム作成時に使用される標準のリファレンスレベルを使用せずに作成されたコンテンツに対してオフセットレベルの設定（5dB/10dB/15dB）が可能です。右記が推奨の設定レベルになります。	**<u>0dB</u>**（フィルムリファレンス）：お買い上げ時の設定です。映画などのコンテンツに最適です。 **5dB**：クラッシック音楽のような非常に広いダイナミックレンジを持ったコンテンツに適しています。 **10dB**：ジャズなどの広めのダイナミックレンジを持ったミュージックコンテンツやテレビ番組に適しています。 This setting should also be selected for TV content as that is usually mixed at 10 dB below film reference. **15dB**：ポップやロックなどの非常に高い音量レベルでリスニングしたり、圧縮されたダイナミックレンジを持つコンテンツに適しています。 メニューの"Dynamic EQ"設定（☞55 ページ）が"ON"のときに設定できます。

設定項目	設定内容
Dynamic Volume® テレビや映画などで再生するコンテンツ内における音量レベルの変化（静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など）をお好みの音量設定値に自動的に調整します。	**Midnight**：音量レベルを最大に設定します。すべての音を一定の大きさにします。 **Evening**：音量レベルを中間に設定します。平均的な音より大きな音と小さな音を調節します。 **Day**：音量レベルを最小に設定します。非常に大きな音と非常に小さな音を調節します。 **OFF**：“Dynamic Volume”を使用しません。 • “Dynamic Volume”を“ON”に設定すると、ディスプレイの AUDYSSEY MULTEQ DYN VOL 表示が点灯します。 • Audyssey Auto Setup（☞12 ページ）で“Dynamic Volume”を“Yes”に設定した場合は、自動的に“Evening”になります。 • リモコンや本体のボタンでも、Dynamic Volume の設定ができます。 【 リモコンで操作する場合 】 **DYN EQ/VOL** を押す。 **DYN EQ/VOL** を押すたびに、以下の順序で設定が切り替わります。 Dynamic EQ : ON / Dynamic Volume : Midnight → Dynamic EQ : ON / Dynamic Volume : Evening → Dynamic EQ : ON / Dynamic Volume : Day → Dynamic EQ : ON / Dynamic Volume : OFF → Dynamic EQ : OFF / Dynamic Volume : OFF 【 本体で操作する場合 】 **DYNAMIC VOLUME** を押す。 **DYNAMIC VOLUME** を押すたびに、以下の順序で設定が切り替わります。 Dynamic Volume : OFF → Dynamic Volume : Midnight → Dynamic Volume : Evening → Dynamic Volume : Day

Manual EQ

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

グラフィックイコライザーを使用して、各スピーカーの音色を調節します。
“Manual EQ”は、“MultEQ®”の設定（☞55 ページ）が“Manual”のときに設定できます。

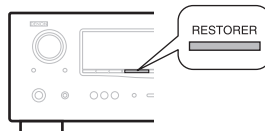
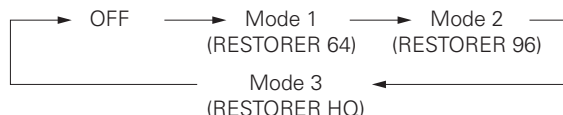
設定項目	設定内容
Adjust CH 各スピーカーの音色を調節します。	① スピーカーの音色の調節方法を選択する。 **All CH**：すべてのスピーカーの音色を一緒に調節します。 **L/R CH**：左右のスピーカーの音色を一緒に調節します。 **Each CH**：スピーカーごとに音色を調節します。 ② スピーカーを選択する。 ③ 調節する周波数帯を選択する。 **63Hz／125Hz／250Hz／500Hz／1kHz／2kHz／4kHz／8kHz／16kHz** • “L/R CH”や“Each CH”を選んだときは、調節するスピーカーを選んでください。 ④ レベルを調節する。 **-20.0dB～+6.0dB（0.0dB）**
Base Curve Copy “MultEQ”の“Audyssey Flat”の補正カーブをコピーします。	**Yes**：コピーします。 **No**：コピーしません。 “Base Curve Copy”は、Audyssey® Auto Setup をおこなった後に表示します。
Default “Manual EQ”で設定した内容を、お買い上げ時の設定に戻します。	**Yes**：お買い上げ時の設定に戻します。 **No**：お買い上げ時の設定に戻しません。

RESTORER

MP3、WMA（Windows Media Audio）や MPEG-4 AAC などの圧縮オーディオフォーマットは、人間の耳には聞こえにくい部分の信号を省いてデータ量を減らしています。RESTORER は、圧縮処理をするときに省かれた信号を生成し、圧縮する前の音に近い状態に復元する機能です。同時に低音域の量感の補正もおこないますので、圧縮オーディオ信号をより豊かに再生することができます。

設定内容

OFF：RESTORER を使用しません。
Mode 1（RESTORER 64）：高域が極端に少ない圧縮音声ソースに対して、最適なモードです。
Mode 2（RESTORER 96）：圧縮音声全般に対して、低域と高域を適切に補正します。
Mode 3（RESTORER HQ）：高域が十分にある圧縮音声ソースに対して、最適なモードです。

- アナログ信号や PCM 信号（fs = 44.1/48kHz）が入力されたときに、設定することができます。
- サラウンドモードが“DIRECT”および“PURE DIRECT”モードのときは設定できません。
- 入力ソース“iPod”および“USB/iPod”のお買い上げ時の設定は、“Mode 3”です。その他のお買い上げ時の設定は、すべて“OFF”です。
- “OFF”以外に設定すると、ディスプレイの RSTR 表示が点灯します。
- リモコンや本体の **RESTORER** を押しても、RESTORER の設定ができます。
RESTORER を押すたびに、以下の順序でモードが切り替わります。

Audio Delay

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

映像を見ながら、音声の出力を遅らせる時間を調節します。

設定内容

0ms～200ms

- メニューの“Auto Lip Sync”の設定が“ON”のとき、および Auto Lip Sync 対応のテレビを接続しているときは、0 ～ 100ms の範囲で設定できます。
- “Audio Delay”の設定は、入力ソースごとに記憶させることができます。
- メニューの“Video Mode”（☞50 ページ）が“Auto”または“Game”モードのときは、ゲームモード用のオーディオディレイ値を設定することができます。

詳細な設定をする（Manual Setup）

Audyssey Auto Setup の設定内容を変更する場合や、音声、映像、表示などの設定を変更するときに設定します。

- 設定を変更しなくてもお使いいただけます。必要に応じて設定してください。
- Audyssey Auto Setup をおこなったあとにスピーカーの設定を変えると、MultEQ、Dynamic EQ® および Dynamic Volume の選択ができなくなります（☞55、56 ページ）。

メニューの操作のしかた

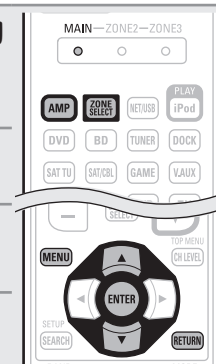
1 **ZONE SELECT を押して、ゾーン操作モードを“MAIN”に切り替える。**
リモコンのゾーン操作モード表示の“MAIN”が点灯します。

2 **AMP を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。**

3 **MENU を押す。**
テレビ画面にメニューを表示します。

4 **△▽ を押して、設定または操作したいメニューを選ぶ。**

5 **ENTER を押して、設定を確定する。**

- 前の項目に戻るときは、**RETURN** を押してください。
- メニューを終了するときは、メニュー表示中に **MENU** を押してください。メニュー表示が消えます。

“Manual Setup”でできること

Speaker Setup（☞58 ページ）

4－1. Speaker Setup

1. Amp Assign
2. Speaker Config.
3. Bass Setting
4. Distance
5. Channel Level
6. Crossover Freq.

[ENT]:Select [RTN]:Back

HDMI Setup（☞60 ページ）

4－2. HDMI Setup

Auto Lipsync : ON
HDMI Audio Out : Amp
HDMI Control : OFF

[RTN]:Back

Audio Setup（☞61 ページ）

4－3. Audio Setup

1. 2ch Direct/Stereo
2. Auto Surround Mode
3. EQ Customize
4. Bilingual Mode

[ENT]:Select [RTN]:Back

ZONE2 Setup（☞62 ページ）

4－4. ZONE2 Setup

Level Lch : 0dB
Level Rch : 0dB
Vol. limit : OFF
Power On Lev: Last
Mute Lev. : Full

[RTN]:Back

Option Setup（☞63 ページ）

4－5. Option Setup

1. Volume Control
2. Source Delete
3. On-Screen Display
4. Remote Preset Codes
5. Quick Select Name
6. ZONE Rename
7. Display
↓
[ENT]:Select [RTN]:Back

Speaker Setup

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

スピーカーを手動で設定する場合や Audyssey® Auto Setup で測定した内容を変更するときにおこなってください。

- Audyssey Auto Setup をおこなったあとにスピーカーの設定を変えると、MultEQ®、Dynamic EQ® および Dynamic Volume® の選択ができなくなります（☞55、56 ページ）。
- 設定を変更しなくてもお使いいただけます。必要に応じて設定してください。

設定項目	設定内容
Amp Assign 本機に接続したスピーカーの設定をします。	**Normal**：7.1 チャンネル（フロント / センター / サラウンド / サラウンドバック / サブウーハー）スピーカーを接続して使用するときに設定します。 **ZONE2**：SURR.BACK/AMP ASSIGN 端子にゾーン 2 用スピーカーを接続して使用するときに設定します。 **Front Height**：SURR.BACK/AMP ASSIGN 端子にフロントハイトスピーカーを接続して使用するときに設定します。 **Front Bi-Amp**：SURR. BACK/AMP ASSIGN 端子にフロントスピーカーのツィーター部を接続し、FRONT 端子にフロントスピーカーのウーハー部を接続して使用するときに設定します。 **Front B**：SURR.BACK/AMP ASSIGN 端子に 2 組目のフロントスピーカーを接続して使用するときに設定します。この設定を選んだ場合、“Front Speaker Setup”の設定もおこなってください（☞60 ページ）。
Speaker Config. スピーカーの有り・無しや低音域再生能力によるスピーカーの大きさの分類を選びます。 ご注意 “Large” と“Small” の選択は、スピーカーの外形で判断せずに、メニューの“Crossover Frequency”（☞60 ページ）で設定した周波数を基準とした低域再生能力で判断してください。	**Front**：フロントスピーカーの大きさを設定します。 • **Large**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **Small**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • “Subwoofer” の設定が“No” の場合、“Front” の設定は自動的に“Large” になります。 • “Front” の設定が“Small” の場合“、Center” “、Surround” “、Surround Back”および“Front Height”を“Large”に設定することはできません。
	Center：センタースピーカーの有無や大きさを設定します。 • **Large**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **Small**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • **None**：センタースピーカーを使用しません。 “Front”の設定が“Small”の場合、“Large”は表示しません。
	Subwoofer：サブウーハーの有無を設定します。 • **Yes**：サブウーハーを使用します。 • **No**：サブウーハーを使用しません。 “Front” の設定が“Small” の場合、“Subwoofer” の設定は自動的に“Yes”になります。

設定項目	設定内容
Speaker Config. （つづき）	**Surround**：サラウンドスピーカーの有無や大きさを設定します。 • **Large**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **Small**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • **None**：サラウンドスピーカーを使用しません。 • “Surround” の設定が“Large” のとき“、Surround Back” および“Front Height” を“Large” に設定できます。 • “Surround” の設定が“None” のとき“、Surround Back” および“Front Height” の設定は自動的に“None” になります。
	S.Back：サラウンドバックスピーカーの有無や大きさ、本数を設定します。 • **Large**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **Small**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • **None**：サラウンドバックスピーカーを使用しません。 • **2sp**：サラウンドバックスピーカーを 2 本使用します。 • **1sp**：サラウンドバックスピーカーを 1 本のみ使用します。この設定を選んだときは、サラウンドバックスピーカーを左（L）チャンネルに接続してください。 “Surround Back” を“None” 以外に設定しても、再生するソースによっては、サラウンドバックスピーカーから音声が出力されない場合があります。このような場合は、メニューの“Surround Parameter” ⇨“Surround Back”（☞53 ページ）を“OFF”以外に設定してください。 ご注意 メニューの“Amp Assign” 設定（☞58 ページ）が“Normal” 以外のとき、“S.Back”の設定はできません。
	Front Height：フロントハイトスピーカーの有無や大きさを設定します。 • **Large**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **Small**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 • **None**：フロントハイトスピーカーを使用しません。 ご注意 メニューの“Amp Assign”設定（☞58 ページ）が“Front Height”以外のとき、“Front Height”の設定はできません。

設定項目	設定内容
Bass Setting サブウーハーや LFE 信号の低音域再生に関する設定をします。	**Subwoofer Mode**：サブウーハーで再生する低音域信号を設定します。 • **LFE**：サブウーハー用の信号に、スピーカーの大きさを“Small”に設定しているチャンネルの低音域信号を加えて出力します。 • **LFE+Main**：サブウーハー用の信号に、すべてのチャンネルの低音域信号を加えて出力します。 • “Subwoofer Mode”は、“Speaker Config.”⇨“Subwoofer”（☞58ページ）の設定が“Yes”のときに設定できます。 • 音楽ソースや映画ソースを再生して、量感のある低音域が得られるモードを選んでください。 • 常にサブウーハーから低音域を出力したい場合は、“LFE+Main”に設定してください。 ご注意 メニューの“Speaker Config.”の“Front”、“Center”の設定が“Large”で、なおかつ“Subwoofer Mode”の設定が“LFE”の場合は、入力信号やサラウンドモードによってサブウーハーから音声が出力されない場合があります。
	LPF for LFE：LFE 信号の再生帯域を設定します。 • **80Hz/90Hz/100Hz/110Hz/120Hz/150Hz/200Hz/250Hz**
Distance リスニングポイントからスピーカーまでの距離を設定します。 あらかじめリスニングポイントから各スピーカーまでの距離を測定しておいてください。	**Unit**：距離の単位を設定します。 • **Meters** / **Feet**
	Step：距離の最小可変幅を設定します。 • **0.1m** / **0.01m** • **1ft** / **0.1ft**
	FL/FR/C/SW/SL/SR/SBL*/SBR*/FHL/FHR：距離を設定するスピーカーを選びます。 * メニューの“Speaker Config.”⇨“S.Back”設定（☞58ページ）が“1sp”のときは、“S.Back”を表示します。 • **0.00m～18.00m / 0.0ft～60.0ft**：距離を設定します。 • メニューの“Amp Assign”（☞58ページ）および“Speaker Config.”（☞58ページ）の設定により、選択できるスピーカーが異なります。 • お買い上げ時の設定： FL/FR/C/SW/FHL/FHR：3.6m（12.0ft） SL/SR/SBL/SBR：3.0m（10.0ft） • 各スピーカーに設定した距離の差は、6.0m（20ft）以下になるように設定してください。 ご注意 メニューの“Speaker Config.”（☞58ページ）で、“None”に設定したスピーカーは表示しません。

設定項目	設定内容
Distance （つづき）	**Default**：“Distance”で設定した内容を、お買い上げ時の設定に戻します。 • **Yes**：お買い上げ時の設定に戻します。 • **No**：お買い上げ時の設定に戻しません。 “Default”を選んで **ENTER** を押すと、“Default Setting?”というメッセージが表示されますので、“Yes”または“No”を選び、**ENTER** を押してください。
Channel Level 各スピーカーから出力されるテストトーンの音量が同じになるように設定します。	**Test Tone Start**：テストトーンを出力します。 • **FL/C/FR/SR/SBR*/SBL*/SL/FHL/FHR/SW**：テストトーンを出力するスピーカーを選びます。 * メニューの“Speaker Config.”⇨“S.Back”設定（☞58ページ）が“1sp”のときは、“S.Back”を表示します。 • **-12.0dB～+12.0dB (0.0dB)**：音量を調節します。 • サブウーハーの音量が“-12dB”のときに ◁ を押すと、“Subwoofer”の設定は“OFF”になります。 • “Channel Level”を調節すると、調節した値をすべてのサラウンドモードに対して設定します。サラウンドモードごとにチャンネルレベルを調節したい場合は、40ページをご覧ください。 ご注意 • メニューの“Speaker Config.”設定（☞58ページ）で、“None”に設定したスピーカーは表示しません。 • 本体の PHONES 端子にヘッドホンが挿入されている場合は、“Channel Level”を表示しません。
	Default：“Channel Level”で設定した内容を、お買い上げ時の設定に戻します。 • **Yes**：お買い上げ時の設定に戻します。 • **No**：お買い上げ時の設定に戻しません。

設定項目	設定内容
Crossover Frequency 各チャンネルからサブウーハーに出力する低音域信号の上限の周波数を設定します。クロスオーバー周波数は、スピーカーの低音域の再生能力に合わせて設定してください。	**Crossover**：すべてのスピーカーに対して、クロスオーバー周波数を設定します。 • **40Hz**/**60Hz**/**80Hz**/**90Hz**/**100Hz**/**110Hz**/**120Hz**/**150Hz**/**200Hz**/**250Hz** **Advanced**：スピーカーごとにクロスオーバー周波数を設定します。 • **Front**/**Center**/**Surround**/**S.Back**/**Front Height**：クロスオーバー周波数を設定するスピーカーを選びます。 • **40Hz**/**60Hz**/**80Hz**/**90Hz**/**100Hz**/**110Hz**/**120Hz**/**150Hz**/**200Hz**/**250Hz**：クロスオーバー周波数を設定します。 • "Crossover Frequency"は、メニューの"Subwoofer Mode"設定（☞59ページ）が"LFE+Main"のとき、または"Small"に設定しているスピーカーがあるときに設定できます。 • クロスオーバー周波数は、通常"80Hz"に設定してください。ただし、小型スピーカーをご使用になる場合は、より高い周波数に設定することをおすすめします。 • "Small"に設定しているスピーカーからは、クロスオーバー周波数以下の音声をカットして出力します。カットした低音域は、サブウーハーまたはフロントスピーカーから出力します。 • メニューの"Subwoofer Mode"（☞59ページ）の設定により、"Advanced"で設定できるスピーカーが異なります。 　• "LFE"の場合は"、"Speaker Config."で"Small"に設定しているスピーカーの設定ができます。"Large"に設定しているスピーカーのときは、"Full Band"が表示され、設定できません。 　• "LFE+Main"の場合は、スピーカーの大きさに関係なく設定ができます。
Front Speaker Setup 再生モードごとに使用するフロントスピーカーを設定します。 ご注意 メニューの"Amp Assign"設定（☞58ページ）が"Front B"のときに設定できます。	**DIRECT/STEREO**：ダイレクト再生、ステレオ再生およびピュアダイレクト再生（2 チャンネル）時に使用するフロントスピーカーをあらかじめ設定します。 • **A**：フロントスピーカー A を使用します。 • **B**：フロントスピーカー B を使用します。 • **A+B**：フロントスピーカー A と B の両方を使用します。 **MULTI CH**：ダイレクト再生、ステレオ再生およびピュアダイレクト再生（2 チャンネル）以外の再生モード時に使用するフロントスピーカーをあらかじめ設定します。 • **A**：フロントスピーカー A を使用します。 • **B**：フロントスピーカー B を使用します。 • **A+B**：フロントスピーカー A と B の両方を使用します。

HDMI Setup

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

HDMI の映像出力や音声出力に関する設定をします。

設定項目	設定内容
Auto Lip Sync 出力する音声と映像の時間のずれを自動的に補正します。	**ON**：補正します。 **OFF**：補正しません。
HDMI Audio Out HDMI の音声の出力先を設定します。	**Amp**：本機に接続したスピーカーで再生します。 **TV**：本機に接続したテレビで再生します。 HDMI コントロール機能がはたらいているときは、本機に接続したテレビの音声設定を優先します（☞39 ページ「HDMI コントロール機能」）。
HDMI Control HDMI 接続した HDMI コントロール対応機器と連動して操作できます。	**ON**：HDMI コントロール機能を使用します。 **OFF**：HDMI コントロール機能を使用しません。 • HDMI コントロール機能に対応していない機器と接続した場合は、"HDMI Control"を"OFF"に設定してください。 • 接続した機器の設定方法は、各機器の取扱説明書をご覧ください。 • HDMI コントロール機能については、☞39 ページ「HDMI コントロール機能」をご覧ください。 ご注意 • **"HDMI Control"を"ON"に設定している場合は、スタンバイ時の待機電力を多く消費します。**長期間本機を使用しない場合は、電源コードをコンセントから抜くことをおすすめします。 • HDMI コントロール機能は、電源をオンにするか、スタンバイ状態のときに動作します。 • HDMI コントロール機能は、HDMI コントロール機能対応のテレビが動作の制御をおこないます。HDMI コントロール機能を使用するときは、必ずテレビを接続してください。 • "HDMI Control"の設定を変更した場合は、変更後必ず接続機器の電源を切り、電源を入れ直してください。
Standby Source 電源がスタンバイのときに、HDMI 信号を入力する HDMI 端子を設定します。	**Last**：電源を入れたとき、前回使用していた入力ソースでスタンバイします。 **HDMI1**/**HDMI2**/**HDMI3**/**HDMI4**：電源を入れたとき、それぞれの入力端子を割り当てた入力ソースでスタンバイします。 "Standby Source"は"HDMI Control"の設定が"ON"のときに設定できます。

設定項目	設定内容
Power Off Control 本機と外部機器の電源オフを連動します。	**All**：入力ソースに関わらず、テレビの電源をオフにすると、自動的に本機の電源がスタンバイになります。 **Video**:入力ソースがBD / DVD / TV / SAT/CBL / GAME / V.AUX / DOCKのときに、テレビの電源をオフにすると、自動的に本機の電源がスタンバイになります。 **OFF**：本機はテレビの電源に連動しません。 “Power Off Control”は、“HDMI Control”の設定が“ON”のときに設定できます。

Audio Setup

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

音声の再生に関する設定をします。

設定項目	設定内容
2ch DIRECT/STEREO 2チャンネルのダイレクト再生およびステレオ再生時に使用するスピーカーの設定をします。	**Setting**：2チャンネルのダイレクト再生またはステレオ再生時に使用するスピーカーの設定方法を選びます。 • **Basic**：「Speaker Setup」（☞58ページ）の設定内容を適用します。 • **Custom**：2チャンネル用の設定をします。この設定を選択した場合は、以下の設定をおこなってください。
	Front：フロントスピーカーの大きさを設定します。 • **Large**：低音域を十分に再生できる大型スピーカーを使用します。 • **Small**：低音域の再生能力が十分でない小型スピーカーを使用します。 メニューの“Speaker Config.”⇨“Subwoofer”設定（☞58ページ）が“No”のときは、自動的に“Large”になります。
	Subwoofer：サブウーハーの有無を設定します。 • **Yes**：サブウーハーを使用します。 • **No**：サブウーハーを使用しません。 メニューの“Speaker Config.”⇨“Subwoofer”設定（☞58ページ）が“No”のときは、自動的に“No”になります。また、“Front”の設定が“Small”のときは、自動的に“Yes”になります。

設定項目	設定内容
2ch DIRECT/STEREO （つづき）	**Subwoofer Mode**：サブウーハーで再生する低音域信号を設定します。 • **LFE**：“2ch DIRECT/STEREO”⇨“Front”の設定を“Large”に設定した場合は、サブウーハーからLFE信号のみを出力します。また、“2ch DIRECT/STEREO”⇨“Front”の設定を“Small”に設定した場合は、LFE信号にフロントチャンネルの低音域信号を加えて、サブウーハーから出力します。 • **LFE+Main**：LFE信号に、フロントチャンネルの低音域信号を加えて、サブウーハーから出力します。 “2ch DIRECT/STEREO”⇨“Subwoofer”の設定が“Yes”のときに設定できます。
	Crossover：各チャンネルからサブウーハーに出力する、低音域信号の上限の周波数を設定します。 • **40Hz/60Hz/80Hz/90Hz/100Hz/110Hz/120Hz/150Hz/200Hz/250Hz** • “2ch DIRECT/STEREO”⇨“Subwoofer”の設定が“Yes”のときに設定できます。 • “2ch DIRECT/STEREO”⇨“Front”の設定が“Large”で“、“Subwoofer Mode”の設定が“LFE”のときは、“Full Band”が表示され、設定できません。
	Distance FL / Distance FR：距離を設定するスピーカーを選びます。 • **0.00m～18.00m (3.60m) / 0.0ft～60.0ft (12.0ft)**：メインリスニングポイントからスピーカーまでの距離を設定します。 フロントスピーカー（L）とフロントスピーカー（R）の距離の差は、6.00m（20.0ft）以下になるように設定してください。
	Level FL/Level FR：レベルを調節するスピーカーを選びます。 • **-12.0dB～+12.0dB (0.0dB)**：各チャンネルのレベルを調節します。
Auto Surround Mode 入力信号の種類ごとにサラウンドモードの設定を記憶します。	**ON**：記憶します。入力信号の種類に対して、最後に設定したサラウンドモードで、自動再生します。 **OFF**：記憶しません。入力信号が変化してもサラウンドモードは切り替わりません。 • オートサラウンドモードは、次の4種類の入力信号に対して、最後に設定したサラウンドモードを記憶します。 ① アナログやPCMの2チャンネル信号 ② Dolby DigitalやDTSなどの2チャンネル信号 ③ Dolby DigitalやDTSなどのマルチチャンネル信号 ④ PCMのマルチチャンネル信号 • ピュアダイレクト再生中は、入力信号が変化してもサラウンドモードは切り替わりません。

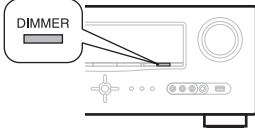
設定項目	設定内容
EQ Customize リモコンの **MULTEQ** を押したときに、使用しないイコライザーを表示しないように設定します。 “Not Used”に設定したイコライザーは、**QUICK SELECT** に記憶させることができません。また、呼び出すこともできません。	**Audyssey Byp. L/R**：“Audyssey Byp L/R” イコライザーを使用しないときに設定します。 • **Used**：使用します。 • **Not Used**：使用しません。 “Audyssey® Auto Setup” をおこなった後に、“Audyssey Byp. L/R”の設定ができます。
	Audyssey Flat：“Audyssey Flat” イコライザーを使用しないときに設定します。 • **Used**：使用します。 • **Not Used**：使用しません。 “Audyssey Auto Setup” をおこなった後に、“Audyssey Flat” の設定ができます。
	Manual：“Manual”イコライザーを使用しないときに設定します。 • **Used**：使用します。 • **Not Used**：使用しません。
Bilingual Mode AAC ソースやドルビーデジタルの二重音声の出力内容を設定します。	**Main**：主音声のみ出力します。 **Sub**：副音声のみ出力します。 **Main+Sub**：主音声と副音声をミックスして出力します。 **Main/Sub**：主音声は左チャンネルから、副音声は右チャンネルから出力します。 このモードは、二重音声のソースを再生中に設定できます。

ZONE2 Setup

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

ゾーン 2（別の部屋）で再生する音声を設定します。
“ZONE2 Setup”は、“Amp Assign”の設定（☞58 ページ）が“ZONE2”のときに表示します。

設定項目	設定内容
Level Lch 左チャンネルの出力レベルを調節します。	**-12dB～+12dB (0dB)**
Level Rch 右チャンネルの出力レベルを調節します。	**-12dB～+12dB (0dB)**
Volume Limit 音量の上限を設定します。	**OFF**：設定しません。 **-20dB (61)/-10dB (71)/0dB (81)** メニューの“Volume Display”設定（☞63 ページ）が“Absolute”のときは、0～99 の範囲で表示します。
Power On Level ゾーン 2 の電源を入れたときの音量を設定します。	**Last**：記憶している音量になります。 **- - - (0)**：常に電源を入れたときは消音状態になります。 **-80dB～18dB (1～99)**：設定した音量になります。 メニューの“Volume Display”設定（☞63 ページ）が“Absolute”のときは、0～99 の範囲で表示します。
Mute Level ミューティング時の音量の減衰量を設定します。	**Full**：消音状態になります。 **-40dB**：現在の音量から 40dB 下げて再生します。 **-20dB**：現在の音量から 20dB 下げて再生します。

Option Setup

お買い上げ時の設定は、下線が付いている項目です。

その他の設定をします。

設定項目	設定内容
Volume Control 音量に関する設定をします。	**Volume Display**：音量の表示方法を設定します。 • **Relative**：- - -dB（最小）、–80.5dB～18dB の範囲で表示します。 • **Absolute**：0（最小）～ 99 の範囲で表示します。 • "Volume Display"を設定すると、"Volume Limit"や"Power On Level"の表示方法も切り替わります。 • "Volume Display"の設定は、すべてのゾーンに対して適用します。
	Volume Limit：音量の上限を設定します。 • **OFF**：音量の上限を設定しません。 • **–20dB (61)**/**–10dB (71)**/**0dB (81)**
	Power On Level：電源をオンにしたときの音量を設定します。 • **Last**：前回使用したときの音量になります。 • **- - - (0)**：常に消音状態になります。 • **–80dB～18dB (1～99)**：設定した音量になります。
	Mute Level：ミューティング時の音量の減衰量を設定します。 • **Full**：消音状態になります。 • **–40dB**：現在の音量から 40dB 下げて再生します。 • **–20dB**：現在の音量から 20dB 下げて再生します。
Source Delete 使用しない入力ソースを表示しないように設定します。	**BD** / **DVD** / **TV** / **SAT/CBL** / **V.AUX** / **GAME** / **DOCK** / **USB/iPod** / **TUNER** / **CD**：使用しない入力ソースを選びます。 • **ON**：使用します。 • **Delete**：使用しません。 ご注意 • 各ゾーンで使用中の入力ソースの設定はできません。 • "Delete"に設定した入力ソースは、**SOURCE SELECT** を操作しても選択できません。
On-Screen Display テレビ画面の表示に関する設定をします。	**Screensaver**：スクリーンセーバーの表示を設定します。 • **ON**：メニューの表示中、および iPod、USB/iPod、TUNER 画面を表示中に何も操作をしない状態が 3 分以上続くとスクリーンセーバー画面に切り替わります。△▽◁ ▷ を押すと、スクリーンセーバーを解除し、スクリーンセーバー表示前の画面を表示します。 • **OFF**：使用しません。
On-Screen Display （つづき）	**Text**：サラウンドモードや入力モード切り替えなどの操作時に、各状態を表示します。 • **ON**：表示します。 • **OFF**：表示しません。
	Master Volume：主音量調節時に主音量レベルを表示します。 • **Bottom**：画面下に表示します。 • **Top**：画面上に表示します。 • **OFF**：表示しません。 主音量表示が映画の字幕に重なって見づらい場合は、"Top"に設定してください。
	USB：入力ソースが"USB/iPod" のときに、USB 画面の表示時間を設定します。 • **Always**：常に表示します。 • **30sec**：30 秒間表示します。 • **10sec**：10 秒間表示します。 • **OFF**：表示しません。
	iPod：入力ソースが"DOCK" または"USB/iPod" のときに、iPod 画面の表示時間を設定します。 • **Always**：常に表示します。 • **30sec**：30 秒間表示します。 • **10sec**：10 秒間表示します。 • **OFF**：表示しません。
	TUNER：入力ソースが"TUNER" のときに、チューナー画面の表示時間を設定します。 • **Always**：常に表示します。 • **30sec**：30 秒間表示します。 • **10sec**：10 秒間表示します。 • **OFF**：表示しません。
Remote Preset Codes リモコンのプリセットコードを登録するときに、あらかじめプリセットコードを検索します。	「プリセットコードを登録する」（☞66 ページ）をご覧ください。
Quick Select Name 画面に表示される"Quick Select Name"をお好みの名前に変更します。	**Rename Label**：名前を変更します。 • 16 文字まで入力できます。 • 文字の入力方法については、46 ページをご覧ください。

設定項目	設定内容
Quick Select Name （つづき）	**Template**：あらかじめ設定しているテンプレートの中から、“Operation”と“Template”を選択して表示名を変更することができます。 1. △▽ を押して変更したいクイックセレクト名を選び、**ENTER** を押す。 2. △▽ を押して“Template”を選び、**ENTER** を押す。 3. △▽ を押して“Operation”を選び、**ENTER** を押す。 • **Watch**/**Listen to**/**Play**/**For** 4. △▽◁ ▷ を押して“Device Name”を選び、**ENTER** を押す。 • **BD**/**DVD**/**TV**/**Cable TV**/**Satellite**/**DVR**/**VCR**/**iPod**/**V.AUX**/**LD**/**Movie** （“Operation”を“Watch”に設定しているとき） • **CD**/**TUNER**/**iPod**/**MD**/**TAPE**/**Music** （“Operation”を“Listen to”に設定しているとき） • **PC**/**Game**（“Operation”を“Play”に設定しているとき） • **Father**/**Mother**/**Son**/**Daughter**/**Brother**/**Sister**/**Grandfather**/**Grandmother**/**Me** （“Operation”を“For”に設定しているとき）
	Default：“Quick Select Name”を、お買い上げ時の設定に戻します。 • **Yes**：お買い上げ時の設定に戻します。 • **No**：お買い上げ時の設定に戻しません。
Zone Rename 画面に表示されるゾーン 2 の表示名を、お好みの名前に変更します。	• 10 文字まで入力できます。 • 文字の入力方法については、46 ページをご覧ください。
	Default：ゾーン 2 の表示名をお買い上げ時の設定に戻します。 • **Yes**：お買い上げ時の設定に戻します。 • **No**：お買い上げ時の設定に戻しません。
Display 本体のディスプレイの明るさを調節します。	**Bright**：通常の明るさです。 **Dim**：薄暗くします。 **Dark**：暗くします。 **OFF**：ディスプレイを消灯します。 本体の **DIMMER** を押しても、ディスプレイの明るさを調節できます。 **DIMMER** を押すたびに、以下の順序で明るさが切り替わります。 Bright → Dim → Dark → OFF DIMMER

設定項目	設定内容
Setup Lock 設定した内容を変更できないようにロックします。	**ON**：設定した内容をロックします。 **OFF**：設定した内容をロックしません。 設定を解除するときは、“Setup Lock”を“OFF”に設定してください。 **ご注意** “Setup Lock”を“ON”に設定すると、以下の設定が変更できなくなります。また、以下の設定に関連するボタンを操作すると、ディスプレイに“SETUP LOCKED!”を表示します。 ・メニュー操作 ・RESTORER ・MultEQ® ・Dynamic EQ® ・Dynamic Volume® ・Channel Level

情報（Information）

本機の設定状態や入力信号などの情報を表示します。

項目	設定内容
Status 現在の設定状態を表示します。 ご注意 表示する内容は、入力ソースによって異なります。	❑ **MAIN ZONE** メインゾーンの設定状態を表示します。 **Select Source**（入力ソース選択） **Name**（ネーム） **Surround Mode**（サラウンドモード） **Input Mode**（入力モード） **Decode Mode**（デコードモード） **Video Select**（ビデオセレクト機能） **Video Mode**（ビデオモード） **Content Type**（コンテンツタイプ） **i/p Scaler**（i/p スケーラー） **Resolution**（解像度） **Progressive Mode**（プログレッシブモード） **Aspect**（アスペクト比）など
	❑ **ZONE2** ゾーン 2 の設定状態を表示します。 **Power**（電源） **Select Source**（入力ソース選択） **Volume Level**（音量レベル） ゾーン 2 の“Status”は、メニューの“Amp Assign”を“ZONE2”に設定しているときに表示します。
Audio Input Signal 音声入力信号の情報を表示します。	**Surround Mode**：設定しているサラウンドモード **Signal**：入力信号の種類 **fs**：入力信号のサンプリング周波数 **Format**：入力信号のチャンネル数（フロント / サラウンド /LFE の有無） **Offset**：ダイアログノーマライゼーションの補正値 **Flag**：サラウンドバックチャンネルを含む信号を入力しているときに表示します。入力信号が Dolby Digital EX、DTS-ES Matrix のときは“MATRIX”、DTS-ES Discrete 信号などのときは“DISCRETE”を表示します。 **ダイアログノーマライゼーション機能について** Dolby Digital ソースの再生中、自動的に動作します。 この機能は、プログラムソースごとに異なる標準信号レベルを自動的に補正します。 補正値は、本体の **STATUS** でも確認できます。 STATUS Offset　－ 4dB 数字は補正値です。変更できません。
HDMI Information HDMI 入出力信号や HDMI モニターの情報を表示します。	**HDMI Signal Information**（HDMI 信号情報） • **Resolution**（解像度） **Color Space**（色空間方式） **Pixel Depth**（ビット数）
	HDMI Monitor Information（HDMI モニター情報） • **Interface**（インターフェース） **Suport Resolution**（対応解像度）
Auto Surround Mode オートサラウンドモードに記憶している内容を表示します。	**Analog/PCM**（アナログ /PCM） **Digital 2ch**（デジタル 2 チャンネル） **Digital 5.1ch**（デジタル 5.1 チャンネル） **Multi Ch**（マルチチャンネル）
Quick Select 「クイックセレクト機能」（☞41 ページ）に記憶している内容を表示します。	**Quick Select 1**（クイックセレクト 1） **Quick Select 2**（クイックセレクト 2） **Quick Select 3**（クイックセレクト 3） **ZONE2 Quick Select 1**（ゾーン 2 クイックセレクト 1） **ZONE2 Quick Select 2**（ゾーン 2 クイックセレクト 2） **ZONE2 Quick Select 3**（ゾーン 2 クイックセレクト 3） • **Name**（ネーム） **Input Source**（入力ソース） **Video Select**（ビデオセレクト機能） **Volume Level**（音量レベル） **MultEQ®** **Dynamic EQ®** **Dynamic Volume®** **Analog/PCM**（アナログ /PCM） **Digital 2ch**（デジタル 2 チャンネル） **Digital 5.1ch**（デジタル 5.1 チャンネル） **Multi Ch**（マルチチャンネル） “ZONE2 Quick Select”は、メニューの“Amp Assign”を“ZONE2”に設定しているときに表示します。
Preset Channel プリセットチャンネルの情報を表示します。 TUNER	**A/B/C/D/E/F/G** **A1～A8/B1～B8/C1～C8/D1～D8/E1～E8/F1～F8/G1～G8**

リモコンで機器を操作する

付属のリモコンにプリセットコードを登録すると、各社の機器の操作ができるようになります。

AV 機器を操作する

1 ZONE SELECT を押して、操作するゾーンを選ぶ。

選択したゾーン操作モード表示が点灯します。

• **ZONE SELECT** を押すたびに、モードが切り替わります。

MAIN	メインゾーンの操作をするときに選びます。
ZONE2	ゾーン 2 の操作をするときに選びます。
ZONE3	使用しません。

•「リモコンで使用するゾーンを指定する」(☞69 ページ)で“2”に設定すると、メインゾーンとゾーン 2 のみ操作できます。

2 入力ソース選択ボタンを押して、入力ソースを選ぶ(☞23 ページ)。

• 手順 1 で選択したゾーンの入力ソースを切り替えます。
• リモコンの操作モードを次の表のように切り替えます。

入力ソース選択ボタン	本機の入力ソース	リモコンで操作できる機器（操作モード）
AMP	–	本機（アンプ操作）
BD *	BD	**BD** ボタンに登録している機器
DVD *	DVD	**DVD** ボタンに登録している機器
TV *	TV	**TV** ボタンに登録している機器
SAT/CBL *	SAT/CBL	**SAT/CBL** ボタンに登録している機器
GAME *	GAME	**GAME** ボタンに登録している機器
V.AUX *	V.AUX	**V.AUX** ボタンに登録している機器
CD *	CD	**CD** ボタンに登録している機器
TUNER	TUNER	本機（チューナー操作）
NET/USB	USB/iPod	USB 端子に接続した iPod、または USB メモリー
iPod	USB/iPod または DOCK	USB に接続した iPod、または iPod 用コントロールドック
DOCK	DOCK	iPod 用コントロールドック

＊ このボタンにプリセットコードを登録すると、本機のリモコンでお手持ちの機器の操作がおこなえます。

ご注意

リモコンがアンプ操作モード以外のときに、下記の動作をおこなう場合は、**AMP** を押してリモコンをアンプ操作モードに切り替えてください。

• **MENU**を押して、本機のメニュー操作をおこなうとき
• **CH LEVEL** を押して、本機のチャンネルレベルを設定するとき
• **ZONE/DEVICE ON** または **ZONE/DEVICE OFF** を押して、各ゾーンの電源オン / オフを切り替えるとき

3 本機または入力ソースを切り替えた機器の操作をおこなう。

• 詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。また、iPod、チューナー、USB メモリーの操作については、以下のページをご覧ください。
• iPod(☞25 ページ , 26)
• チューナー(☞27 ページ)
• USB メモリー(☞29 ページ)

プリセットコードを登録する

付属のリモコンにプリセットコードを登録すると、お手持ちの DVD プレーヤーやテレビなど各社の機器の操作ができるようになります。

プリセットコードの登録には、メニューの“Remote Preset Codes”(☞63 ページ)を使用してください。このメニューでは、付属のリモコンに登録可能なプリセットコードを検索して、表示させることができます。

❑機器の操作に使用できる主なボタン

① **ZONE/DEVICE ON**、**ZONE/DEVICE OFF**
各機器の電源オン / オフを切り替えます。

② △▽◁ ▷、**ENTER**、**RETURN**
各機器のメニュー操作をします。

③ **MENU**、**SETUP**、**TOP MENU**
各機器のメニューを表示します。

④ **▶**、**■**、**II**、**◀◀**、**▶▶**、**I◀◀**、**▶▶I**

⑤ 数字ボタン（**0**〜**9**、**+10**）

⑥ **CH +**、**CH –**

⑦ **TV POWER**、**TV INPUT**
テレビの操作をおこないます。
このボタンは、どのモードのときでも有効です。

各機器のリモコン操作の詳細については、25〜29、68、69 ページをご覧ください。

❑お買い上げ時に設定されているプリセットコード

お買い上げ時の設定では、各入力ソース切り替えボタンに次の機器を登録しています。ご使用になる機器に合わせて変更できます。

入力ソース選択ボタン	カテゴリー	ブランド	プリセットコード
BD	ブルーレイディスクプレーヤー	DENON	32258
DVD	DVD プレーヤー	DENON	32134
TV	テレビ	SONY	10810
SAT/CBL	衛星チューナー（セットトップボックス）	DirecTV	01377
GAME	ケーブルテレビ（セットトップボックス）	Motorola	01376
V.AUX	DVD プレーヤー	DENON	32134
CD	CD プレーヤー	DENON	42867
DOCK ＊	iPod 用コントロールドック	DENON	42517

＊iPod 用コントロールドックを使用しない場合は、**DOCK** に他の機器のプリセットコードを登録できます。

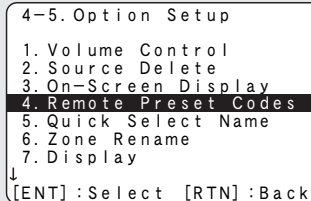
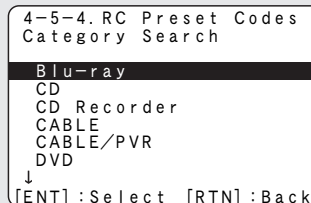
ご注意

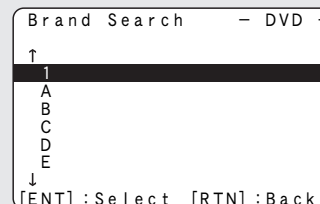
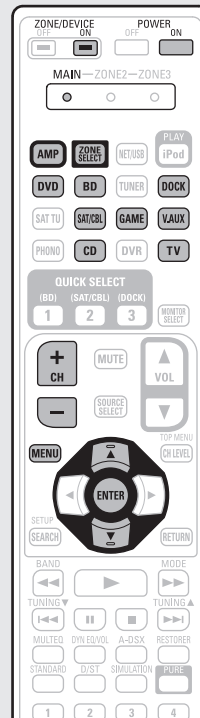
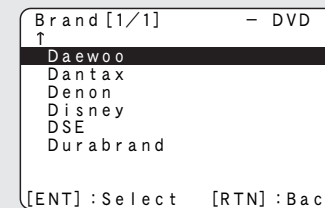
- **TUNER** および **NET/USB** にはプリセットコードを登録できません。
- **iPod** にはプリセットコードを登録しないでください。
このボタンは、iPod のプレイボタンも兼ねています。

1 **ZONE SELECT** を押して、ゾーン操作モードを“MAIN”に切り替える。
リモコンのゾーン操作モード表示の“MAIN”が点灯します。

2 **AMP** を押して、リモコンをアンプ操作モードにする。

3 **MENU** を押す。
テレビ画面にメニューを表示します。

4 △▽ を押して、“Manual Setup” ⇨“Option Setup” ⇨“Remote Preset Codes” を選び、**ENTER** を押す。

5 △▽ を押して、プリセット登録したい機器のカテゴリーを選び、**ENTER** を押す。

- “TV”、“TV/DVD”、“TV/VCR”カテゴリーは、**TV** ボタンのみプリセットコードの登録ができます。

6 △▽ を押して、ブランド名の頭文字を選び、**ENTER** を押す。

- 頭文字は、1、A～Z で表示します。（各カテゴリーで、ブランドが存在する頭文字のみ表示します。）
数字で始まるブランド名は、“1”を選んでください。

7 △▽ を押して、ブランド名を選び、**ENTER** を押す。

- ブランド名が複数ページある場合は、**CH +** または **CH –** を押すと、ページを切り替えることができます。

ご注意

リストにご希望のブランド名が表示されない場合は、本機に付属のリモコンで、ご使用の機器を操作することはできません。このような場合は、ご使用の機器に付属のリモコンを使用して操作してください。

8 リモコンコードとリモコンのプリセット登録の操作手順を表示します。

```
Category  :DVD
Brand     :DENON
Code[1/3]:30490
Setup Remote
1.Press [Source]button.
2.Press and Hold 3sec.
  both[PowerON][DeviceON]
3.Input Code with [0-9]
4.Press any key to check
  device[e.g.DeviceON]
[QUICK1]:OK [QUICK2]:NG
```

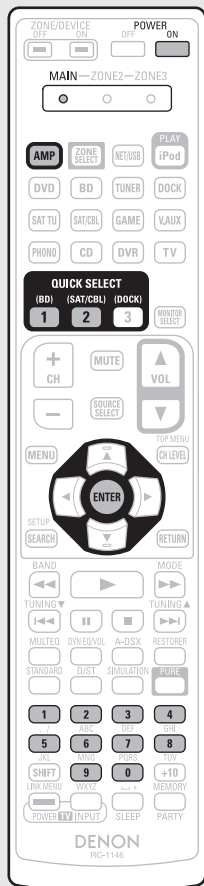
9 プリセット登録したい機器の入力ソース切り替えボタン（**DVD**、**BD**、**SAT/CBL**、**DOCK**、**V.AUX**、**GAME**、**CD** または **TV**）を押す。

- **TV** ボタンには、“TV”、“TV/DVD”、“TV/VCR”カテゴリーのプリセットコードのみ登録できます。

10 **POWER ON** と **ZONE/DEVICE ON** を 3 秒以上同時に押す。
ゾーン操作モード表示が 2 回点滅します。

11 0 ~ 9 を押して、5 桁のコードを入力する。

ボタンの入力は、10 秒以上の間隔を空けずにおこなってください。

```
 Category :DVD
 Brand    :DENON
 Code[1/3]:30490
Setup Remote
1.Press  [Source]button.
2.Press and Hold 3sec.
 both[PowerON][DeviceON]
3.Input Code with [0-9]
4.Press any key to check
  device[e.g.DeviceON]
[QUICK1]:OK [QUICK2]:NG
```

- 正しく登録できたとき
  →ゾーン操作モード表示が 2 回点滅します。
- 正しく登録できなかったとき
  → ゾーン操作モード表示が 1 回ゆっくりと点滅します。手順 9 から操作をやり直してください。
- 番号を間違えて入力した場合
  → **POWER ON** を 1 回押し、手順 9 から操作をやり直してください。

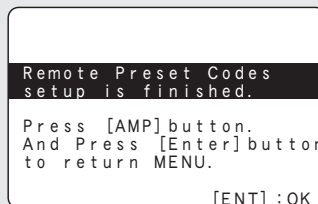
12 ご使用の機器の操作をおこない、操作できるか確認する。

- 機器を操作できた場合は、**QUICK SELECT 1** を押す。
  → 手順 13 へ進んでください。
- 機器を操作できない場合は、**QUICK SELECT 2** を押す。
  → 手順 14 へ進んでください。

13 次の画面を表示し、プリセットコードの登録を完了します。

```
Remote Preset Codes
setup is finished.

Press [AMP]button.
And Press [Enter]button
to return MENU.

              [ENT]:OK
```

- メニュー画面に戻りますので、**AMP** を押した後、**ENTER** を押してください。

14 次のいずれかの画面を表示します。

①

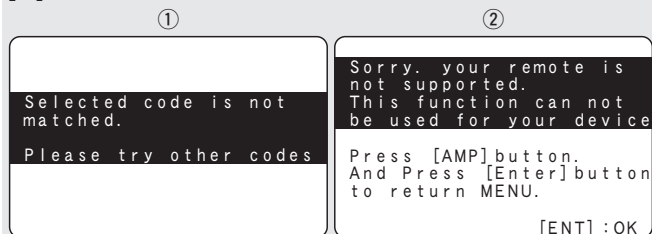
```
Selected code is not
matched.

Please try other codes
```

②

```
Sorry. your remote is
not supported.
This function can not
be used for your device

Press [AMP]button.
And Press [Enter]button
to return MENU.

              [ENT]:OK
```

- 上記の画面を約 3 秒間表示後、自動的に次のプリセット登録画面に進みます。

【① の画面が表示された場合】
次に表示されるプリセットコードで動作する可能性があります。プリセット登録画面に進みますので、手順 9〜12 をくり返しおこなってください。

【② の画面が表示された場合】
本機に付属のリモコンで、ご使用の機器を操作できません。ご使用の機器に付属のリモコンを使用してください。メニュー画面に戻りますので、**AMP** を押してから **ENTER** を押してください。

メーカーによってはプリセットコードを数種類持っています。動作しない場合は別のコードを入力してください。

ご注意

お手持ちの機器の形式や年式によって、操作できないボタンがあります。

機器を操作する

付属のリモコンは、本機以外のコンポーネント製品も操作できます。

1 入力ソースを切り替える（☞23 ページ）。

2 機器を操作する。

- 詳しくは、各機器の取扱説明書をご覧ください。

❑ブルーレイディスクプレーヤー / HD DVD プレーヤー /DVD プレーヤー / DVD レコーダー

操作ボタン	機能
ZONE/DEVICE ON	電源オン ＊
ZONE/DEVICE OFF	電源スタンバイ ＊
CH +, –	チャンネルの切り替え（アップ / ダウン）
MENU	（ポップアップ）メニュー
TOP MENU	トップメニュー
△▽◁▷	カーソル操作
ENTER	確定
SETUP	セットアップ
RETURN	リターン
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ（早戻し / 早送り）
▶	再生
I◀◀ ▶▶I	オートサーチ（頭出し）
II	一時停止
■	停止
0 ~ 9, +10	タイトルまたはチャプターの選択 / チャンネルの選択
TV POWER	テレビの電源オン / スタンバイ（お買い上げ時の設定：SONY）
TV INPUT	テレビの入力切り替え（お買い上げ時の設定：SONY）

＊ 機器によっては、電源オン / スタンバイの動作になる場合があります。

❏CD プレーヤー /CD レコーダー

操作ボタン	機能
ZONE/DEVICE ON	電源オン ＊
ZONE/DEVICE OFF	電源スタンバイ ＊
△▽◁▷	カーソル操作
ENTER	確定
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ（早戻し / 早送り）
▶	再生
I◀◀ ▶▶I	オートサーチ（頭出し）
II	一時停止
■	停止
0 ~ 9, +10	曲の選択
TV POWER	テレビの電源オン / スタンバイ（お買い上げ時の設定：SONY）
TV INPUT	テレビの入力切り替え（お買い上げ時の設定：SONY）

＊ 機器によっては、電源オン / スタンバイの動作になる場合があります。

❏DVD レコーダー（PVR）/ ビデオデッキ

操作ボタン	機能
ZONE/DEVICE ON	電源オン ＊
ZONE/DEVICE OFF	電源スタンバイ ＊
CH +, –	チャンネルの切り替え（アップ / ダウン）
MENU	メニュー表示
△▽◁▷	カーソル操作
ENTER	確定
SETUP	セットアップ
RETURN	リターン
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ（早戻し / 早送り）
▶	再生
I◀◀ ▶▶I	オートサーチ（頭出し）
II	一時停止
■	停止
0 ~ 9, +10	タイトルまたはチャプターの選択 / チャンネルの選択
TV POWER	テレビの電源オン / スタンバイ（お買い上げ時の設定：SONY）
TV INPUT	テレビの入力切り替え（お買い上げ時の設定：SONY）

＊ 機器によっては、電源オン / スタンバイの動作になる場合があります。

❏テレビ

操作ボタン	機能
ZONE/DEVICE ON	電源オン ＊
ZONE/DEVICE OFF	電源スタンバイ ＊
CH +, –	チャンネルの切り替え（アップ / ダウン）
MENU	メニュー表示
△▽◁▷	カーソル操作
SETUP	セットアップ
ENTER	確定
RETURN	リターン
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ（早戻し / 早送り）
▶	再生
I◀◀ ▶▶I	オートサーチ（頭出し）
II	一時停止
■	停止
0 ~ 9, +10	チャンネルの選択
TV POWER	テレビの電源オン / スタンバイ（お買い上げ時の設定：SONY）
TV INPUT	テレビの入力切り替え（お買い上げ時の設定：SONY）

＊ 機器によっては、電源オン / スタンバイの動作になる場合があります。

❏衛星チューナー（セットトップボックス）（SAT）/ ケーブルテレビ（CBL）/IP テレビ

操作ボタン	機能
ZONE/DEVICE ON	電源オン ＊
ZONE/DEVICE OFF	電源スタンバイ ＊
CH +, –	チャンネルの切り替え（アップ / ダウン）
MENU	メニュー表示
△▽◁▷	カーソル操作
ENTER	確定
SETUP	ガイド
RETURN	リターン
◀◀ ▶▶	マニュアルサーチ（早戻し / 早送り）
▶	再生
I◀◀ ▶▶I	オートサーチ（頭出し）
II	一時停止
■	停止
0 ~ 9, +10	チャンネルの選択
TV POWER	テレビの電源オン / スタンバイ（お買い上げ時の設定：SONY）
TV INPUT	テレビの入力切り替え（お買い上げ時の設定：SONY）

＊ 機器によっては、電源オン / スタンバイの動作になる場合があります。

リモコンで使用するゾーンを指定する

ZONE SELECT を押したときに、設定したゾーンのみリモコンで操作できるようになります。

1 POWER ON と ZONE/DEVICE ON を３秒以上長押しする。

ゾーン操作モード表示が 2 回点滅します。

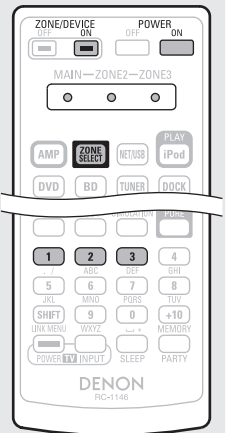
2 ZONE SELECT を押す。

ゾーン操作モード表示が 2 回点滅します。

3 1 ~ 3 を押して、使用するゾーンを設定する。

ゾーン操作モード表示が 2 回点滅します。

【設定できる項目】

1 “メインゾーン”のみ使用するとき
2 “メインゾーン”/“ゾーン 2”を使用するとき
3 “メインゾーン”/“ゾーン 2”/“ゾーン 3”を使用するとき（お買い上げ時の設定）

リモコンを初期化する

リモコンをお買い上げ時の設定に戻します。

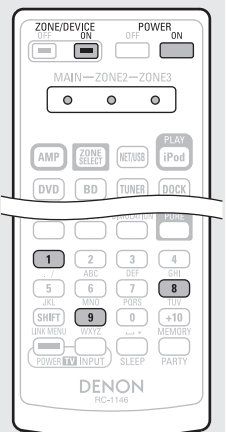
1 POWER ON と ZONE/DEVICE ON を３秒以上長押しする。

ゾーン操作モード表示が 2 回点滅します。

2 9､8､1 の順に押す。

ディスプレイの“MAIN”表示が 4 回点滅します。
すべての設定がお買い上げ時の設定に戻ります。

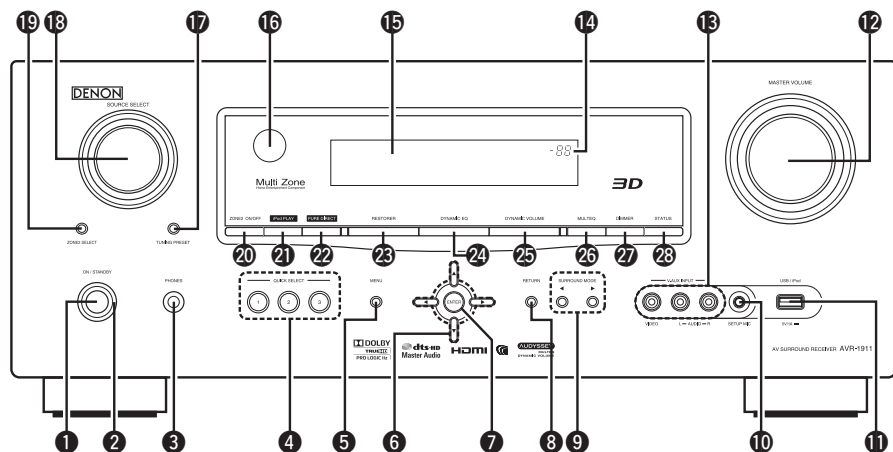
入門編
基本編
応用編
情報編

Information

情報編

ここでは本機に関するさまざまな情報を記載しています。
必要に応じてご覧ください。

各部の名前

フロントパネル

各部のはたらきなど詳しい説明については、( )内のページをご覧ください。

❶ **電源ボタン(ON/STANDBY)**……(9、14)
本機の電源をオン / スタンバイに切り替えます。

❷ **電源表示**……(14)

❸ **ヘッドホン端子(PHONES)**
ヘッドホンのプラグを差し込むと、スピーカーおよびプリアウト端子から音が出なくなります。

ご注意
ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。

❹ **クイックセレクトボタン(QUICK SELECT)**……(41、43)

❺ **メニューボタン(MENU)**……(47)

❻ **カーソルボタン(△▽◁ ▷)**……(45〜47)

❼ **エンターボタン(ENTER)**……(45〜47)

❽ **リターンボタン(RETURN)**……(45〜47)

❾ **サラウンドモード切り替えボタン**……(30、84)

❿ **セットアップマイク端子(SETUP MIC)**……(10、38)

⓫ **USB/iPod端子**……(21)

⓬ **主音量調節つまみ(MASTER VOLUME)**……(23)

⓭ **V.AUX入力端子(V.AUX INPUT)**……(20)

⓮ **主音量表示**

⓯ **ディスプレイ**……(71)

⓰ **リモコン受光部**……(74)

⓱ **チューニングプリセットボタン(TUNING PRESET)**……(28)

⓲ **入力ソース切り替えつまみ(SOURCE SELECT)**……(23、42)

⓳ **ゾーン2選択ボタン(ZONE2 SELECT)**……(42)

⓴ **ゾーン2用電源ボタン(ZONE2 ON/OFF)**……(42)

㉑ **iPod PLAYボタン**……(27)

㉒ **ピュアダイレクトボタン(PURE DIRECT)**……(32)

㉓ **RESTORERボタン**……(57)

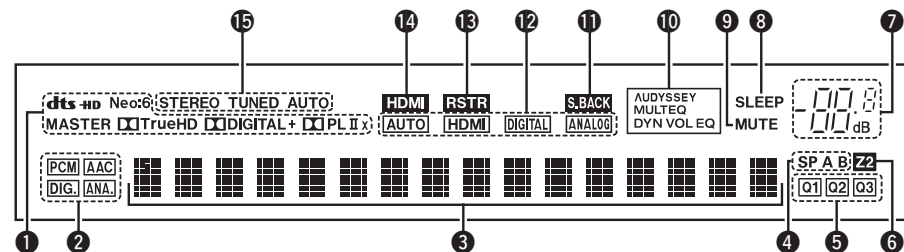
㉔ **DYNAMIC EQ®ボタン**……(55)

㉕ **DYNAMIC VOLUME®ボタン**……(56)

㉖ **MULTEQ®ボタン**……(55、62)

㉗ **ディマーボタン(DIMMER)**……(64)

㉘ **ステータスボタン(STATUS)**……(65)

ディスプレイ

❶ **デコーダー表示**
各デコーダーが動作しているときに点灯します。

❷ **入力信号表示**

❸ **インフォメーションディスプレイ**
入力ソース名、サラウンドモード、設定値などを表示します。

❹ **フロントスピーカー表示**
フロントスピーカーから音声を出力しているときに点灯します。

❺ **クイックセレクト表示**
Quick Select 機能を設定している表示が点灯します (☞41 ページ「クイックセレクト機能」)。

❻ **ZONE2表示**
ゾーン 2(別の部屋)の電源が入って入るときに点灯します(☞42 ページ)。

❼ **主音量表示**
音量レベルを表示します。
設定操作中は、メニュー番号を表示します。

❽ **スリープタイマー表示**
スリープタイマーを設定しているときに点灯します(☞40 ページ)。

❾ **ミュート表示**
ミューティング中に点灯します(☞23 ページ)。

❿ **AUDYSSEY表示**
"Dynamic EQ"(☞55 ページ)と"Dynamic Volume"(☞56 ページ)の設定により、次のように点灯します。

表示	説明
AUDYSSEY MULTEQ DYN VOL	"Dynamic EQ"および"Dynamic Volume"の設定が"ON"のとき
AUDYSSEY MULTEQ DYN EQ	"Dynamic EQ"の設定が"ON"、"Dynamic Volume"の設定が"OFF"のとき
AUDYSSEY MULTEQ	"Dynamic EQ"および"Dynamic Volume"の設定が"OFF"のとき

ディスプレイ

⓫ **サラウンドバック表示**
サラウンドバックスピーカーから音声を出力しているときに点灯します（☞58ページ）。

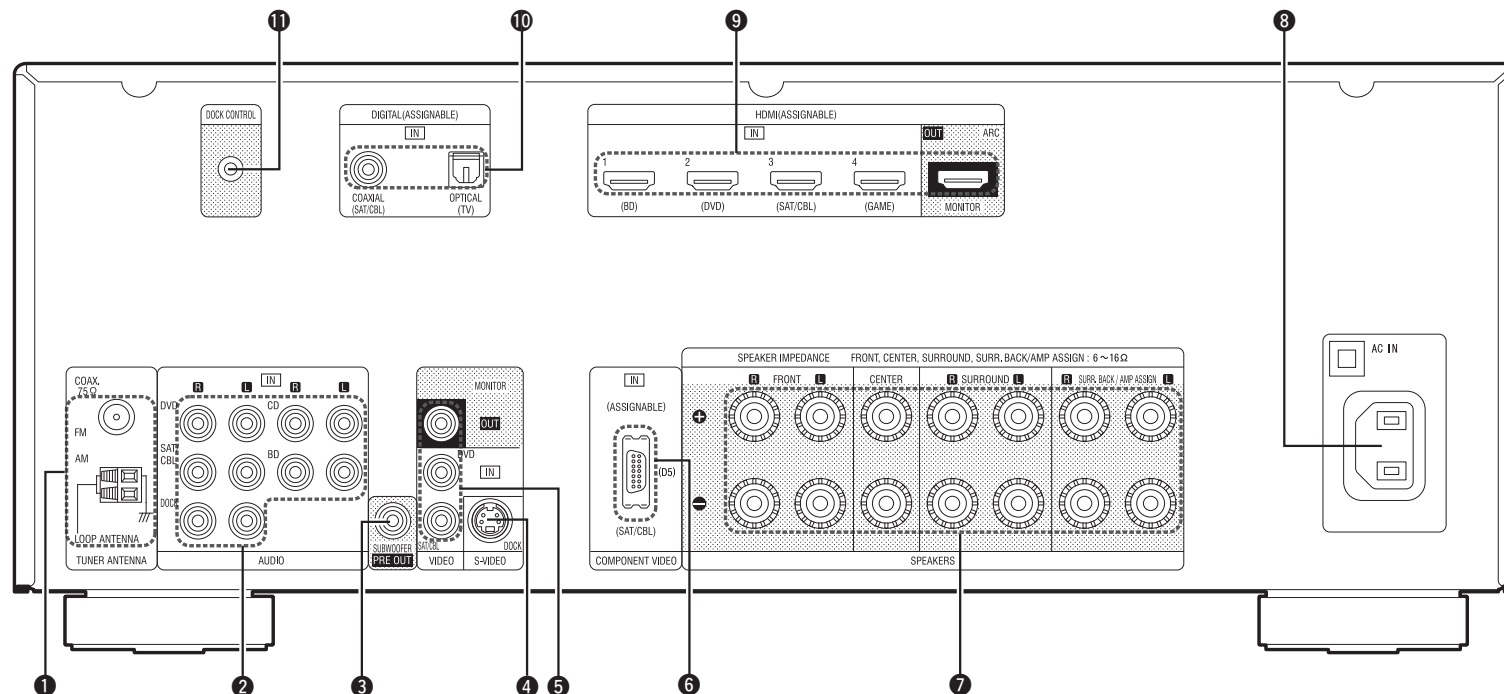
⓬ **入力モード表示**
各入力ソースの音声入力モードの設定により点灯します（☞51ページ）。

⓭ **RESTORER表示**
RESTORERモードが選ばれているときに点灯します（☞57ページ）。

⓮ **HDMI表示**
HDMI接続で再生しているときに点灯します。

⓯ **チューナー受信モード表示**
入力ソースが"TUNER"のとき、放送局の受信状態により点灯します。
STEREO: FMモードで、ステレオ放送を受信したときに点灯します。
TUNED: 放送を受信したときに点灯します。
AUTO: オートチューニングモードのときに点灯します（☞27ページ）。

リアパネル

詳しい説明については、( )内のページをご覧ください。

❶ FM/AMアンテナ端子（TUNER ANTENNA）……（22）

❷ アナログ音声端子……（19～22）

❸ プリアウト端子（PRE OUT）……（8、35～37）

❹ Sビデオ端子（S-VIDEO）……（21）

❺ ビデオ端子（VIDEO）……（19、20）

❻ コンポーネントビデオ/D5端子（COMPONENT VIDEO）……（20）

❼ スピーカー端子（SPEAKERS）……（8、35～37）

❽ ACインレット（AC IN）……（8）

❾ HDMI端子……（18）

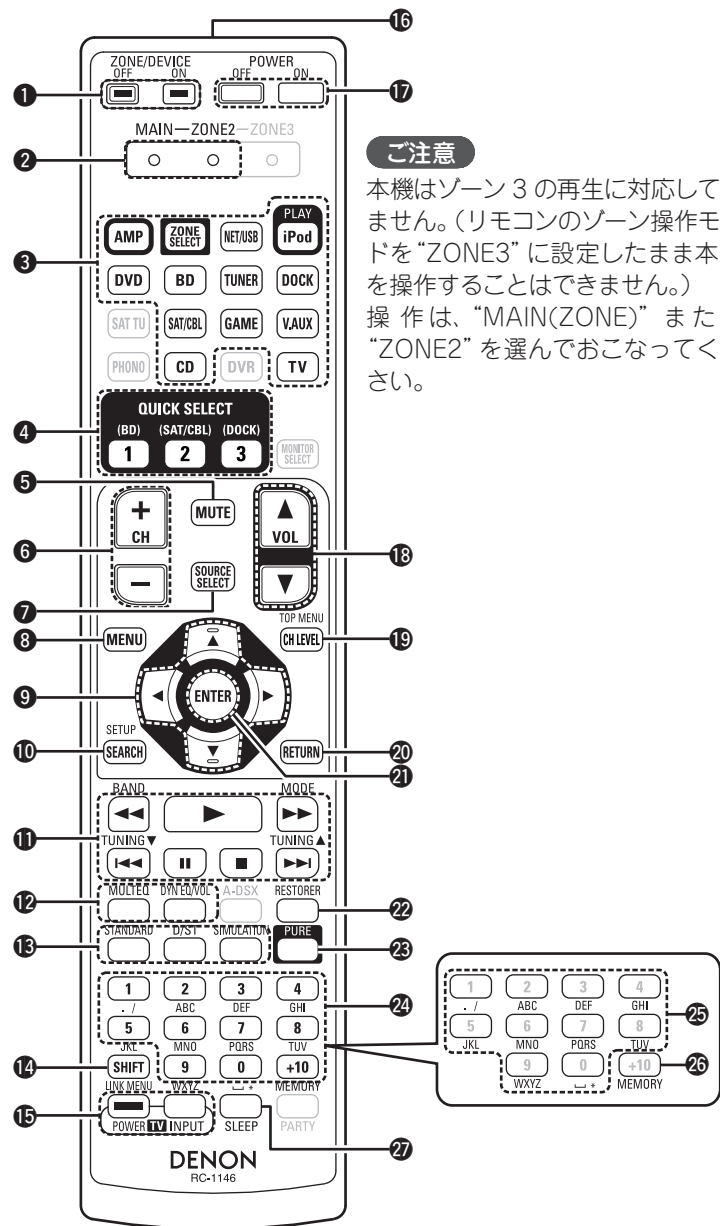
❿ デジタル音声端子（OPTICAL/COAXIAL）……（19、20）

⓫ ドックコントロール端子（DOCK CONTROL）……（21）

ご注意

端子内部のピンには絶対に触れないでください。静電気を引き起こし、故障の原因になることがあります。

リモコン

各部のはたらきなど詳しい説明については、( )内のページをご覧ください。

ご注意

本機はゾーン 3 の再生に対応していません。（リモコンのゾーン操作モードを "ZONE3" に設定したまま本機を操作することはできません。）

操作は、"MAIN(ZONE)" または "ZONE2" を選んでおこなってください。

❶ **ゾーン/デバイス用電源ボタン** ·····(42、66)

❷ **ゾーン操作モード表示** ·····(42、66)

❸ **入力ソース選択ボタン** ·····(23、42)

❹ **クイックセレクトボタン（QUICK SELECT）** ·····(41、43)

❺ **ミューティングボタン（MUTE）** ···(23、42)

❻ **チャンネルボタン（CH）** ·····(27、68)

❼ **ソース選択ボタン（SOURCE SELECT）** ·····(23、42)

❽ **メニューボタン（MENU）** ·····(47)

❾ **カーソルボタン（△▽◁ ▷）** ·····(45〜47)

❿ **サーチボタン（SEARCH）** ·····(24、47)

⓫ **システムボタン** ·····(25、26、29、68)
- スキップボタン（⏮、⏭）
- プレイボタン（▶）
- サーチボタン（◀◀、▶▶）
- ポーズボタン（❚❚）
- ストップボタン（■）

チューナーシステムボタン ·····(27)
- FM/AM バンド切り替えボタン（BAND）
- チューニングモード切り替えボタン（MODE）
- 選局ボタン（TUNING ▲▼）

⓬ **Audysseyボタン** ·····(55、56、62)
- MULTEQ® ボタン
- Dynamic EQ®/Dynamic Volume® ボタン（DYN EQ/VOL）

⓭ **サラウンドモードボタン** ·····(30〜32)
- スタンダードボタン（STANDARD）
- ダイレクト / ステレオボタン（D/ST）
- DSP シミュレーションボタン（SIMULATION）

⓮ **SHIFTボタン** ·····(27、46)

⓯ **テレビ操作ボタン（TV POWER/INPUT）** ·····(68、69)

⓰ **リモコン信号送信窓** ·····(74)

⓱ **電源操作ボタン（POWER ON/OFF）** ·····(9、14)

⓲ **主音量調節ボタン（VOL）** ·····(23)

⓳ **チャンネルレベル調節ボタン（CH LEVEL）** ·····(40)

⓴ **リターンボタン（RETURN）** ·····(45〜47)

㉑ **エンターボタン（ENTER）** ·····(45〜47)

㉒ **RESTORERボタン** ·····(57)

㉓ **ピュアダイレクトボタン（PURE）** ·····(32)

㉔ **数字ボタン** ·····(27、68、69)

㉕ **文字入力ボタン** ·····(46)

㉖ **メモリーボタン（MEMORY）** ·····(27)

㉗ **スリープタイマーボタン（SLEEP）** ·····(40)

✎

NET/USB は、本機の USB 端子に接続している iPod または USB メモリーのソースに切り替えるボタンです。

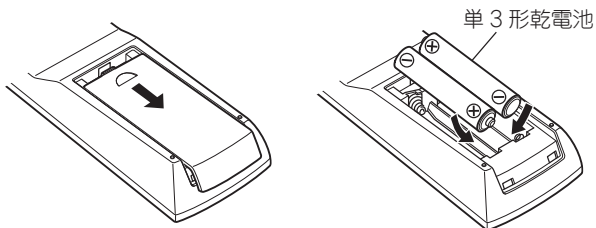
また、別売りの DENON 製 iPod 用コントロールドック ASD-3N/ASD-3W を本機に接続すると、iPod 用コントロールドックのネットワーク機能を使用して、ネットワークに接続することもできます。操作のしかたは、iPod 用コントロールドックに付属の取扱説明書をご覧ください。

ご注意

本機では、**SAT TU**、**PHONO**、**DVR**、**MONITOR SELECT**、**A-DSX** および **PARTY** ボタンは使用しません。

乾電池の入れかた

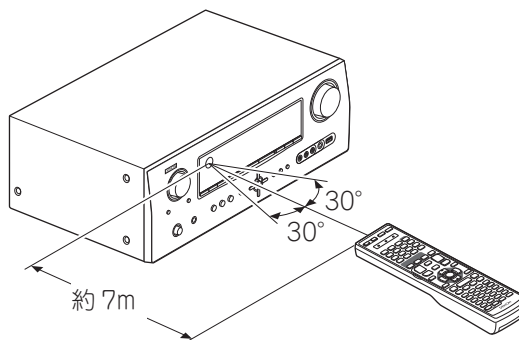
① 裏ぶたを矢印の方法へスライドさせて取り外す。

② 乾電池(2本)を乾電池収納部の表示に合わせて正しく入れる。

③ 裏ぶたを元通りにする。

ご注意

- リモコンには単 3 形乾電池をご使用ください。
- リモコンを本機の近くで操作しても本機が動作しないときは、新しい乾電池と交換してください。(付属の乾電池は動作確認用です。早めに新しい乾電池と交換してください。)
- 乾電池は、リモコンの乾電池収納部の表示通りに ⊕ 側・⊖ 側を合わせて正しく入れてください。
- 破損・液漏れの恐れがありますので、
  - 新しい乾電池と使用済みの乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 違う種類の乾電池を混ぜて使用しないでください。
  - 乾電池は充電しないでください。
  - 乾電池をショートさせたり、分解や加熱または火に投入させたりしないでください。
  - 電池を直射日光のあたるところや暖房器具の近くなど高温になるところに置かないでください。
- 万一、乾電池の液漏れがおこったときは、乾電池収納部内についた液をよく拭き取ってから新しい乾電池を入れてください。
- リモコンを長期間使用しないときは、乾電池を取り出してください。
- 不要になった乾電池を廃棄するときは、お住まいの地域の条例にしたがって処理をしてください。

リモコンの使いかた

リモコンはリモコン受光部に向けてご使用ください。

ご注意

リモコン受光部に、直射日光やインバーター式蛍光灯の強い光または赤外線が当たると、誤動作をしたり、リモコンが操作できなくなったりする場合があります。

登録商標について

本製品は、次の技術を採用しています。（順不同）

DOLBY TRUEHD PRO LOGIC IIz	ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Pro Logic およびダブル D 記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。
dts-HD Master Audio	本機は DTS, Inc. からのライセンス契約に基づき製造されています。米国特許第 5,451,942 号、5,956,674 号、5,974,380 号、5,978,762 号、6,226,616 号、6,487,535 号、7,212,872 号、7,333,929 号、7,392,195 号、7,272,567 号その他、米国内および国外特許もしくは特許出願物。DTS のロゴ、シンボル、DTSHD および DTS-HDMaster Audio は、DTS, Inc. の商標です。DTS, Inc.©1996-2008 DTS, Inc. 版権所有。
HDMI	HDMI、HDMI ロゴおよび High-Definition Multimedia Interface は、HDMI Licensing, LCC の商標または登録商標です。
AUDYSSEY MULTEQ DYNAMIC VOLUME	本機は、Audyssey Laboratories™ からのライセンス契約に基づき製造されています。米国共同で外国特許審議中。Audyssey MultEQ®、Dynamic EQ® および Audyssey Dynamic Volume® は、Audyssey Laboratories の商標です。

Made for iPod iPhone	“Made for iPod,”and“ Made for iPhone,” mean that an electronic accessory has been designed to connect specifically to iPod, or iPhone, respectively, and has been certified by the developer to meet Apple performance standards. Apple is not responsible for the operation of this device or its compliance with safety and regulatory standards. iPhone, iPod, iPod classic, iPod nano, iPod shuffle, and iPod touch are trademarks of Apple Inc., registered in the U.S. and other countries. • iPhone、iPod、iPod classic、iPod nano、iPod shuffle および iPod touch は、著作権のないコンテンツまたは法的に複製、再生を許諾されたコンテンツを個人が私的に複製、再生するために使用許諾されるものです。著作権の侵害は法律上禁止されています。

サラウンド

本機に内蔵のデジタル信号処理回路のはたらきにより、プログラムソースを映画館と同じ臨場感でサラウンド再生をお楽しみいただけます。

サラウンドモードとパラメーター一覧表

この表は、各サラウンドモードのときに再生できるスピーカーと、各サラウンドモードのときに調節できるサラウンドパラメーターを示したものです。

表の中の記号について

○ 音声を出力するチャンネル、または設定できるサラウンドパラメーターを示します。
◎ 音声を出力するチャンネルを示します。ただし、"Speaker Config."（☞58ページ）の設定により出力するチャンネルが異なります。

サラウンドモード（☞30 ページ）	チャンネル出力						Surround Parameter（☞52 ページ）							
	フロント 左 / 右	センター	サラウンド 左 / 右	サラウンドバック 左 / 右	フロントハイト 左 / 右	サブウーハー	Mode（☞52ページ）	Cinema EQ. ＊5（☞52ページ）	DRC ＊9（☞52ページ）	D. Comp ＊10（☞52ページ）	LFE ＊11（☞52ページ）	Delay Time（☞53ページ）	Effect Lev.（☞53ページ）	Room Size（☞53ページ）
PURE DIRECT	○					◎＊3			○	○	○			
DIRECT（2 チャンネル）	○					◎＊3			○	○				
DIRECT（マルチチャンネル）	○	◎	◎	◎＊1	◎＊1	◎			○	○	○			
STEREO	○					◎			○	○	○			
MULTI CH IN	○	◎	◎	◎	◎＊2	◎		○			○			
DOLBY PRO LOGIC IIz	○	◎	◎		◎	◎	○＊4	○	○	○				
DOLBY PRO LOGIC IIx	○	◎	◎	◎		◎	○	○＊6	○	○				
DOLBY PRO LOGIC II	○	◎	◎			◎	○	○＊7	○	○				
DTS NEO:6	○	◎	◎	◎		◎	○	○＊6	○	○				
DOLBY DIGITAL	○	◎	◎	◎	◎＊2	◎		○＊8		○	○			
MPEG-2 AAC	○	◎	◎	◎	◎＊2	◎		○＊8			○			
DOLBY DIGITAL Plus	○	◎	◎	◎	◎＊2	◎		○＊8		○	○			
DOLBY TrueHD	○	◎	◎	◎	◎＊2	◎		○＊8	○		○			
DTS SURROUND	○	◎	◎	◎	◎＊2	◎		○＊8		○	○			
DTS 96/24	○	◎	◎	◎	◎＊2	◎		○＊8		○	○			
DTS-HD	○	◎	◎	◎	◎＊2	◎		○＊8		○	○			
DTS Express	○	◎	◎	◎	◎＊2	◎		○＊8		○	○			
MULTI CH STEREO	○	◎	◎	◎	◎＊2	◎				○	○			
ROCK ARENA	○	◎	◎	◎	◎＊2	◎				○	○		○	○
JAZZ CLUB	○	◎	◎	◎	◎＊2	◎				○	○		○	○
MONO MOVIE	○	◎	◎	◎	◎＊2	◎				○	○		○	○
VIDEO GAME	○	◎	◎	◎	◎＊2	◎				○	○		○	○
MATRIX	○	◎	◎	◎	◎＊2	◎				○	○	○		
VIRTUAL	○					◎＊3				○	○			

＊1　各チャンネルの入力信号が含まれる場合に音声を出力します。
＊2　メニューの"Surround Parameter"⇨"Front Height"設定（☞54 ページ）が"ON"のときに、フロントハイトスピーカーから音声を出力します。
＊3　メニューの"Subwoofer Mode"設定（☞59 ページ）が"LFE+Main"のときのみ、サブウーハーから音声を出力します。
＊4　このサラウンドモードを選択したときは、メニューの"Surround Parameter"⇨"Mode"設定（☞52 ページ）が"Height"モードで固定になります。
＊5　入力信号のサンプリング周波数が 96kHz を超過する HD Audio の場合、このサラウンドパラメーターを設定できません。
＊6　この項目は、メニューの"Surround Parameter"⇨"Mode"設定（☞52 ページ）が"Cinema"のときに設定できます。
＊7　この項目は、メニューの"Surround Parameter"⇨"Mode"設定（☞52 ページ）が"Cinema"または"Pro Logic"のときに設定できます。
＊8　この項目は、メニューの"Surround Parameter"⇨"S.Back"設定（☞53 ページ）が"PLIIx Music"のときは設定できません。
＊9　この項目は、Dolby TrueHD 信号を再生時に選択できます。
＊10　この項目は、Dolby Digital および DTS 信号を再生時に選択できます。
＊11　この項目は、Dolby Digital、DTS および DVD オーディオを再生時に選択できます。

サラウンドモード（☞30 ページ）	Surround Parameter（☞52 ページ）									Tone ＊15（☞54ページ）	Audyssey Settings＊20（☞55 ページ）			RESTORER ＊19（☞57ページ）
	AFDM ＊12（☞53ページ）	S.Back（☞53ページ）	Front Height ＊13（☞54ページ）	Height Gain（☞54ページ）	Subwoofer（☞54ページ）	PRO LOGIC II/IIx Music モードのみ Panorama（☞53ページ）	PRO LOGIC II/IIx Music モードのみ Dimension（☞53ページ）	PRO LOGIC II/IIx Music モードのみ Center Width（☞53ページ）	NEO:6 Music モードのみ Center Image（☞52ページ）		MultEQ®（☞55ページ）	Dynamic EQ® ＊17（☞55ページ）	Dynamic Volume® ＊18（☞56ページ）	
PURE DIRECT					○＊3									
DIRECT（2 チャンネル）					○＊3									
DIRECT（マルチチャンネル）														
STEREO										○	○	○	○	○
MULTI CH IN	○	○	○	○＊14						○	○	○	○	
DOLBY PRO LOGIC IIz			○	○						○	○	○	○	○
DOLBY PRO LOGIC IIx		○				○	○	○		○	○	○	○	○
DOLBY PRO LOGIC II		○	○			○	○	○		○	○	○	○	○
DTS NEO:6		○							○	○	○	○	○	○
DOLBY DIGITAL	○	○	○	○＊14						○	○	○	○	
MPEG-2 AAC		○	○	○＊14						○	○	○	○	
DOLBY DIGITAL Plus	○	○	○	○＊14						○	○	○	○	
DOLBY TrueHD	○	○	○	○＊14						○	○	○	○	
DTS SURROUND	○	○	○	○＊14						○	○	○	○	
DTS 96/24	○	○	○	○＊14						○	○	○	○	
DTS-HD	○	○	○	○＊14						○	○	○	○	
DTS Express	○	○	○	○＊14						○	○	○	○	
MULTI CH STEREO		○	○							○	○	○	○	○
ROCK ARENA		○	○							○＊16	○	○	○	○
JAZZ CLUB		○	○							○	○	○	○	○
MONO MOVIE		○	○							○	○	○	○	○
VIDEO GAME		○	○							○	○	○	○	○
MATRIX		○	○							○	○	○	○	○
VIRTUAL										○	○	○	○	○

＊3　メニューの“Subwoofer Mode”設定（☞59 ページ）が“LFE+Main”のときのみ、サブウーハーから音声を出力します。
＊12　この項目は、Dolby Digital、DTS および DVD オーディオを再生時に選択できます。
＊13　メニューの“Speaker Config.”⇨“Front Height”設定（☞58 ページ）が“None”のとき、この項目を選択できません。
＊14　この項目は、メニューの“Surround Parameter”⇨“Front Height”設定（☞54 ページ）が“ON”のときに選択できます。
＊15　メニューの“Dynamic EQ”設定（☞55 ページ）が“ON”のとき、この項目を設定できません。
＊16　このモードのときは、低音が +6dB、高音が +4dB になります。（お買い上げ時の設定）
＊17　メニューの“MultEQ”設定（☞55 ページ）が“OFF”または“Manual”のとき、この項目を設定できません。
＊18　メニューの“Dynamic EQ”設定（☞55 ページ）が“OFF”のとき、この項目を設定できません。
＊19　この項目は、入力信号がアナログ、PCM 48kHz または 44.1kHz のときに設定できます。
＊20　入力信号のサンプリング周波数が 96kHz を超過する HD Audio の場合、このサラウンドパラメーターを設定できません。

❑入力信号の種類と対応するサラウンドモード

この表は、各サラウンドモードのときに再生できる入力信号を示したものです。入力するソースの音声信号をご確認のうえ、サラウンドモードを選んでください。

表の中の記号について

● お買い上げ時に設定されているサラウンドモードを示します。
◎ メニューの"Surround Parameter"⇨"AFDM"設定(☞53ページ)が"ON"のときに、固定するサラウンドモードを示します。
○ 選択できるサラウンドモードを示します。

サラウンドモード（☞30 ページ）	注	入力信号の種類とフォーマット																		
			PCM		DTS-HD		DTS					DOLBY		DOLBY DIGITAL					MPEG-2 AAC	
		ANALOG	LINEAR PCM（マルチチャンネル）	LINEAR PCM（2ch）	DTS-HD Master Audio	DTS-HD High Resolution Audio	DTS EXPRESS	DTS ES DSCRT（フラグ有り）	DTS ES MTRX（フラグ有り）	DTS（5.1ch）	DTS 96/24	DOLBY TrueHD	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL EX（フラグ有り）	DOLBY DIGITAL EX（フラグ無し）	DOLBY DIGITAL（5.1/5/4ch）	DOLBY DIGITAL（4/3ch）	DOLBY DIGITAL（2ch）	AAC（マルチチャンネル）	AAC（2ch）
DTS SURROUND																				
DTS-HD MSTR					●															
DTS-HD HI RES						●														
DTS ES DSCRT6.1	＊1＊3							●◎												
DTS ES MTRX6.1	＊1＊3								●◎											
DTS SURROUND								○	○	●										
DTS 96/24											●									
DTS (–HD) + PLIIx CINEMA	＊2＊3				○	○	○	○	○	○	○									
DTS (–HD) + PLIIx MUSIC	＊1＊3				○	○	○	○	○	○	○									
DTS (–HD) + PLIIz	＊4				○	○	○	○	○	○	○									
DTS EXPRESS							●													
DTS (–HD) + NEO:6	＊1＊3				○	○	○		○	○	○									
DTS NEO:6 CINEMA		○		○														○		○
DTS NEO:6 MUSIC		○		○														○		○
DOLBY SURROUND																				
DOLBY TrueHD												●								
DOLBY DIGITAL+													●							
DOLBY DIGITAL EX	＊1＊3													○	○	○	○			
DOLBY (D+) (HD) +EX	＊1＊3											○	○							
DOLBY DIGITAL														○	●	●	●			
DOLBY (D) (D+) (HD) +PLIIx CINEMA	＊2＊3											○	○	●◎	○	○	○			
DOLBY (D) (D+) (HD) +PLIIx MUSIC	＊1＊3											○	○	○	○	○	○			
DOLBY (D) (D+) (HD) +PLIIz	＊4											○	○	○	○	○	○			
DOLBY PRO LOGIC IIx CINEMA	＊1＊3	○		○														○		○
DOLBY PRO LOGIC IIx MUSIC	＊1＊3	○		○														○		○
DOLBY PRO LOGIC IIx GAME	＊1＊3	○		○														○		○
DOLBY PRO LOGIC IIz	＊4	○		○														○		○
DOLBY PRO LOGIC II CINEMA		○		○														○		○
DOLBY PRO LOGIC II MUSIC		○		○														○		○
DOLBY PRO LOGIC II GAME		○		○														○		○
DOLBY PRO LOGIC		○		○														○		○

＊1　メニューの"Speaker Config."⇨"S.Back"設定(☞58 ページ)が"None"のとき、このサラウンドモードを選択できません。
＊2　メニューの"Speaker Config."⇨"S.Back"設定(☞58 ページ)が"1sp"または"None"のとき、このサラウンドモードを選択できません。
＊3　このサラウンドモードは、メニューの"Amp Assign"設定(☞58 ページ)が"Normal"のときに選択できます。
＊4　メニューの"Speaker Config."⇨"Front Height"設定(☞58 ページ)が"None"のとき、このサラウンドモードを選択できません。

サラウンドモード（☞30 ページ）	注	入力信号の種類とフォーマット																		
			PCM		DTS-HD		DTS					DOLBY		DOLBY DIGITAL					MPEG-2 AAC	
		ANALOG	LINEAR PCM（マルチチャンネル）	LINEAR PCM（2ch）	DTS-HD Master Audio	DTS-HD High Resolution Audio	DTS EXPRESS	DTS ES DSCRT（フラグ有り）	DTS ES MTRX（フラグ有り）	DTS（5.1ch）	DTS 96/24	DOLBY TrueHD	DOLBY DIGITAL Plus	DOLBY DIGITAL EX（フラグ有り）	DOLBY DIGITAL EX（フラグ無し）	DOLBY DIGITAL（5.1/5/4ch）	DOLBY DIGITAL（4/3ch）	DOLBY DIGITAL（2ch）	AAC（マルチチャンネル）	AAC（2ch）
MULTI CH IN																				
MULTI CH IN			●																	
MULTI CH IN + PLⅡx CINEMA	＊2＊3		○																	
MULTI CH IN + PLⅡx MUSIC	＊1＊3		○																	
MULTI CH IN + PLⅡz	＊4		○																	
MULTI CH IN + Dolby EX	＊1＊3		○																	
MULTI CH IN 7.1	＊3		●◎（7.1）																	
DIRECT																				
DIRECT		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
PURE DIRECT																				
PURE DIRECT		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
DSP SIMULATION																				
MULTI CH STEREO		○	○	○				○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○
ROCK ARENA		○	○	○				○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○
JAZZ CLUB		○	○	○				○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○
MONO MOVIE		○	○	○				○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○
VIDEO GAME		○	○	○				○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○
MATRIX		○	○	○				○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○
VIRTUAL		○	○	○				○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○
STEREO																				
STEREO		●	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
MPEG-2 AAC																				
MPEG-2 AAC																			○	
AAC + Dolby EX	＊1＊3																		○	
AAC + PLⅡx CINEMA	＊2＊3																		○	
AAC + PLⅡx MUSIC	＊1＊3																		○	

＊1　メニューの“Speaker Config.”⇨“S.Back”設定（☞58 ページ）が“None”のとき、このサラウンドモードを選択できません。
＊2　メニューの“Speaker Config.”⇨“S.Back”設定（☞58 ページ）が“1sp”または“None”のとき、このサラウンドモードを選択できません。
＊3　このサラウンドモードは、メニューの“Amp Assign”設定（☞58 ページ）が“Normal”のときに選択できます。
＊4　メニューの“Speaker Config.”⇨“Front Height”設定（☞58 ページ）が“None”のとき、このサラウンドモードを選択できません。

入門編
基本編
応用編
情報編

用語の解説

A

Adobe RGB color / Adobe YCC601 color
x.v.Colorと同様、これらのカラースペースは従来のRGBよりも広い色空間を定義します。

Audyssey Dynamic EQ®
Audyssey Dynamic EQは、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。
Dynamic EQは、Audyssey MultEQ®技術と連動することによりすべての音量レベルに対して最適なバランスの音質をすべてのリスナーに提供します。

Audyssey Dynamic Volume®
Audyssey Dynamic Volumeは、テレビや映画など再生されるコンテンツ内における音量レベルの変化（静かな音のシーンと大きな音のシーンの間など）をユーザーの好みの音量設定値に自動的に調整する技術です。
また、Dynamic Volumeは、Audyssey Dynamic EQの技術をアルゴリズムの中に取り込むことにより音量レベルの調節時やテレビチャンネルの切り替え時、ステレオコンテンツからサラウンドコンテンツなどの切り替え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、ダイアログの明瞭さを保っています。

Audyssey MultEQ®
Audyssey MultEQは、広いリスニングエリア内のどのリスナーにも最適なリスニング環境を提供する補正技術です。
MultEQは、複数位置での測定に基づいて、時間特性と周波数特性の双方を補正すると共に、全自動でサラウンドシステムセットアップを実行します。

Auto Lip Sync
Auto Lip Sync機能対応のテレビと接続すると、映像と音声のずれを自動的に補正します。

D

Deep Color
従来の8ビットの色数を超える色調表現が可能な技術で、色縞のない、より自然に近い色を再現することができます。

Dolby Digital
Dolby Digitalは、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマルチチャンネルデジタル信号フォーマットです。
再生チャンネルは、フロント3チャンネル（FL、FR、C）とサラウンド2チャンネル（SL、SR）、低音域専用のLFEチャンネルの合計5.1チャンネルで構成されています。
このため、チャンネル間のクロストークもなく、音の遠近感、移動感、定位感など立体感のある音場をリアルに再現することができます。AVルームでの映画ソフト再生においても、リアルで圧倒的な臨場感を生み出します。

Dolby Digital EX
Dolby Digital EXは、ドルビー研究所とルーカスフィルム社が共同で開発した音響フォーマット“DOLBY DIGITAL SURROUND EX”を、家庭で楽しむためにドルビー研究所が提案した6.1チャンネルのサラウンドフォーマットです。
サラウンドバックチャンネルを含めた6.1チャンネルでの音場再生により、空間表現力、定位感が向上します。

Dolby Digital Plus
Dolby Digital Plusは、Dolby Digitalを改良した信号フォーマットで、最大7.1チャンネルのデジタルディスクリート音声対応とともに、データビットレートに余裕を持たせることにより音質の向上が図られています。従来のDolby Digitalに対して上位互換であるため、ソース信号や再生機器の状況に応じて、より柔軟性の高い運用が可能となっています。

Dolby TrueHD
Dolby TrueHDは、ドルビーラボラトリーズの高精細音声技術で、ロスレス符号化技術を用いることによりマスター音声の忠実な再現を可能としています。
このフォーマットはサンプリング周波数96kHz/24bitでは最大8チャンネル、サンプリング周波数192kHz/24bitでは最大6チャンネルの音声に対応しており、特に音質を重視したアプリケーションに採用されています。

Dolby Pro Logic Ⅱ
Dolby Pro Logic Ⅱは、ドルビーラボラトリーズにより開発されたマトリクスデコード技術です。
CDのような通常の音楽は5チャンネルの信号にエンコードし、優れた立体音域効果を発揮します。
サラウンドチャンネルはステレオ化、フルバンド化（周波数特性20Hz～20kHz以上）し、あらゆるステレオ音源を臨場感豊かな立体音像でお楽しみいただけます。

Dolby Pro Logic Ⅱx
Dolby Pro Logic Ⅱxは、Dolby Pro Logic Ⅱをさらに改良したマトリクスデコード技術です。
2チャンネルで記録された音声をデコードし、自然な最大7.1チャンネルの音声を再生できます。音楽再生に適した“Music”モードと映画再生に適した“Cinema”モード、ゲームをお楽しみになるときに最適な“Game”モードがあります。

Dolby Pro Logic Ⅱz
Dolby Pro Logic Ⅱzは、ソースに収録されている高いところで鳴っている「空間的な手がかり」を持った音響成分から、フロント・ハイトチャンネル信号を生成し出力するデコード技術です。2チャンネルソースや7.1/5.1マルチチャンネルソースなどのあらゆるソースに対応します。
リスニング空間の前方上の左右にハイトスピーカーを加えることで、映画/音楽/ゲームなどの再生により一層の空間の広がり感や奥行き感をお楽しみいただけます。
フロントハイトスピーカーは本棚などに設置できますので、サラウンドバックスピーカーのようにフロアスペースを使わずに、より簡単に理想的なサラウンド環境をつくることができます。

DTS
Digital Theater Systemの略で、DTS社が開発した、デジタル音声システムです。DTS対応アンプなどと接続して再生すると、映画館のような正確な音場定位と臨場感のある音響効果が得られます。

DTS 96/24
DTS 96/24は、DVD-Video上でサンプリング周波数96kHz/量子化ビット数24bitの高音質再生を可能としたデジタル音声フォーマットです。チャンネル数は5.1チャンネルとなります。

DTS Digital Surround
DTS™ Digital Surroundは、DTS社の標準デジタルサラウンドフォーマットで、サンプリング周波数が44.1kHzまたは48kHz、再生チャンネル数が最大5.1チャンネルのデジタルディスクリートサラウンド音声フォーマットです。

DTS-ES™ Discrete 6.1
DTS-ES™ Discrete 6.1は、DTSデジタルサラウンド音声に加えてSBチャンネルを追加した6.1チャンネルのデジタルディスクリート音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の5.1チャンネル音声としてデコードすることも可能です。

DTS-ES™ Matrix 6.1
DTS-ES™ Matrix 6.1は、DTSデジタルサラウンド音声にSBチャンネルをマトリクスエンコードにて挿入した6.1チャンネル音声フォーマットです。デコーダーに応じて従来の5.1チャンネル音声としてデコードすることも可能です。

DTS Express
DTS Expressは、最大5.1チャンネルの24kbps～256kbpsまでのロービットレートをサポートする音声フォーマットです。

DTS-HD
ブルーレイディスクのオプション音声として採用された、従来のDTSをさらに高音質・高機能化したデジタル音声技術です。多チャンネル、高データ転送速度、高サンプリング周波数や、ロスレス・オーディオ再生をサポートしています。ブルーレイディスクでは、最大7.1チャンネルまで対応しています。

DTS-HD High Resolution Audio
DTS-HD High Resolution Audioは、従来のDTS、DTS-ES、DTS96/24フォーマットを改良した信号フォーマットで、サンプリング周波数の96kHz/48kHz対応に加えて最大7.1チャンネルのデジタルディスクリート音声に対応しています。余裕あるデータビットレートによって高音質化を図るとともに、従来のDTSデジタルサラウンド5.1チャンネルのデータも含むため従来製品との完全な互換性を有しています。

DTS-HD Master Audio
DTS-HD Master Audioは、DTS社のロスレス音声フォーマットで、サンプリング周波数96kHz/24bitでは最大8チャンネル、サンプリング周波数192kHz/24bitでは最大6チャンネルに対応しています。また、従来のDTSデジタルサラウンド5.1チャンネルのデータも含むため従来製品との完全な互換性を有しています。

DTS NEO:6™ Surround
DTS NEO:6™は、2チャンネルソースを6.1チャンネルのサラウンド再生するマトリクスデコード技術です。映画再生に適した"DTSNEO:6 Cinema"と、音楽再生に適した"DTS NEO:6 Music"があります。

H

HDCP
機器間でデジタル信号を送受信する際に、信号を暗号化し、コンテンツが不正にコピーされるのを防止する著作権保護技術の一つです。

HDMI
High-Definition Multimedia Interfaceの略で、テレビやアンプなどと接続できるAV用のデジタルインターフェースです。映像信号と音声信号を1本のケーブルで接続できます。

L

LFE
Low Frequency Effectの略で、低音部の効果音を強調するための出力チャンネルです。20Hz～120Hzの重低音を出力することで、サラウンド音声に迫力を加えることができます。

M

MP3 (MPEG Audio Layer-3)
音声データ圧縮方式のひとつで、国際的な標準規格です。映像圧縮方式の「MPEG-1」に採用されています。音楽CD並の音質を保ったままデータ量を約1/11に圧縮できます。

MPEG (Moving Picture Experts Group)、MPEG-2、MPEG-4
デジタル圧縮形式として映像や音声を符号化するために使用される規格群の名前です。動画の規格には、「MPEG-1 Video」、「MPEG-2 Video」、「MPEG-4 Visual」、「MPEG-4 AVC」などがあります。音声の規格には、「MPEG-1 Audio」、「MPEG-2 Audio」、「MPEG-4 AAC」などがあります。

MPEG-2 AAC
MPEG-2 AAC（Advanced Audio Coding）は、MPEG（Moving Picture Experts Group）により開発されたマルチチャンネル音声フォーマットです。
高音質・高圧縮率を確保できることが特長です。MPEG-2 AACにより地上デジタル放送やBSデジタル放送などで配信される高音質音楽番組やマルチチャンネル音声の映画など、臨場感あふれるサラウンド再生が楽しめます。

【米国におけるパテントナンバー】

08/937,950	5,579,430	5,299,238
5848391	08/678,666	5,299,239
5,291,557	98/03037	5,299,240
5,451,954	97/02875	5,197,087
5 400 433	97/02874	5,490,170
5,222,189	98/03036	5,264,846
5,357,594	5,227,788	5,268,685
5 752 225	5,285,498	5,375,189
5,394,473	5,481,614	5,581,654
5,583,962	5,592,584	05-183,988
5,274,740	5,781,888	5,548,574
5,633,981	08/039,478	08/506,729
5 297 236	08/211,547	08/576,495
4,914,701	5,703,999	5,717,821
5,235,671	08/557,046	08/392,756
07/640,550	08/894,844	

S

sYCC601 color
x.v.Colorと同様、このカラースペースは従来のRGBよりも広い色空間を定義します。

W

WMA (Windows Media Audio)
米国Microsoft Corporationによって開発された音声圧縮技術です。
WMAデータは、Windows Media® Player Ver.7、7.1、Windows Media® Player for Windows® XP、またはWindows Media® Player 9 Seriesを使用してエンコード（符号化）することができます。
WMAファイルは、米国Microsoft Corporationより認証を受けたアプリケーションを使用してエンコードしてください。もし、認証されていないアプリケーションを使用すると、正常に動作しないことがあります。

X

x.v.Color
色の表現がより正確になり、自然で生き生きとした映像を表現することが可能になります。
"x.v.Color"はソニーの登録商標です。

さ行

サンプリング周波数
サンプリングとは、音の波（アナログ信号）を一定時間の間隔で刻み、刻まれた波の高さを数値化（デジタル信号化）することです。
1秒間に刻む回数をサンプリング周波数といい、この数値が大きいほど原音に近い音を再現できます。

スピーカーインピーダンス
交流抵抗値のことでΩ（オーム）という単位であらわします。この値が小さいほど大きな電力が得られます。

ゾーン2
本機は、本機が設置されている部屋（メインゾーン）以外のひとつの部屋でも本機の再生をおこなうことができます（ゾーン2再生）。ゾーン2再生をおこなう部屋をゾーン2と呼びます。

た行

ダイナミックレンジ
機器が出すノイズに埋もれてしまわない最小音と、音割れしない最大音との音量差のことです。

ダウンミックス
サラウンド音声のチャンネル数を、より少ないチャンネル数に変換して再生する機能です。

は行

プログレッシブ（順次走査）
映像の1フレームを1つの画像として表示する映像信号の走査方式です。インターレース方式に比べ画像のちらつきやにじみが少ない映像を再生できます。

保護回路
何らかの原因で過負荷や過電圧などの異常が起きたときに、電源内部の部品が破損するのを防止する機能です。
本機では、異常発生時には電源表示が点滅し、スタンバイ状態になります。

ま行

メインゾーン
本機が設置されている部屋をメインゾーンと呼びます。

故障かな？と思ったら

❑ 各接続は正しいですか

❑ 取扱説明書に従って正しく操作していますか

❑ スピーカーやプレーヤーは正しく動作していますか

本機が正常に動作しないときは、次の表に従ってチェックしてみてください。

なお、この表の各項にも該当しない場合は本機の故障とも考えられますので、お買い上げの販売店にご相談ください。もし、お買い上げの販売店でお分かりにならない場合は、当社のお客様相談センターまたはお近くの修理相談窓口にご連絡ください。

【 共通 】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
電源が入らない。または、入れてもすぐに切れる。	• コンセントへの電源プラグの差し込みを点検してください。 • 保護回路が働いています。このような場合、一度電源プラグをコンセントから抜き、5 〜 10 秒後に再びコンセントに差し込んでください。	8 8、81
ディスプレイの表示が消える。	• メニューの“Display”設定を“OFF”以外の設定にしてください。	64
本機を使用中に突然電源が切れ、電源表示が約 2 秒間隔で、赤色に点滅している。	• 機器内部の温度上昇により、保護回路がはたらいています。一度電源を切って、本体の温度が十分下がってから、電源を入れ直してください。 • 本機を風通しの良い場所に設置し直してください。	– –
本機を使用中に突然電源が切れ、電源表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。	• 指定されたインピーダンスのスピーカーを使用してください。 • スピーカーケーブルの芯線どうしが接触したり、芯線が端子から外れたりして、芯線が本機のリアパネルに接触したため、保護回路がはたらいています。電源コードを抜き、芯線をしっかりとよじり直すか、端末処理をするなどした後で、接続し直してください。	7 7
電源を入れても、電源表示が約 0.5 秒間隔で、赤色に点滅している。	• 本機のアンプ回路が故障しています。電源を切り、当社の修理相談窓口までご連絡ください。	–
本機が正常に動作しない。	• マイコンを初期化してください。	84

【 映像 】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
映像が映らない。	• 本機の映像出力端子とテレビの入力端子の接続を確認してください。 • 本機に接続したテレビの入力端子と入力設定を合わせてください。	8 9

【 音声 】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
音が出ない。	• すべての機器の接続を確認してください。 • スピーカーの接続を確認してください。 • 音声の接続をしている機器の電源が入っているか確認してください。 • 主音量を適切な大きさに調節してください。 • ミューティング(消音)モードを解除してください。 • 再生機器との接続を確認し、適切な入力ソースを選んでください。 • デジタル入力端子を割り当てた端子と入力モードを合わせてください。 • 本機の PHONES 端子からヘッドホンのプラグを取り外してください。ヘッドホンのプラグを挿入していると、スピーカーやプリアウト端子から音が出なくなります。	8、18 〜 22 8、35 〜 37 – 23、42 23、42 23、42 51 71
サラウンドスピーカーから音が出ない。	• SURROUND 端子にサラウンドスピーカーを接続しているか確認してください。	–
サラウンドバックスピーカーから音が出ない。	• メニューの“Amp Assign”設定が“Normal”になっているか確認してください。 • メニューの“Speaker Config.” ⇨“S.Back”設定が“None”以外になっているか確認してください。 • メニューの“Surround Parameter” ⇨“S.Back”設定が“OFF”以外になっているか確認してください。 • サラウンドモードが“STEREO”以外になっているか確認してください。	58 58 53 30
フロントハイトスピーカーから音が出ない。	• メニューの“Surround Parameter” ⇨“Front Height”設定が“ON”になっているか確認してください。 • メニューの“Amp Assign”設定が“Front Height”になっているか確認してください。 • メニューの“Speaker Config.” ⇨“Surround”設定が“None”以外になっているか確認してください。	54 58 58
サブウーハーから音が出ない。	• サブウーハーの接続を確認してください。 • サブウーハーの電源を入れてください。 • メニューの“Speaker Config.” ⇨“Subwoofer”を“Yes”に設定してください。 • メニューの“Speaker Config.”の“Front.”、“Center”の設定が“Large”で、なおかつ“Subwoofer Mode”の設定が“LFE”の場合は、入力信号やサラウンドモードによってサブウーハーから音声が出力されない場合があります。	8、35 〜 37 9 58 58、59
DTS 音声が出力されない。	• メニューの“Decode Mode”を“Auto”または“DTS”にしてください。	51

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
Dolby TrueHD、DTS-HD、Dolby Digital Plus の音声が出力されない。	• HDMI で接続してください。	18

【HDMI】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
HDMI で接続したときに、音声が出力されない。	• HDMI 端子の接続を確認してください。 • HDMI の音声信号をスピーカーから出力するときは、メニューの “HDMI Audio Out” の設定を “Amp” に設定してください。 • HDMI の音声信号をテレビから出力するときは、メニューの “HDMI Audio Out” の設定を “TV” に設定してください。	18 60 60
HDMI で接続したときに、映像が映らない。	• HDMI 端子の接続を確認してください。 • 接続した HDMI 端子に合わせて、入力ソースを設定してください。 • テレビが著作権保護（HDCP）に対応しているか確認してください。HDCP に対応していない機器を接続した場合、映像が正しく出力されません。	18 18、23 17
HDMI コントロール対応機器に以下の操作をすると、本機も同じ動作をする。 • 電源のオン / オフ • 音声を出力する機器の切り替え • 音量の調節 • 入力ソースの切り替え	• メニューの “HDMI Control” を “OFF” に設定してください。各機器の電源のオン / オフのみ操作したい場合は、メニューの “Power Off Control” を “OFF” に設定してください。	39、60

【FM/AM チューナー】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
受信できない。または、雑音や歪みが多い。	• アンテナの向きや位置を変えてください。 • 本機から AM ループアンテナを離してください。 • FM 屋外アンテナを使用してください。 • アンテナと他の接続ケーブルを離してください。	22 22 22 22

【iPod】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
iPod が再生できない。	• iPod の接続を確認してください。 • iPod 用コントロールドックの AC アダプターをコンセントに挿入してください。 • 入力ソースを “DOCK” に切り替えてください。 • USB 端子に iPod を直接接続して使用する場合、対応していない iPod があります。	21 – 23 26
ディスプレイに “Connection Error” が表示される。	• 正常に通信できません。本機の電源を切ってから iPod を外し、再度接続してください。 • iPod からの応答がありません。本機の電源を切ってから iPod を外し、再度接続してください。	– –
ディスプレイに “Not Support” が表示される。	• 本機が対応していない iPod を接続しています。対応している iPod か確認してください。 • バージョンが古い iPod を接続しています。最新のバージョンにアップデートしてください。	26 –

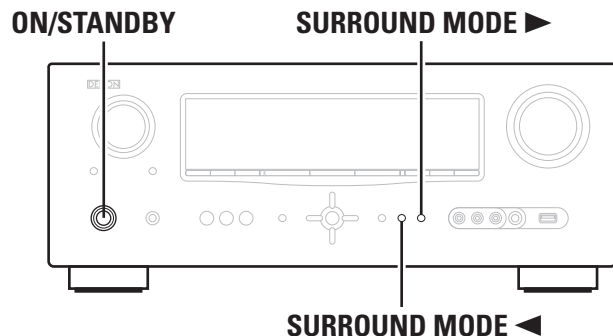
【USB メモリー】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
USB メモリーを接続したとき、メニュー画面に “USB” が表示されない。	• 接続不良などで、本機が USB メモリーを認識できない場合があります。接続を確認してください。 • 本機は、マスストレージクラス対応の USB メモリーに対応しています。それ以外の USB メモリーは認識できません。 • USB ハブを経由した接続はできません。	21 – 21
USB メモリーのファイルを再生できない。	• USB メモリーのフォーマットを FAT16 または FAT32 に設定してください。詳しくは、USB メモリーの取扱説明書をご覧ください。 • USB デバイス内が複数のパーティションに別れている場合は、第 1 パーティション以外は再生できません。 • ファイルが対応しているフォーマット以外で記録されています。対応しているフォーマットで記録してください。 • 本機では、著作権保護のかかったファイルを再生することはできません。	– – – –
ファイル名が “. . . ” など、正しく表示されない。	• 本機で表示できない文字は、“.（ピリオド）” に置き換えて表示します。	24、26
音質が良くない。または再生中にノイズが入る。	• 再生しているファイルのビットレートが低いです。	–
ディスプレイに “Connection Error” が表示される。	• 正常に通信できません。本機の電源を切ってから USB メモリーを外し、再度接続してください。 • USB メモリーからの応答がありません。本機の電源を切ってから USB メモリーを外し、再度接続してください。	– –
ディスプレイに “Overcurrent” が表示される。	• USB メモリーの消費電力が大きすぎます。AC アダプターを接続して電源を供給できる USB ポータブルハードディスクを使用する場合は、AC アダプターを接続してください。	–

【 リモコン 】

症　状	原　因 / 対　策	関連ページ
リモコンを操作しても、正しく動作しない。	• 乾電池が消耗しています。新しい乾電池と交換してください。	74
	• リモコンは、本機から約 7m および 30° 以内の範囲で操作してください。	74
	• 本機とリモコンの間の障害物を取り除いてください。	74
	• 乾電池の ⊕ と ⊖ を正しくセットしてください。	74
	• 本機のリモコン受光部に強い光（直射日光、インバーター式蛍光灯の光など）が当たっています。受光部に強い光が当たらない場所に設置してください。	74
	• リモコンのゾーン操作モードが“ZONE3” になっているときは操作できません。操作をおこなうゾーン（“MAIN(ZONE)” または“ZONE2”）に切り替えてください。	73

マイコンの初期化

表示が正しくない場合や操作ができない場合などにおこないます。
マイコンを初期化すると、各種ボタンの設定内容がすべてお買い上げ時の設定になります。

1 **ON/STANDBY を押して、電源を切る。**

2 **SURROUND MODE ◄ と SURROUND MODE ► を同時に押しながら、ON/STANDBY を押す。**

3 **ディスプレイの表示が約 1 秒間隔で点滅したら、2 つのボタンから指を離す。**

手順 3 でディスプレイの表示が約 1 秒間隔で点滅しない場合は、手順 1 からやり直してください。

保障と修理について

❏保証書について

この製品には保証書が添付されております。保証書は、必ず「販売店名・購入日」などの記入を確かめて販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

保証期間はご購入日から 1 年間です。

保証期間中の修理

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。
詳しくは保証書をご覧ください。

ご注意

保証書が添付されない場合は、有料修理になりますので、ご注意ください。

保証期間経過後の修理

修理によって機能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料修理致します。
有料修理の料金については、「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へお問い合わせください。

❏修理を依頼されるとき

修理を依頼される前に

• 取扱説明書の「故障かな？と思ったら」の項目をご確認ください。
• 正しい操作をしていただけずに修理を依頼される場合がありますので、この取扱説明書をお読みいただき、お調べください。

修理を依頼されるとき

• 添付の「製品のご相談と修理・サービス窓口のご案内」に記載の、お近くの修理相談窓口へご相談ください。
• 修理を依頼されるときのために、梱包材は保存しておくことをおすすめします。

❏依頼の際に連絡していただきたい内容

• お名前、ご住所、お電話番号
• 製品名 ……… 取扱説明書の表紙に表示しています。
• 製造番号 … 保証書と製品背面に表示しています。
• できるだけ詳しい故障または異常の内容

❏補修部品の保有期間

本機の補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後８年です。

❏お客様の個人情報の保護について

• お客様にご記入いただいた保証書の控えは、保証期間内のサービス活動およびその後の安全点検活動のために記載内容を利用させていただく場合がございますので、あらかじめご了承ください。
• この商品に添付されている保証書によって、保証書を発行している者（保証責任者）およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。

主な仕様

❑ オーディオ部

• パワーアンプ部

定格出力：	フロント： 90W+90W（負荷 8 Ω、20Hz ～ 20kHz T.H.D 0.08%） センター： 90W（負荷 8 Ω、20Hz ～ 20kHz T.H.D 0.08%） サラウンド： 90W+90W（負荷 8 Ω、20Hz ～ 20kHz T.H.D 0.08%） サラウンドバック： 90W+90W（負荷 8 Ω、20Hz ～ 20kHz T.H.D 0.08%）
実用最大出力：	フロント： 140W+140W（負荷 6 Ω、1kHz T.H.D 10%、JEITA） センター： 140W（負荷 6 Ω、1kHz T.H.D 10%、JEITA） サラウンド： 140W+140W（負荷 6 Ω、1kHz T.H.D 10%、JEITA） サラウンドバック 140W+140W（負荷 6 Ω、1kHz T.H.D 10%、JEITA）
出力端子：	6～16 Ω

• アナログ部

入力感度 / 入力インピーダンス：	200mV/47k Ω
周波数特性：	10Hz～100kHz — +1、-3dB（DIRECT モード時）
S/N 比：	100dB（DIRECT モード時）

❑ ビデオ部

• 標準ビデオ端子

入出力レベル / インピーダンス：	1Vp-p、75 Ω
周波数特性：	5Hz～10MHz — +1、-3dB

❑ チューナー部

• FM 部

受信周波数範囲：	76.0MHz～90.0MHz
アンテナ端子：	75 Ω
実用感度	1.2 μ V/75 Ω（12.8dBf）
S/N 比：	ステレオ：67dB モ　　ノ：72dB
ひずみ率	ステレオ：0.7%（90% 変調時） モ　　ノ：0.3%（100% 変調時）

• AM 部

受信周波数範囲	522kHz～1629kHz
アンテナ	ループアンテナ（付属）
実用感度	18 μ V

❑ 総合

電源：	AC 100V、50/60Hz
消費電力：	460W（電気用品安全法による） 0.1W（スタンバイ時） 3 W（CEC スタンバイ）
最大外形寸法：	434（幅）× 171（高さ）× 381（奥行き）mm
質量：	10.2kg

❑ リモコン（RC-1146）

乾電池：	R6（単 3 形）乾電池 2 本使用
最大外形寸法：	53（幅）× 224（高さ）× 28（奥行き）mm
質量：	160g（乾電池を含む）

＊ JEITA：（社）電子情報技術産業協会（略称：JEITA）が制定した規格です。

• 仕様および外観は改良のため、予告なく変更することがあります。
• 本機を使用できるのは日本国内のみで、外国では使用できません。
• 本機は国内仕様です。
必ず AC 100V のコンセントに電源プラグを差し込んでご使用ください。AC 100V 以外の電源には絶対に接続しないでください。

索引

株式会社デノン コンシューマー マーケティング

本　　社　〒210-8569 神奈川県川崎市川崎区日進町 2 番地 1
D&M ビル 3F

お客様相談センター　TEL：044-670-5555

【電話番号はお間違えのないようにおかけください。】

受付時間　9：30 〜 12：00、12：45 〜 17：30
（当社休日および祝日を除く、月〜金曜日）

故障・修理・サービス部品についてのお問い合わせ先（サービスセンター）については、次の URL でもご確認できます。

http://denon.jp/info/info02.html

後日のために記入しておいてください。	
購入店名：	電話（　　-　　-　　）
ご購入年月日：　　年　　月　　日	

Printed in China　5411 10422 008D